



冬晴れ(台高 明神平)

中川 光郎

世界の山旅 辺境の旅

世界の山旅を手がけて33年目

—実績と体験に基づいた旅作り—
「一人では行けない、でも、行きたい」
アルパインツアーがお応えいたします。

ミルフォード・トラックと
マウントクック11日間 <関空発着>
出発日 ●1/14 ●1/20 ●1/26 ●2/3 ●2/10
¥438,000~¥586,000

エベレスト展望トレッキングと
シェルパの里9日間 <関空発着>
出発日 ●1/7 ●2/18 ●3/8 ●3/25 ●4/1
¥310,000~¥382,000

キリマンジャロゆったり登頂とサファリ
11・13日間 <関空発着>
出発日 ●1/21 ●1/30 ●2/4 ●2/20 ●3/11
¥542,000~¥558,000

マレーシア最高峰Mt. 荖パル登頂 6日間
出発日 ●2/26 ●3/19 ¥172,000~¥174,000

パイネ山群トレッキング 13日間
出発日 ●1/10 ●2/7 ¥628,000

横断山脈最高峰ニャウネ氷河大展望 6日間
出発日 ●1/19 ●2/9 ●2/23 ●3/9 ¥248,000

新ハイ関西・海外山行
玉山と雪山
台湾の2座登頂 7日間
旅行代金 ¥194,000

旅行期間 2003・4/13(日)~4/19(土)
①関空→台北→阿里山 ②→上東埔→
タタカ鞍部→排雲山荘 ③→玉山登頂
→排雲山荘→タタカ鞍部→東埔温泉
④→武陵→シチカ山荘 ⑤→三六九山
荘→雪山登頂→三六九山荘→シチカ
山荘 ⑥→武陵→台北 ⑦→関空

ルートバーン・トラックと
マウントクック9・10日間<関空発着>
出発日 ●1/4 ●1/9 ●1/16 ●2/13 ●3/22
¥378,000~¥536,000

アンナプルナ・ダウラギリ・パノラマ
トレッキング9日間 <関空発着>
出発日 ●1/7 ●1/14 ●2/4 ●2/11 ●3/4
●3/18 ●4/1 ●5/6 ¥298,000

地の果ての大自然パタゴニア 15日間
<成田発着>
出発日 ●1/17 ●2/4 ●2/14 ●3/9 ¥698,000

海外トレッキング<特設説明会>
◆ネパール・ヒマラヤ 説明会 <1/29>
◆ニュージーランド 説明会 <1/30>
会場：大阪府商工会館 701 入場無料
時間：18:30~20:30
(地下鉄本町駅17番出口・中央大通り沿い)

2/9発「ニュージーランド ルートバーントラック」を歩く8日間 ¥448,000 関空発着

出張説明会 山仲間がお集まりのときに、経験豊かな当社社員がスライド
上映をまじえ説明します。国内・海外のハイキング・登山を問わずいつでも
お気軽にご相談ください。

お問い合わせ・お申し込みは

国土交通大臣登録旅行業490号/(社)日本旅行業協会正会員

アルパインツアーサービス株式会社

大阪支店/〒550-0004 大阪市西区靱本町1-10-22 (8'00'ビル4階)
TEL: 06-6444-3033 FAX: 06-6444-3032
広島支店/〒730-0001 広島市中区本町1-1-1 (広島ビル)
TEL: 082-542-1660

ご請求下さい!

アルパインツアー
総合ツアーカタログ
「世界の山旅・辺境の旅」
海外・国内のハイキン
グ・トレッキング・登山
コース満載! (最新版)



白梅 (道明寺天満宮)

紅梅は華麗 白梅は清楚
 万葉の花は雪のように白い梅
 平安朝は紅梅が珍重される
 きわだつ紅梅色はあの濃厚な紅
 艶やかな色合いを愛でた雙
 紅梅句 裏勃紅梅 濃紅梅
 紅い色は慶祝の色として好まれた
 紅梅の咲くのを待つ春を待つ思い
 花の色は移ろうて蘇芳色になる
 厳冬酷寒の風雪に耐え
 王者の風格を誇る大輪の八重は
 馥郁たる薫香を四隣に放つ
 甘い花の香がただよう
 ふわっと梅の香に包まれて
 春風にゆれる学神嘗公を偲ぶ

梅林 (三輪山を望む)



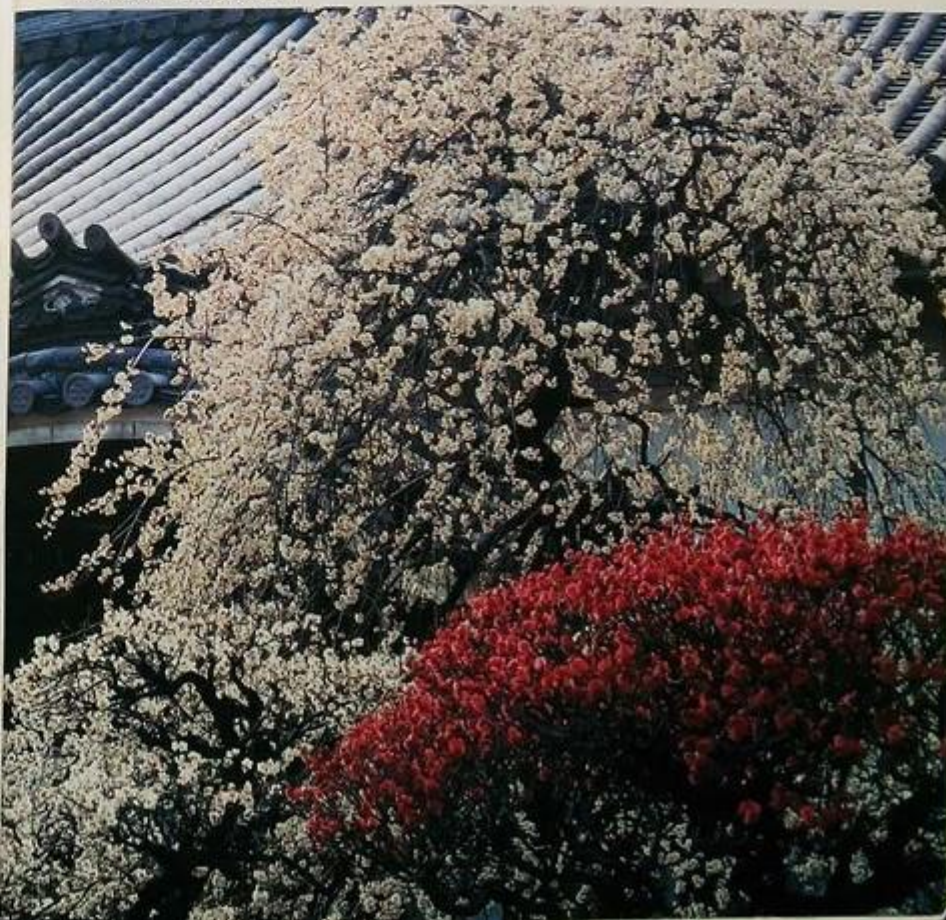
Photo essay

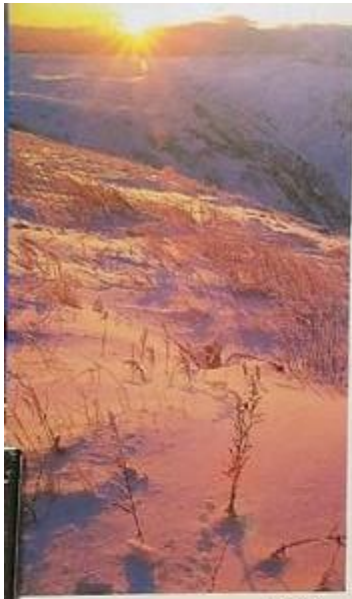
早春の香



題字 中田 蘭石
 撮影 由井 収一
 文 松 永 恵

しだれ梅 (道明寺天満宮)





ご来光

季節の



氷晶

霧氷



実景

美ヶ原高原にて

新春

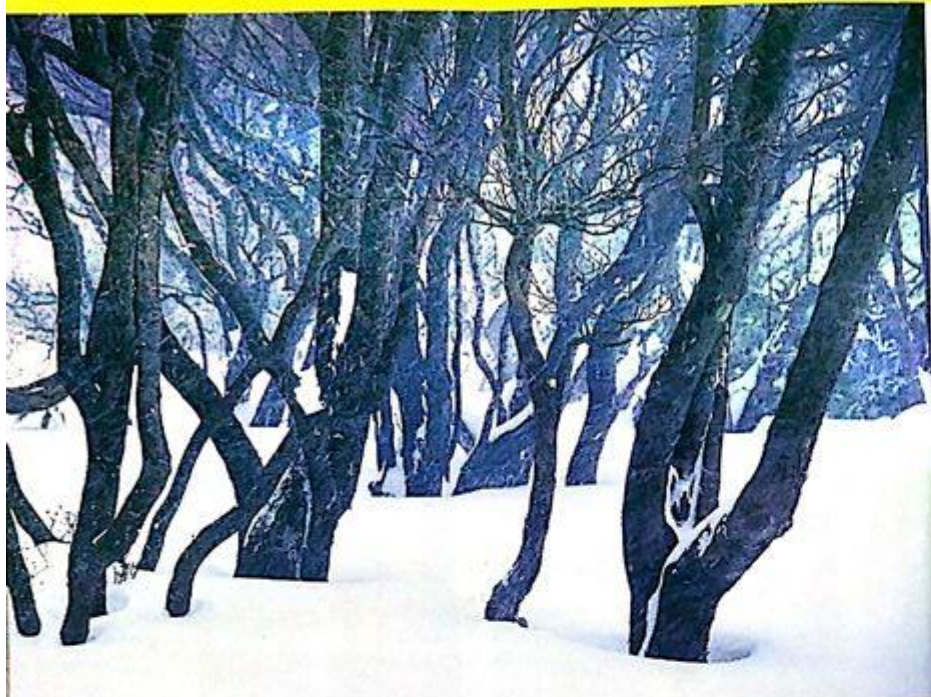
撮影 武市通治



富士遠望

光射す





風雪（御在所岳） 中川 光郎



光射す御池岳テーブルランド（鈴鹿） 小林 実



大正池（上高地） 吉沢 栄一



テーブルランドの霧氷（鈴鹿） 小林 実

二月の高見山 (台高)

奥田 英一郎



エビの尻尾



白い林



祠に伏す白い花

●目次

表紙：松田敏男「夜叉神峠より間ノ岳を望む」(南アルプス)

●作者プロフィール ●1949年、京都市生まれ。京都府立芸術大学卒。1987年より山岳探検、山岳の保護活動に従事。●京都府立芸術大学、南アルプス山岳会、東京ギャラリー(百号、他)、京都山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員

新ハイキング 関西の山
03年1・2月 新春 第68号

● グラビア	早春の香……………撮影 由井 収 文 松永 恵一
(口絵) 中川光郎 小林 実 吉沢栄一 奥田英一郎	武市 通治
● 旗振り通信の研究⑩	淡路・徳島ルート……………柴田 昭彦
● 1等三角点峰(500m以上) 548座完登の記録(第35回)	平成八年の東北・北海道の山旅……………坂井 久光
● 牛尾観音から菅羽山(山科)	文学歴史探訪ハイイク⑩……………中村 敏文
● 大阪・中之島公園を訪ねて(大坂)	● 山のレポート⑦ 山の地名を歩く⑦「湖沼と湿地帯」……………松永 恵一
● 山のレポート⑧ 未年の山……………西尾 寿一	● 山のレポート⑨ 児玉翁の霊跡を訪ねる……………近藤 郁夫
● 山科山(徳州)	● 利神山(徳州)……………慶佐次盛一
● 神明山(鶴倉)	● 藤倉山・鶴倉山(尾形)……………長宗 清司
● 和賀アルプス(尾形)	● 唐草山(大群)……………山形 建生
● 唐草山・綿向山・奥草山・政子(鈴鹿)	● 固無山・綿向山……………金谷 康之
● サレシステーション……………純 昭	● 新ハイキング関西(代巻) 村田 智哉……………純 昭
● せせらぎ……………89	● バス時刻表(比良)……………112
● 新ハイキング山行計画と報告……………84	● 編集後記・広告案内……………110

巻頭言

新しい年になりました。今年も「新ハイキング関西」をよろしくお願い申し上げます。私の初山行は、今年の干支にちなんで未年の櫻ヶ岳に新年会を兼ねてみなさんと登る予定です。本号64ページに生駒さんが紹介されている京都丹波の低山ですが、山頂はよく整備され、干支の山としての立派な山名板があり、見晴らしも丹波の山並が広く眺望でき、きっと正月気分が満喫できるでしょう。

干支の山を登る「十二支会」があるように、何か目的をもって山に登るのは励みになります。全国的に「日本百名山」ブームですが、関西では「近畿百名山」「関西百名山」があり、私は例会で「近畿百名山」に挑戦中で、昨年までに48回の例会を教え、56山にみなさんといっしょに登頂できました。

新ハイキングでは、このほか「自然観察山行」「鈴鹿百山」「鈴鹿を歩く」「京都北山歩き」「比良を歩く」「地図読み山行」など、目的をもったシリーズ山行が多くあります。

今年は、自分の好みを発見し、何らかの目的や目標を定めて登られてみてはいかがでしょうか。

新ハイキング関西(代巻) 村田 智哉

海辺から見た後瀬山



おぼまのちせやま 小浜・後瀬山

紀平 龍雄

夏の終わりに福井県小浜を歩
き、小浜の裏山の後瀬山（17
53）に登った。小浜には、長
年にわたって積み重ねられてき
た関心と期待があった。

高校に入学したとき、だれか
らか体育の先生の名を「うんび
ん」と教えられた。おかしい、
おもしろい名前だと思った。し
ばらくして「梅田うんびん」だ
と追加された。なんだ、「うん
びん」は苗字ではなくて名前か
それにしても変わった名前だ。
そしてまたしばらくして、これ
は本名ではなく、ニックネーム
だと知った。しかし言いやすい
こともあって、私たちは陰で親
しみを込めて「うんびん」と呼
び捨てにしていた。

2年生になり、日本史を習い
始めた。二学期の終わりが三学
期の初め頃か、幕末の授業で教
科書に突然「梅田雲濱」が出て
きて驚いた。

安政の大獄で捕われた勤王の
志士で、若狭小浜の旧藩士と教
えられた。日本史の先生はニヤッ
としながら「本校にも同じ名の
人がおられるらしいが……」と
言う。ああ、そうか。あの先生
のアタナの由来だなと合点し
た。

しかし先生、苗字は梅田だが、
梅田雲濱とどんな関係があるの
か、由来の源までは講義の中身
になかった。「うんびん」先生
は野球部の顧問をしているが、
数年前には甲子園に出場したこ
ともある。中年の、小柄で、笑
顔とチョビヒゲが似合う先生だ
った。小浜浪人梅田雲濱にも、若
狭小浜にも好意を覚えた。

ずっと後、漢詩に興味を持つ
ようになり、雲濱の「訣別」と

いう詩を知った。

妻臥病床兒叫航
挺身直欲当戎夷
今朝死別与生別
唯有皇天后土知

妻は病に臥し、子は飢えに
叫ぶが/私は身を挺して直
ちに外国の勢力(戎夷)に
立ち向かおうとする/今朝
の別れが妻子との死別とな
るか生別となるか/ただ天
地の神(皇天后土)が知る
のみである。

梅田雲濱(1815~1859、
44歳没)、この漢詩は雲濱39歳の
ときのものである。

よかれあしかれ、尊皇攘夷
に対し、こんな気概でもって臨
んだ古人もいた。私がこの詩を
知ったのは、雲濱がこれを詠ん
だ年齢に近かったかもしれない。

学生時代、山川登美子の名を
知った。明治時代の歌人、小浜



随想

出身の女性である。短歌雑誌
「明星」に歌を発表したのがき
っかけで主宰者野野鉄幹の門に
入り、後に彼の妻となる与野野
晶子の歌の友であり、恋のライ
バルでもある。
・やは肌のおつき血汐にふれも
見でさびしからずや道を説く
君
・その子二十梅にながるる黒髪
のおこりの春のうつくしきか
な
・張るみじかし何に不滅の命ぞ
とちからある乳を手にさぐら
せぬ
高校時代、教科書で知った晶
子の歌は奔放華麗、力強く肉感
的で、多感な心を動かされた。
魅力あったが、やは肌とか黒髪
とか乳とか、少し眩しい。それ
よりももう少し引き気味で、清
楚な(しかし強い内面をもって
いるに違いない)山川登美子のほ
うが私には魅力的だった。
・髪ながき少女と生まれしる百

合に額を伏せつつ君をこそ思
へ

この歌で歌壇にデビューし、
それで「白百合の君」と称せら
れるようになった。

・それとなく紅き花みな友にゆ
ずりそむきて泣きて忘れ草つ
む
晶子との恋争いから退いた時
の歌とされる。

・いく尋のなみは帆をこす雲に
突み北国人とうたわれにけり
鉄幹・晶子・登美子、3人は
師弟として短歌の友として急速
に親密さを深めた。1900年

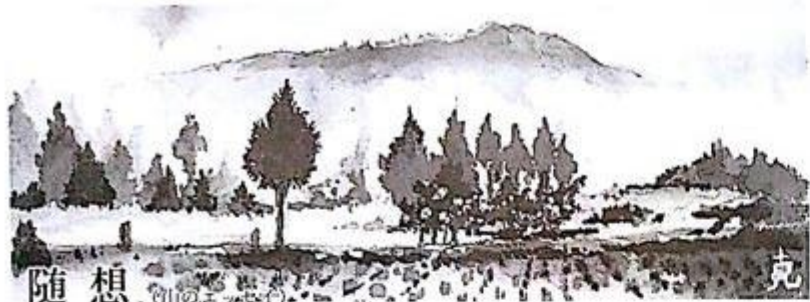
(明治33)秋には3人で京都旅行
もしている。時に鉄幹27歳、晶
子22歳、登美子21歳。晶子は堺
の富裕な商人の娘、登美子は旧
小浜藩重臣(維新後は第25国立銀
行頭取)の娘で、ともに「良家
の子女」である。当時、鉄幹に
は東京にすでに妻子があり、晶
子・登美子は未婚である。いか
に短歌の師であったとしても私

はあまり鉄幹に親しみがもてな
い。やっぱりであり、狭量だろ
う。

結婚2年で夫を病でなくした
登美子は1909年春、故郷小
浜で永眠した。夫と同じ肺結核、
29歳の短い生涯だった。登美子
の死の報に接した鉄幹は強く悼
んだ。

・君なきか若狭のとみ子しらす玉
のあたら君さえ砕けはつるか
鉄幹

甲子園の高校野球と同じくら
い古い歴史をもつ全国高校ラグ
ビー選手権大会は、毎年年末か
ら正月にかけて大阪花園ラグビー
場で行われている。第一回は1
918年(大正7)に始まり、
この冬で第八二回大会になる。
次第に出場校が増え、最近では各
県から一チームずつ出ている。
さて福井県代表だが、72年から
ずっと若狭農林高校である(一
度だけ小浜水産高校)。



随想

食前の散歩に最適、もっと登られてもいいと思うのにだれにも出会わなかった。あまり整備されていないせいだろうか、山頂からの眺めがそれほど開けていないせいだろうか。この時期は海辺を歩くのも気持ちいいだろう。市がもう少し力を入れるといいのに。

戦国時代、若狭守護武田氏が天然の要塞としてここに城を築いた。頂上には石の城垣が残り、その頃からのものであろう、楠の巨木が数本繁っている。小さな「武田氏城跡」の石碑と四阿と拝殿がある。木の間越しに夏の朝の小浜湾が光っている。海岸まで直線距離にして500メートルくらいだろう、昔風の黒い瓦屋根の家が連なっている。山裾の狭い旧道は「後瀬山歴史街道」として観光ルートになっている。すぐ側をJR小浜線が走り、国道27号線が後瀬山をトンネルで貫いている。この山は大きな岩

盤で出来ているようだから、工事はさぞ大変だったろう。

小浜駅近くの児童公園に梅田雲濱像がある。しかしこれは児童公園には不向きなくらいに大きい。梅田雲濱はもう少し小柄な、それにこんなに偉ぶる人ではなさそうに思える。海岸近くに小丘があり、頂上の展望台からは小浜湾が一望できる。その下が小浜公園で、ここにも大きな雲濱の顕彰碑が建てられているが、これは像ではなくて「梅田雲濱先生之碑」という文字だけだから我慢できる。

小浜公園に山川登美子の歌碑が二つある。一つは比較的新しいもので、自然石に「髪ながき少女と生まれしる百合に顔を伏せつつ君をこそ思へ」と彫られている。もう一つは展望台への道の途中、銅板が岩に埋め込まれたもので、「いく尋のなみは帆をこす雲に笑み北国人とうたわれにけり」と読める。

涼しい日が数日続いた夏の終わりで、少し夏の間も眺めたかった。それに加えて秋の気配も感じられるのではないかと贅沢な望みをもって出かけた小浜だが、2日間共とにかく暑かった。台風が近づき、その前触れでフェーン現象が起こり、時どきこんなに耐え難い暑さになることがあるらしい。お気の毒にと宿の人に同情された。

寺院の多いのにも驚いた。小浜は「小京都」とか「海のある奈良」の別称もあるらしいが、なるほどと思う。後瀬山の少し奥の発心寺に山川登美子の墓があり、生家もそのまま残されている。梅田雲濱の墓は松源寺にある。しかしあまりの暑さに耐えられず、予定に入っていた生家・墓訪問などは次の機会に残した。

小浜散策はやはり冬がいいのかも知れない。

(平成14年8月30日〜31日歩く)

後瀬山山頂 (城跡)



若狭農林も小浜水産も小浜にあり、実業高校が活躍するのにも心強い。自身も日本代表の一員になり、後に教師として京都の伏見工業高校を全国制覇させた山口良治や、これも日本代表で名センターと謳われた朽木英次も若狭農林のOBである。だから密かに応援していた。その後、校名変更して若狭東高校となり、また別に力をつけてきた若狭高校とともに福井県代表を競っている。小浜は福井県若狭ラグビーのメッカ、ますます小浜が好きになった。

梅田雲濱と山川登美子とラグビー高校生が私を小浜へ駆り立てる。

小浜の街の裏山が後瀬山である。標高175メートルの低い山だが、街をおおように幅広い山並が間近にあり、古くから山下の小浜の人々に親しまれただろう。「万葉集」にも詠まれており、

歌枕にもなっている。かにかくには人と言ふとも若狭路の後瀬の山の後も逢はむ君(万41737 坂上大娘)

あれこれと、人はいろいろ噂を立てていますが、私はそんなことを気にしていません。あの若狭の後瀬の山にも言われるように、またいつか必ず貴方にお逢いしたいものです。

後瀬山後も逢はむと思へこそ死ぬべきものを今日までも生けれ

(万41739 大伴家持)

後瀬山の名のとおり貴女との再会を待つかからこそ今日まで生きて来れました。本当は死ぬほど、死んでしまいたいほどだったのです。

大伴家持と坂上大娘はいとこ同士であり、幼なじみだった。2人の結婚に何の支障もなかったはずだが、しばらく別離の時があり、その頃の相聞歌である。

後に2人は結婚した。「再会を期す」歌枕として後瀬山は詠まれており、「枕草子」の「山は」の章にも出てくる。しかし後瀬山は小浜の後背の山であり、もともとは「後背」(うしろせ)、あるいは「あとせ」、「のちせ」山だった。ところが「瀬」には「のちに逢う機会」という意味もあり、「後背」が転じて「後瀬」になったのではないかと、というのが私の語源説である。

そんな語源を考えているとパスがJR小浜駅に着いた。旧城下町だから道が入り組み、整然とした区画整理のないのがおもしろい。登山口までは細い道を歩くと幾つかコースがありそうだが、要は南西の方角、直線距離では数100メートルの愛宕神社が登山口である。ここからは20分、30分で山頂に達する。

身近で古い山だから、夏の朝

日生諸島

大多府島周遊

三角点を訪ねるのを目的とする私の山行では、周遊というコースはなかなか取りづらい。特に単独行では行楽的に周遊することなどまずない。どうもひとりではのんびりできない性分らしい。

正月が終わったばかりの1月中旬、まだ寒いのにせつせつと三角点巡り。無数の三角点を目指す私の旅はいつ終わるのか果てしない。

冬季は高い山に入れないので、今年是比较的低地で積雪のない姫路(20万の1地勢図)の2等三角点を目指した。しかし冬には変わりなく、この時期の車での泊まりは寒さが身に染みる(頑張って、頑張って)。

生駒 聳 峰

瀬戸内海

瀬戸内の一隅に浮かぶ日生諸島は大小十三の島々からなり、瀬戸内海の縮図のような美しさで、海水浴や海釣り・みかん狩りなどで親しまれている。

主な島々は下記のごとくで、日生町のパンフレットによると、

鹿久居島

周回28km、岡山県で一番大きい島。島の六割が国の鳥獣保護区に指定され、野生のシカやアオサギ等の鳥獣が多く生息する。また島内には源平合戦の伝説地が多く残り、みかん狩りや古代体験、海辺での学習などができる。古代体験の郷「まほろば」がある。

頭島

周回約4kmと小さい島だが、諸島の中で一番人口が多く、郵便局・小学校・診療所・漁業組合などの施設があり、磯魚料理の味わる民宿・ペンションが20軒ほどある。みかん狩り・海水浴・海釣り・観光底引船・島巡りなど、漁村型リゾート地として賑わっている。

大多府島

周回5km、島の北岸は天然の良港で、南岸は奇岩に富み、「勘三郎洞窟」など大小の洞窟がある。港は元禄十一年(1698)に開かれた古い港で、当時の防波堤が今も残るほか、灯台に当たる「燈籠堂」も再建され、自然研究路や海水浴場、キャンプ・ハイキング・磯釣りなど、四季を通して楽しめる。

また島内には自炊で宿泊休憩できる漁村型リゾート施設・ふれあいの館「かぜまち」が利用できる。

鶴島

周回2kmの丘陵の小島で、高台からは小豆島や四国が展望される。歴史的には長崎浦上のキリシタン信徒が流刑された島としても有名で、明治三年から明治六年4月までの間に117名が開墾に従

事した。その時の信者の墓や殉教者碑など、キリシタン遺跡があり、外国人観光客も時折訪れる。

鴻島

周回12kmで古くは香島・甲島とも呼ばれ、鴻(おとり)がよく渡って来たところから鴻島となった。平安朝の都人が往来したと言われ、御所垣史跡や古墳などが発見されている。



「鴻の泊まり山」の山頂からは、風光明媚な日生諸島が一望できる。春はわらび採り。夏は海水浴。秋にはみかん狩りが楽しめるリゾートの島としても注目されている。

地図を見ると、その他に長島なども日生諸島に含まれてもよいと思われるが、行政上は邑久町になっている。

ところで、私の目的の2等三角点は大多府島にあり、いつかは行かねばならない島であるが、何しろ島のこととて、自分の都合のよいときに走るといわけには行かず、のびのびになっていた。

たまたま私の所属する山岳会の例会で、大多府島周遊が発表された。そこで同じ行くなら仲間の人たちとのほうが楽しいと、参加することにした。

会の人たちは大阪からJR利用の日帰り、日生港10時30分発の船に乗る。私は数日前から周辺の山々を巡り、当日港で合流することにした。日生港はJRの駅から10分余り歩いた所(バス便あり)で、港のパーキングは1時間100円とある。島に渡ると半日くらいは必要だろう。

日生名物の五味の市(皇朝に水揚げされた魚介類が、漁師のおかみさんたちの手で威勢よく売られる。新鮮で値段も安く、特に冬の殻つきの牡蠣には人気がある)は、この港のはずれの魚協にあり、広い駐車場やトイレが設けられ、無料で駐車できる。もともと市場に来る観光客用だが、隅の方に駐車し、パーキング代に干物を少し買っておく。

港までは歩いて5分くらい、出港時間が近づくと、次々と人が集まってきた。NHKの取材班の姿もあり、きょうは頭島で何か行事があるらしい。やがて山岳会の人たちも到着した。

あまり大きくない船は満員で、100人余りの客で溢れていた。10分程で鹿久居島、続いてやはり10分程で頭島に到着すると、ほぼ全員が下船し、終着の大多府島までは私たち以外2〜3人を数えるだけだった。

大多府島港には島の案内板が立ち、パンフレットが置かれている。島の民家は約50軒。島を一周する自然研究路は5kmとあった。

海岸沿いを上がったり下ったり、船上からも見えていた昔の灯台の燈籠堂は、



大多府燈籠堂

立派に復元され威容を誇っている。ここからは展望もすばらしく、静かな海上には、島とは思えないほど大きく小豆島が横たわり、東に家島群島も望まれた。

自然研究路には各所に展望台・休憩所・トイレが設けられ、四国八十八ヶ所にちなんだまだ新しい石仏がまつられている。一周で八十八ヶ所参りができるという発想は、各地の島やお寺で見られるが、これも考えることは同じようだ。

島は最高点でも三角点の40㍎だが、自然研究路は上がったり下ったり、とけっこう歩かされる。島一番の観光名所の「勘三郎洞窟跡」は、海岸の岩場をくぐって岩壁沿いを廻り、岩の割れ目を登った所の洞窟で、昔ここでニセ金造りが行われた所という。一度海岸にくだって登り

返すところがおもしろい。

島をほぼ一周して中央の慈雲寺に到る。展望台のようなハイカラな本堂には弁財天がまつられ、八十八ヶ所の最終寺になっている。新しいおしゃれな建物のお寺である。

お寺の前に盛り上がる森が島の最高点で、目的の2等三角点(41・4㍎・点名大多府島)がある。しかし森に向かう道は山頂に向かわず山を捲いてくだって行く。それならばと適当な所から森に踏み込み、全員でアシヤササのなかをかき分ける。それほど広い場所でもないのに、簡単に見つかると思ったが、台地状で見当がつけにくい。

そのうち1人が、森のはずれで貯水槽を見つけた。後は「点の記」通りの地点に、三角点を発見して一件落着となった。標高たった40㍎の三角点でもこの始末。三角点探しはほんとにほんとにご苦労さん。

14時45分発の船で日生に戻る。日生港で五味の市を覗くと、今ちょうど牡蠣の最盛期で、籠に盛られた殻つき牡蠣の前に、おかみさんたちから「安い、安いよ、負けとくよ」と次々に声が掛かる。もう

午後も遅いので、一籠1000円を二籠

1000円だと言う。こちらは小家族でたくさんは要らないと言うのに、「負けとく、負けとく」と二籠も買わされてしまった。その他にも蛸なども買ったが、とにかく直売で安いことには違いない。

帰宅して数えてみると、何と殻つき牡蠣が200個も出てきてびっくり。生物のことで保存もできず、近所におすそ分けに走り廻った。

市場に張り出されていた牡蠣の調理法に、殻つきのまま電子レンジでチンするとあったが、この方法は簡単に、うまくいった。久しぶりに牡蠣を腹一杯食べられたのも、三角点のおかげかもしれない。

他の島も含めて、大阪方面からは、列車・船と乗り継ぎ、のんびりと島を巡って景色を楽しみ、帰りにはおみやげも買える。1日の周遊にちょうどよい所である。(平成14年1月20日歩く)

△地形図▽2万5千Ⅱ日生

△問い合わせ先▽

日生町観光協会

☎0869(72)1919

駅から上野原コースを登る

南木曾岳

木曾川岸に木曾路の門番のように立つ南木曾岳。先月のキャンプ場からの登山では、雷鳴と土砂降り雨の大歓迎だった。リベンジと青春18きっぷの使い切りをかね、関西からの日帰り登山にチャレンジした。

早朝、JR湖西線和邇駅5時36分発の一審列車に乗る。山科、米原、名古屋、中津川とJRを乗り継ぎ、南木曾駅には10時33分に到着した。帰路は南木曾駅18時24分発に乗ればきょう中に和邇まで帰り着ける。登山に許される時間は7時間51分である。

名古屋では青空ものぞいていたのだが、南木曾駅に降り立つとバラバラと雨粒が

山本久雄

木曾

落ちてくる。雨具を着けるほどでもなく、ヤレヤレと思いつつも重いザックを背負い、かつて三留野宿と呼ばれた町並を通りすぎて行く。このあたりは現在でも静かで、歩いていても家並、道端の野草、まわりの山々のたたずまいなど退屈することはない。読書小学校や等覚寺を通ぎると里道は勾配を増し、大きく曲がり込んで南木曾岳への道標のある登山口となる。

畑をぬうように登って行くと再び道路に飛び出す。すぐにその先の民家の手前に小さな道標が登山道を示している。民家の脇を通り抜けると藪とした林となり、林床には背の低いミヤコザサ、頭

上野原コースの登山口



上は落葉樹・常緑樹を取り混ぜた緑一色の世界で、一気に深山へと誘ってくれる。ひと汗かく頃、急に空が明るくなり、最初の送電線鉄塔へたどり着いた。深く落ち込んだ木曾谷と一気に立ち上がる伊勢山の荒々しい山容と展望を楽しみ、再び深い樹林の登りが続く。

二度目の鉄塔に飛び出したが、ここから見上げる南木曾岳への尾根は、高くて



南木曾岳頂上避難小屋

雨は降ったりやんだりしていたが、雲は意外に高く、遠くには摺古木山から安路山稜線がぼんやりと見えていた。

小屋の中でいくばくかの食事をとり、すぐに下山することにした。少し急げば南木曾キャンプ場、あららぎ山荘から尾越へ出て、南木曾駅行きのバスに乗れそうだったが、濡れネズミでバスに乗るのはちょっと気が引けるので元の道を引き返すことにした。

△コースタイム▽
JR南木曾駅(30分)登山口(30分)第一鉄塔(1時間10分)巨大モミの木(1時間30分)南木曾岳頂上避難小屋(1時間)巨大モミの木(1時間)登山口(30分)南木曾駅
△地形図▽2万5千≡留野・南木曾岳

れ、ため息が出るばかり。いつになったら終わるのか！
そんな気持ちを試しているかのように、登るほどにササはますます背が高くなり、とうとうかき分けて登らなければならなくなってきた。ずっと楽なキャンプ場からのルートが主流となった昨今、このコースが荒れていくのは仕方のないことなのだろうか。

衣服はとっくにズブ濡れで、急な登りに少な少々肌寒いくらいであった。こんな登りを1時間も続けて、1600付近でようやく平らになり、樹林帯が終わった。天気がよければ展望がきくであろうササ原に飛び出し、ヤレヤレと思ったのもつかの間、目の前に大きな岩が立ちはだかっている。その奥にある頂上はまだまだ遠い。

大岩の基部を巻き、三つほどの鋭いピークを上下すると道はなだらかにくだり始め、14時30分頂上避難小屋へたどり着いた。薄暗い樹林のなかの三角点まではあと10分もあれば行けるのだが、体は濡れて寒く、先月訪れたばかりでもあり、本日はここまでとした。

車窓に家々の明かりを映して走る電車が揺られながら、雨に濡れそぼったきょううの山行を思い出し、飲み干すビールがうまいこと。また来るときは好天でありますように！ ベルグハイル！
(平成14年9月歩く)



モミの巨木のある地点

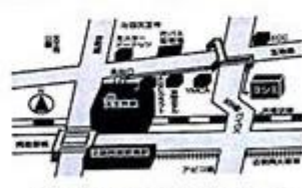
長い。体む気にもなれず、黙々と歩き出す。しばらくは同じような樹林のなかをひたすら上を目指して足を前に出す。登山口から約1時間40分、突然あたりが開けると、尾根の上に幹の直径が2層近い大きなモミの木が、天をついて高々とそびえている。ガイドブックには「大きなブナの木」となっているが、目の前にあるのはまされもないモミの木だった。ウーン？ まったいいか。
腰を下ろすとすぐ横には芽生えたばかりの幼芽が精いっぱい双葉を広げていた。大きく育てよ！とエールを送り、南東へ向きを変え尾根をたどった。ガイドブックには「ここからは巨大樹林のなか」と

書かれているが、他の地域で見かける位の大きさのブナが時折あるだけで、ため息の出るような大樹が連続するわけではない。それよりも、見上げるような急な登りと、雨粒をたっぷり含んだ腰を超え

私達におまかせ下さい。待っています！



●詳しくはホームページを見て下さいネ。
登山用品専門店
△とスキーのヨシモ
〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL 06 (6772) 7231



<http://www.yoshimisports.co.jp/>

JR天王寺駅北出口
より東へ強歩5分

縞枯山と横岳

鷺見守康

八ヶ岳

冬の北八ヶ岳を歩こうと思いついたとき、当初は、雨池峠から縞枯山に登って稜線をたどり、麦草峠まで行って、復路は西側の山腹の道に戻る計画を考えていた。岐阜を夜行で発ち、ピラタスロープウェイのりばに早朝に到着すれば時間的に可能はずだ。

ところが、計画立案の過程で大きな問題に気がついた。うっかりしていたが、利用するロープウェイの始発時間は9時であった。

せっかく早朝に着いても、ロープウェイが動いていないとなれば、わざわざ夜行で発つ意味がないので、計画を変更するしかない。初日の行動は、せいぜい縞

枯山に登るだけにして、岐阜の出発時間も朝9時頃とした。

ピラタスロープウェイのりばに到着したのは13時。今回、特にアクシデントはなかったものの、H・Tさんが岐阜駅での集合時間に遅れ、ひとり後から追いかけて来るようになった。茅野市側から入るこのエリアの公共交通機関は概して不便であるし、積雪期の山だから多少の心配はあったが、H・Tさんの電話の声は明るく快活で、「北八は何回も歩いてはるし、縞枯山荘も知っているから大丈夫」と逆に励まされてしまった。

この例会山行は、土曜日から成人の日

意外にも空いていたのだ。正月直後の連休は、案外、スキー客も少ないようだ。時期としては穴場ということかもしれない。

13時半過ぎには縞枯山荘に到着。時間的な余裕もあり、天候もけっこう安定している。予定の心積もり通りに縞枯山へ向かうこととした。

雨池峠までよく踏まれた幅の広いトレースを行き、勞せずして到着。縞枯山への



登り道もトレースははっきりしているようだ。

北八ヶ岳といえども、降雪直後はトレースが消えてしまうことがある。ラッセルは確実に体力を消耗するし、吹雪ともなれば、かなり辛い状態となる。トレースのない状況に備え、私は、一応山岳用のスノーシューを持参していたが、トレースが明瞭なので使用する必要もなさそうだ。むしろ、しっかり踏み固められたつば足のトレース上は、スノーシューでは歩きにくいだろう。

スノーハイキングのコースとして、厳冬の北八ヶ岳は適当なのだろうか？

個人としての山行ならともかく、新ハイの例会山行だから、正直な話、私には多少の迷いがあった。

もう数年前のことであるが、ある会員の方から手紙が届き、「新ハイの例会山行はあくまでもハイキングの領域で行うべきであり、逸脱するような最近の傾向を憂慮している」という趣旨の忠告をいただいたことがあった。

もともと、私には、沢登りや岩登り、あるいは水雪登攀を目的とする冒険的・探検的な動機もないし、その技術もない。

縞枯山荘の朝（長尾一令氏撮影）



までの三連休にあたっていた。ロープウェイなどのある山では、連休ともなれば観光客やスキー客が大挙して押し寄せて大混雑となり、タイムスケジュールは大幅に狂ってしまいがちだ。当然、今回はスキー場周辺の道路やロープウェイは猛烈に混雑するものと予想していたので、初日の縞枯山は、実のところ半分以上あきらめていた。ところがどうしたことか、

だから「忠告」は素直に胸に落ちたが、具体的なコース選定の際には、今でもいろいろ考え込むことがある。

縞枯山の登りに入ると、雰囲気は雪山の様相となった。積雪は1層をゆうに超えているようだ。八ヶ岳特有の亜高山の針葉樹たちがすっぽりと雪をかぶり、モンスターのようだ。30分ほどで縞枯山に着く。風は肌を刺すように冷たいが、「キューキュー」と雪を踏み締めて歩く感触が心地よい。空は高く見晴らしがきき、トレースもずっと続いている。快適な稜線なので時間を測りながらさらに足をのばしてみた。

やがて、展望台に到着。視界が一気に広がり、雪の八ヶ岳連峰の景観が展開した。「いいな……素敵だな……」としみじみ思う。じんわりと胸を満たす充実感を味わいながら、厳冬のアルプスに友を奪われた人の搜索記録の一篇をおぼろげに思い起こしていた。

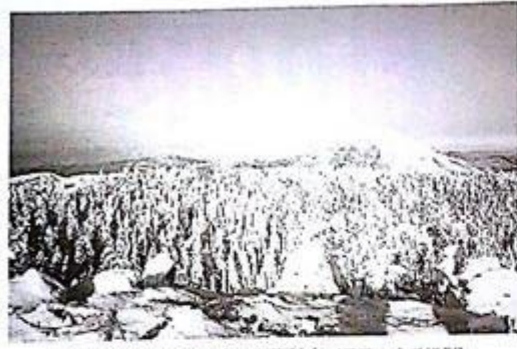
「遭難」と背中合わせのような雪山に自己満足のため出かけ、勝手に死んで家族を失意の底に落とした友に憤りを抱きながら、遺体を求めて残雪のアルプスに登った筆者は、吸いこまれそうな紺碧の



モンスターのような針葉樹 (長尾一令氏撮影)

空にそびえる雪嶺の美しさに慄然とし、雪山に魅せられていく自分自身に困惑するのだった。

15時半前、時間を見て、そろそろ山小屋へ引き返すこととする。雨池峠で三ツ岳からの下山者に出会ったので道の状況を訊いてみた。トレースもなく、腰まで雪にもぐって大変だったと言う。明日、坪庭から北横岳に登った後、七ツ池から



北横岳から北アルプスと蓼科山 (長尾一令氏撮影)

歩くスキーなど冬の野山での遊び方には、私もかなり興味がある。雪のない季節には足を踏み入れることもできない森や平原などをやすやすと歩き廻り、動物のフイルドサインを発見したり、野鳥や樹木を観察したりするのは掛け値なしに楽しい。よく晴れた空の下、真っ白な雪原の真ん中でフナの大樹によりかかすのながら、暖かいランチタイムを過ごすの

三ツ岳に周回しようかとも考えていたが、やはり避けたほうがよさそうだ。

おだやかな落日のなか、自由に歩いて山小屋に向かう。このあたりは歩くスキーのフイルドでもあり、クロスカントリースキーやテレマークスキーのトレースが何本も続いていた。

宿泊した檜枯山荘は三角屋根で知られている。冬は宿泊客があるものの、ピラタスロープウェイに近いせいで、夏にはハイカーがほとんど通過してしまうそうだ。「客があるのはこの季節だけで、夏はガラガラです」と若い従業員は声を潜めた。

この小屋は、オーナーも従業員もいい笑顔を見せるけれど、ひとり、個性の強い高齢の従業員がいて、私たちは「番頭さん」とニックネームをつけた。私たちのメンバーの中には、この番頭さんを煙たがる人もいた。宿泊客の行動を細かく注意するのだ。注意の仕方がどこか事務的で無表情なため感情を害する人もいるのだが、言っていることはもっともで、冷静になれば、宿泊客が公平に気分よく過ごせるように考えてのことだとわかる。

は、どんなにか幸福だろう。今は、スノーシューを使って雪原に向かっているが、スキーであればもっと楽で行動範囲も広がるにちがいない。

この年の3月、かれこれ20年振りにゲレンデスキーをやってみて、改めてスキーのおもしろさを見直した。ゲレンデだけを滑走するのは、やはりもう性に合わないようになってはいるが、スキーで野山を歩いたり滑走したりすれば、きっと人生はもっと豊かなものになると思った。

最近、ネイチャースキーという言葉も誕生している。わが国にクロスカントリースキーが紹介されたのはもうかなり以前のことだが、「クロカン」と親しみやすく呼ばれているわりには、それほど普及はしていないようだ。どうも競技向きのスキーのようで、わが国の森のなかを歩くには不向きであり、滑走するとなれば、幅が狭く金属エッジのない板だから安定性に欠ける。要するに、そんなにおもしろいものではないさそう。

このクロスカントリースキーに比べ、現在注目を浴びているのがテレマークスキーらしい。スキー板にステップカットがあって、そんなに急傾斜でない斜面な

まあ、このあたりの評価はバラつくものの、食事時になるとこの小屋の評価は抜群に高まり、ほとんど全員一致する。「ごはん」が実にうまいのだ。オーナーがこだわっているのだろう。圧力釜を使って工夫しているようで、わざわざ説明があったくらいだ。なるほど、私の体験だけで言えば、わが国の山小屋の中で一番かもしれないと思う。味噌汁もうまい。

私は、北アルプス笠ヶ岳山荘の味噌汁に匹敵するくらいうまいと思った。にぎやかな食事が終わると、私たちは大きな掘炬燵がある談話室に集った。夜が更けるにつれ、小屋内はしんと冷えてくるので、勢い、掘炬燵やストーブの側に宿泊客が集まってくる。

談話室の掘炬燵ではワインや酒など、アルコールで宿泊客同士の交流が始まり、土間ではストーブを囲んで、宿泊客と小屋のオーナーや従業員との話が弾んでいた。私たちメンバーのK・Kさんは、番頭さん相手に盛んにテレマークスキー講習会などの情報を収集している。テレマークスキーへの思い入れがよほど深いのか、ふだんのK・Kさんからはうかがい知れない(?)ほどの熱心さだ。

ら、いちいちシールを装着せずとも歩いて登って行ける。下りとなれば滑走もできるから楽しいにちがいないが、ヒールが固定できないので、ゲレンデスキー(アルペンスキー)のようなわけにはいかない。ジャンプ競技で選手が着地後に行うのをテレマーク姿勢というが、あの独特のスタイルで滑走するのだが、それなりの技術が必要だ。けれど、森で遊ぶにはこのテレマークスキーが適しているようだ。

いずれにしても、「クロカン」というと競技スキーに受け取られてしまう傾向があることから、クロカンの板を使うにしろ、テレマークの板を使うにしろ、森を歩いて楽しむスキーにネイチャースキーというネーミングがなされたらしい。

私は、クロカンやテレマークよりも、やっぱり山スキーのほうがおもしろいのではないかと、とひそかに考えている。山を登るときにはヒールを自在にし、滑走するときにはヒールが固定できる。だから、ゲレンデスキーの経験があれば容易なのだ。数年前、ロシニョールからショートスキー風の新品が出て、価格も安い。そのため、従来の山スキー関係者のなかで

海外山旅



初心者のためのキナバル山
ゆったり登頂と無人島の休日 8日

★ワンラウレストハウスへゆったり2泊します！
★無人島のサビ島でトレッキングをし思いっきりピートでのんびり過ごします。
★ボーターが良質を運ぶので日帰りの軽装でOK!

3月15日(土)～20日(水) 大阪発 195,000円

エベレストゴキョクピーク(8848m)
登頂トレッキング 18日

★エベレスト・チョオオコウ・ローツェマカールなど8000mを超える巨峰を登るという一筋です！
★フライヘットボーターも活用いたします！
★ヒマラヤ登山コースの決定版！

3月18日(火)～4月2日(水) 大阪発 418,000円



らくらくロッジ泊で歩く
ブーンビルトレッキング 11日

★人間コースを日登をほぼしてつくりと歩きます！
★フライヘットボーターが活用します！

3月13日(木)～23日(日)
大阪発 322,000円

天空の絶景世界アマダプ
ベースキャンプ 14日

★おなじみの登山道のことのないペースアップ！
★アマダプ山頂まで日帰りを徒歩で登頂！

2月27日(木)～3月12日(水)
大阪発 388,000円

世界でも美しい谷
ランタン谷トレッキング 9日

★ヘリで一泊山中へ！
★世界でも美しい谷！美しい山頂までが楽しめます！

3月15日(土)～23日(木)
大阪発 345,000円

アルゼンチン・チリ・パタゴニア
ペリト・モレノ氷河トレッキング 8日

★チリとアルゼンチン両国をまたいで、パタゴニアの大自然をじっくりと！
★氷河トレッキングも楽しめます！

2月6日(木)～18日(水)
大阪発 788,000円

スリランカアマダプスピーク
オーロラ・スノー・ハイキング 9日

★大自然の神秘オーロラの出現に期待！
★スノー・ハイキングも楽しめます！

3月5日(木)～9日(日)
大阪発 298,000円

神秘・プータン王宮
プータン王宮・ジャナガハルキング 8日

★神秘的な、プータンの奥地フォアグンでジャナガハルキングを楽しみます！

4月3日(木)～10日(水)
大阪発 398,000円

世界最大の遺跡
アンコール・ワットを歩く 5日

★世界遺産アンコール・ワットをゆっくりと歩きます！

1月31日(土)～2月4日(水)
大阪発 169,000円

スリランカアマダプスピーク
オーロラ・スノー・ハイキング 9日

★スリランカの絶景アマダプスピークでの登山を楽しみます！
★世界遺産アンコール・ワットも登頂します！

3月6日(木)～10日(日)
大阪発 193,000円

ラクダに乗って
シルクロードのオアシス登山道 9日

★シルクロードの歴史を楽しみます！
★ラクダトレッキングも楽しめます！

4月30日(土)～5月5日(水)
大阪発 223,000円

お問い合わせは… 山旅専門旅行会社

アミューストラベル株式会社 国土交通大臣登録旅行業第1366号
日本旅行業協会正会員 ポンド保証会員

〒530-0001 大阪市北区梅田1-1-3大阪駅前第3ビル7階

ホームページ <http://www.amuse-travel.co.jp>
E-mail: amutos@amuse-travel.co.jp

06-6456-3366 FAX 06-6456-3377

海外セミナー

(場所) 大阪駅前第3ビル7階
(時間) 13:30～15:00
ネパール トレッキングの修行

●1月23日(木)
エベレスト・チョオオコウ・ローツェマカールなどのツァーにスウェーデンの山頂を歩きます。

●2月13日(木)
ゴキョク・カウパタルなどネパールの登山ツァーについてご説明いたします。

キナバル 手紙に書ける登山道！

●1月17日(金)
●1月22日(水)
キナバル山、その魅力と持ち物や服装についてご説明いたします。

ご参加お待ちしております。ご予約は下記電話番号まで。

次第に広まりつつあるという。そんな歩くスキーについての情報をもっと集めたい。そして、いつか新ハイ例登山行にも採り上げてみたいと願っている。

すっかり夜が更けてから、私たちは小屋の外に出てみた。星々が手に届くほど近く、満天に輝いていた。

翌日もよく晴れ渡った。まぶしい銀世界に心が弾む。さあ、北横岳(正式名称は「横岳」南八ヶ岳の横岳と区別して「北横岳」と呼んでいる)に向けて出発。

坪庭を越えて登りに入る。トレースはしっかりしており、アイゼンも不要なほどだが、せっかく持参したアイゼンなので、この機会に使おうとメンバーの多くは装着した。45分ほどで北横岳ヒュッテに到着。ここから15分ほどで、横岳山頂に立った。

全方位の眺めがすばらしい。すぐ北に秀麗な山容の蓼科山、南には南八ヶ岳の連山、そして南アルプスの仙丈ヶ岳・甲斐駒ヶ岳・銀岳・北岳・鳳凰三山、中央アルプスの峰々、御岳、霧ヶ峰、美ヶ原、北アルプス連峰、妙高・火打山系、浅間・

志賀山系、秩父山系などがぐるりと取り巻いている。

私は関東方面の山ほとんど不案内だけれど、幸い、この山行には埼玉のA・Yさんが参加しており、A・Yさんのレクチャーで上州の荒船山や妙義山などがはっきり確認できた。

20分ほどで頂上を去り、再び北横岳ヒュッテに立ち寄ってコーヒータムとする。

すばらしい青空の下だから、もっと歩きたいという気持ちがあき、このまま坪庭にくだるものも足りないという声もあつた。もちろん、天候に恵まれた結果であつて、これが吹雪のなかなければ話は違つてくる。今回の山行は、いろいろな天候を想定し、いざという場合にはただちに逃げ込めるよう、山小屋の周辺を歩いてみた。

11時前には下山。蓼科温泉の親湯で体を温め、帰路についた。

(平成14年1月13日・14日歩く)

▲参考タイム▼
(13日 晴れ) JR岐阜駅9・00(貸切バス)ピラタスロープウェイのりば13・00(ロープウェイ)坪庭13・30ー雨池峠

観光バスなら 確実第一の 太陽観光開発株へ!!



- ・小型 (20人・24人)
- ・中型 (28人乗り)
- ・中2階 (45人乗り)
- ・大型 (55人・60人)

いずれもサロンのからデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市溝池本町1-20 オカダビル4F
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

13・45ー鶴枯山14・15ー展望台14・50
15・20ー鶴枯山15・30ー雨池峠15・45
鶴枯山16・00(泊)

14日 晴れ 鶴枯山17・15ー坪庭
北横岳ヒュッテ8・00ー15ー横岳8・30
10・10ー北横岳ヒュッテ9・00ー30ー坪庭
10・10ー20(ロープウェイ)ロープウェイのりば10・30ー40(バス)親湯11・00
(入浴)12・00(バス)おのぎや12・30
(昼食)13・15(バス)岐阜駅16・10
(解散)

▲地図▼昭文社「蓼科・八ヶ岳」

『万葉集』歌枕紀行

三輪山

木村 太郎

大和

大和の地は「万葉集の故郷」と称されている。初期大和王朝から藤原京・平城京と続き、大和に都があった時代に、万葉集の名歌が多く生まれている。飛鳥京と平城京の間に敷かれた山辺の道には各所に万葉歌碑が立てられていて、四季を通じて巡り歩く人が絶えない。

古代大和道の要のようにそびえ立つ三輪山は、日が神となって廻る山と見て「神那日の山」の意の神奈備山、神隠る山として崇拝されてきた。富士山を小型にしたような美しい山容と、国生みの大物主神を祭神とする三輪山の伝承、そして三輪山自体を御神体にした大神神社の成り立ちなど、大和國魂を象徴する名山

と行って過言でないだろう。飛鳥国から近江国への遷都の道すがらに、三輪山を題材にして、額田王が万葉集に長歌と反歌を詠んでいる。三輪山を然も隠すか雲だにも心あらなも隠さふべしや

(巻一〇八)

天智天皇に随行して近江へくだる一行のなかで、額田王が歌ったのは大和を離れる悲しみの心であった。なつかしい三輪山よ、奈良の山々に隠れて見えなくなるまで、いくたびも振り返って見たいのに、その離れたい山を雲が無情にも隠している。後年桜井の粟原寺に帰住した額田王だが、離郷の歌は痛切な嘆きに満

海柘榴市辻の万葉歌碑



ちていたのである。

晩夏の休日、私は額田王が郷愁と惜別を寄せた三輪山を訪ねて、大和路の散策におもむいた。山辺の道の道標に導かれ、桜井駅北口から金屋の村落へ入った。河川敷が公園化された大和川(三輪川)の岸辺と、山辺の道の交差するあたりは、その昔海柘榴市のあった所とされている。

北から続く山辺の道、南は磐余や山田の道を通して飛鳥の道、西は朝倉宮を擁した泊瀬の道、東は二上山柳をたどる竹内の道に連なり、四通八達に街道の拓かれた海柘榴市は賑わった。諸国から旅人の往来があり、物資交易の場だけでなく、いにしへの社交場といえる「歌垣」も行われたという。

紫は灰さすものそ海柘榴市の

八十のちまたに逢へる見はたれ

(巻十二〜三〇一)

たちねの母が呼ぶ名を申さめど

道行き人をたれと知りてか

(巻十二〜三〇二)



「紫草の染料と灰汁で仕上げた色鮮やかな衣装を着た、海柘榴市で出会った貴女は何という名前なのですか。」と男は問う。「母が私を呼ぶ名を明かす前に、貴方の名前を教えてください。道で行き会っただれとも知らない人に私の名は申せませんよ。」と娘は答える。

古代の恋愛は、自ら名のり相手の名を問うことで始まる。王朝時代の優雅かつ婉曲な技巧をこらした手法に比べると、直情径行的でますらお振りが感じられる。その和歌の違いは、「万葉集」と『古今集』の根本に流れる、情緒の変遷にあるのかもしれない。

遠き時代に恋人たちの語らいがあった海柘榴市の三輪山麓は、大和川水運の港が築かれて後、大陸から使節が来訪したり遣唐使が出国したりして、異国文化との交流の風が吹いた。仏教伝来地の石碑が岸に立つ馬井手橋を渡り、山辺の道を北へ歩く。道沿いに残された海柘榴市観音や金屋の石仏は、往古の信仰が、現代へ受け継がれた遺跡物といえよう。

ベンチのある金屋の石仏でひと息入れる。目の前に喜多美術館がある。館の前庭にフランスの彫刻家アルマンの「ヴァイオリン五体」が展示されていた。わが国最古の道といわれる山辺の道のかたわらに、古代の折柄と現代の美術とが融合する空間があり、道行く旅人を不思議な時間に誘い込むようだった。

休息を終えた私は、三輪山平野、等寺の赤門を抜けて、大和国一の宮大神神社の拝殿に詣でた。月次祭に詣でる人の群れにまじり、砂利を敷いた石段を進む。過ぐる年、歌会始で泳まれた美智子妃殿下の歌碑が立つ鎮女池を見て通り、狹井神社に向かった。勤番所で三輪山への入山を申し出て、いただいた白たすきを首にかけ、社殿横の登山口に拝礼してから山



著中集落より三輪山を望む

道に取りつく。

尾根筋への登りがすぐに下りにかかり、溪流沿いの木陰道に変わる。率川神社の三枝祭神事に供えられるササユリの季節も過ぎた、お山の道は目に心地よい緑の木々に囲まれ静まっている。小さな清流の源を求めて進んでいくと、三光の滝に達し、水垢離の修行衣に着替えるための小屋が見えてきた。



著墓と三輪山を望む

玄寶庵を通ると、屏越しに百日紅の花が道にこぼれていた。元伊勢の松原神社三つ鳥居を辞し、境内前の茶店でかき水を注文して喉の渇きをいやした。
崇神天皇らの三輪王朝の時代、伊勢鎮座以前の天照大神をまつっていた松原神社である。その昔の笠縫邑の地に当たる神社前の坂道を真西に歩く。「大和は国

小説家三島由紀夫は、輪廻転生を主題に据えた遺作『豊饒の海』を著すに当たって、夏の真っ盛り三輪山へ登頂している。そのときの取材を生かし、三輪山や大神神社を第二巻「奔馬」の背景につかっている。

小説『豊饒の海』の本多繁邦は、滝浴びしている主人公飯沼助の左脇腹に三つの黒子を見て、第一巻「春の雪」の松枝清頭の生まれ変わりだと直感した。繁邦への清頭の別れの言葉「又、會ふぜ、きつと會ふ、瀧の下で」の瀧は、この三輪山の瀧だった。繁邦が下山の途中、清頭が生まれ変わった勲を発見した瀧場を離れ、神の棲む中津磐座への急峻な山道をひたすら登っていった。

神山ゆえの森厳な雰囲気のために、七五三繩が張られた磐座と神杉を見る。振り返ると晩夏の明るき光に二上山が照らし出されている。たどりついた三輪山(467m)頂上の高宮神社の神前には、三輪山万葉歌の枕詞である味酒と、蛇神への貢ぎ物らしい鳥卵が供えられていた。神社から少し奥へ足をのぼした奥津磐座の岩叢には、信徒が手向けたのであろう酒糟の匂いが立ち込めていた。

のまほろばたなづく青かき山ごもれる大和し美し」の景行天皇の歌碑が立つ井寺池に出る。果樹園の間の道の視界が急にひろがり、二上山を中心にして金剛葛城の峰々が前面に横たわる。さらに前方に著墓の森が見える。

村社国津神社に出合い、国道の方へ少し進んだ。姫の亡骸を大市に葬ったと『日本書紀』は述べているが、三輪保育園と道をへだてた場所に、孝靈天皇皇女の後途途日百觀姫をまつる大市墓があった。この著墓は、昼は人がつくり夜は神がつくったとされている。大坂の山から大市までの間、民びとが道に連なり手渡して墓をつくる石が運ばれたという。

大坂に継ぎ登れる石群を
手越しに越さば越しかてむかも

(崇神紀十九)

崇神紀「三輪山の神」の条に記された古代歌謡が伝える調べを、当時の人々の労働歌と聞くこともできよう。

この神酒はわが神酒ならず大和なす
大物主の酸みし神酒幾久幾久

(崇神紀十五)

同じく崇神紀「三輪の酒宴」の条に、高橋邑の活日が、大物主神にささげる神

私にはその磐座は、三島由紀夫が評していた「難破した巨船の残骸のやう」には見えなかった。けれども「怖ろしいやうな純潔な乱雑さで放り出されてみた」磐座が、「神が一度坐られたあと」の「地上の事物」であるという観察には同意させられた。記紀に書かれた神代の国造りに出現する神々、たとえば大物主神や少彦名神が坐したのであろう磐座であることは確かなことのように思われた。

三輪山著墓伝承というべき物語が『日本書紀』に収められている。夜しか訪れない夫の神に、昼間まで泊まって顔を見せてほしいと妻は頼む。翌朝に夫の入っている櫛笥を開けてみると、小蛇がいたので叫び声をあげてしまふ。夫は恥をかかされた三輪山へ帰ってしまい、後悔の念にかられた妻は著で陰をついて死んだという。

早弥呼にも撮せられている後途途日百觀姫の眠れる著墓が、師木島水垣の地三輪山西麓にまつられている。大物主神の古代遺跡を訪ねたので、次には三輪の神の花嫁御の墓を訪うべく三輪山をくだった。
能曲「三輪」にゆかりの三輪山奥の院

酒を司る掌酒となって歌を詠む場面がある。大和国を建て成した大神がいてこそ、醸して美味い酒が生まれた、幾久しく栄えませと大神をたたえた。古代歌謡からうかがえる当時の人々には、墓作りにする酒造りにしろ、労働への苦しみなどはなく、神々への敬いに満ちていた。

日の昇る三輪山の磐座へ夫の神は帰り、妻の著墓の石は日の沈む二上山から運ばれた。放物線を描いて太陽は移りゆき、二つのお山は結ばれている。

著中の停留場でバスを待つ間、国道側から著墓の大池をへだてて三輪山を眺めてみた。この位置からは、著墓と三輪山が寄り添っているように見えてくる。大神と姫が抱き合っているかのように。
(平成14年9月1日歩く)

▲コースタイム▼

桜井駅北口(40分)馬井手橋(20分)金屋の石仏(30分)大神神社(10分)狭井神社(20分)三光の滝(40分)三輪山頂(40分)狭井神社(40分)松原神社(40分)著墓(5分)著中(奈良交通バス15分)桜井駅北口

△地形図V2万5千II桜井・初瀬

新ハイ関西68号
標高△△68mの山

三峠山 (668m)・丹波 (3068m)・南アルプス (1368m)・加越国境 (568m)・鈴鹿

三峠山

日本山岳会の京都支部例会山行で、この丹波の地味な山に行った。JRの普通列車に乗り、至極のんびりと綾部の少し手前にある安栖里駅に着く。

のどかな山村風景を背に谷道に入り、すぐに支尾根へと上がる。植林のなかの単調な尾根道を進むと、和知の方から伸びている林道に出た。林道が尾根の南側、北側そして尾根上へうねうねと変化しながら続いているので、長老ヶ岳や地蔵杉の大きな山の展望だったり、三岳や小金ヶ岳の小刻みな山稜の景色になったり

と、見飽きない道のりだった。山頂は林道からすぐの所であり、そこは見晴らしのない所だった。

(平成7年1月29日歩く)

▲コースタイム▼

安栖里駅 (2時間30分) 三峠山 (2時間) 安栖里駅

▲地形図▼2万5千 丸原・胡麻・和知

荒川前岳

最高峰の悪沢岳と荒川中岳とを合わせて荒川三山と俗に呼んでいるが、前岳はほんのちよっとした盛り上がりで、3083・2mの中岳の続きみたいな山である。

大なお花畑のなかを赤石岳の前に見てくだる道は、夏山最高の醍醐味のある地点だった。

もう一つは高山裏小屋からの高度差600mの一気の登りだ。これぞ南アルプスといえる豪快な登りだ。そして山頂近くで突然赤石岳や大沢岳などの南側の景色が目に見え、越前甲という名で知られている。この山は1319・6mの小さなコブなのだが、九頭竜川に張り出している威風堂々とした風格がある。最高点はその北西の奥にあり、県境からはずれて、すっきり石川県の山となっている。

大日山

北陸道の福井北インターを降りて、九頭竜川沿いの国道416号線を上流に向かって勝山市の奥、または白山方面へ行くことが多い。そんな道のりに大きく望む目立つ山が大日山である。岩壁が鋭くように見え、越前甲という名で知られている。この山は1319・6mの小さなコブなのだが、九頭竜川に張り出している威風堂々とした風格がある。最高点はその北西の奥にあり、県境からはずれて、すっきり石川県の山となっている。

三子山

鈴鹿峠のトンネルの上に車を置いて、まず西側の高畑山に登り、早い時間に下山したので反対側にある三子山にも登った。印象に残るものはないが、積雪の多いときにちよっと雪山を散策するにはいいコースかも知れないと思った。

(平成8年9月29日歩く)

▲コースタイム▼

鈴鹿峠 (1時間30分) 三子山 (1時間) 鈴鹿峠

▲地形図▼昭文社「御在所・鎌ヶ岳」



大聖寺平から荒川前岳 (左) と悪沢岳 (右)



アフリカ最高峰、ポレポレ登山

キリマンジャロ

金谷 昭

タンザニア

日本から氷雪のシベリヤと熱砂のサハラ砂漠を縦断する丸2日間の飛行機の旅を終え、キリマンジャロ空港に降り立つと、むっとする熱風とともにアフリカ大地の感触が足元からのび寄ってきた。長年夢にまで見たキリマンジャロ(5895)登山の第一歩が始まると思うと心踊るものがあった。

60歳台後半になってのリタイア。高齢で自由の身になっての高所登山はやや遅きに失し、一抹の不安があったが、昨年、新ハイ関西10周年記念のキナバル山行の際ツアーリーダーのO氏にキリマンジャロ登山の詳細をうかがったところ、年齢は関係なく、問題は高度順化に絞ら

れた。未体験の高所登山に最善の努力をし、登頂できなかった場合は潔しと決心した。

飛行機乗り継ぎ地のアムステルダムにて成田発組と合流したが、私が最長老と思っていたのに、なんと70歳の男性(60歳より登山開始、ヒマラヤ登山経験あり)と同年齢の女性(三味線師匠、世界の辺境地の登山経験あり)が参加されていて、その若々しさには驚かされた。

キリマンジャロ山麓の町モシはすでに高度13000で熱帯にしては涼しく、酒なホテルの朝は快適であった。ガーデンテラスでの朝食時、黒人のウエイト

多くの登山者は中腹(4000)以上で高山病にかかり、サミット(最高峰)ウフル・ピーク(5895)まで行けるのは半数以下になってしまうとのことである。登山の素人が楽に登頂するかと思えば、ベテランが高山病で途中敗退し、場合によっては後遺症で命を落とすこともあるという。高所では酸素濃度が少なくなるとともに、酸素低下を補うため呼吸が激しくなり、そのため過換気によって体内水分が奪われ、血液が凝って体内酸素の循環がさらに悪くなるためとされる。頭痛・吐気・脈拍亢進に襲われ、重い場合には肺水腫・脳浮腫・眼底出血等で死にいたるといわれている。この高山病対策として、文献やツアーリーダーの説明によれば、

- ① 歩行はポレポレ(スワヒリ語、ゆっくり・ゆっくり)で絶対に頑張らない。ゆっくり登山で身体をできるだけ使わず、騙し騙しの歩行で疲勞しないことが第一である。
- ② 体調をベストにして飲酒は厳禁。煙草は肺炎等の合併症を誘発しやすいので避けるべきである。
- ③ 深呼吸(腹式呼吸)に努める。鼻か

ら吸気し、吐気は腹から押し出すようにする。これは普段のトレーニングで体得できる。

- ④ 身体を冷やさない。特に頭の防寒が大切。身体の震えは酸素消費量の増加につながる。
- ⑤ 水分を多くとり、利尿をはかる。これには一日に食事を含めて5リットルの水をとる。さらに予防薬として、アセトゾラミド(薬品名・ダイナモックス)を服用する。

この薬は脳や末梢血管を拡張し、血液流量を増やし脳の酸素不足の改善や呼吸中枢を刺激し、全身の低酸素状態を改善するといわれ、緑内障・利尿・睡眠時無呼吸症候群に有効とされている。一般に市販されておらず、家庭医の処方箋により入手(錠・250g、グラム、33円)したが、副作用は手足の先が多少しびれる程度で、マイルドな薬である。

なお隊では応急処置のため、酸素ボンベやガモフバック(携帯圧装置)が準備され、登山の安全がはかられていた。

登山基地のマラング・ゲートにはキリマンジャロ国立公園の管理事務所がある。

キリマンジャロ主峰キボ峰とセネシオンの樹林



レスから「キリマンジャロが見えるよ」と言われ、目を凝らすと木の間越しに雪を頂いた山頂が望め、一同初見参に歓喜した。

朝食後、登山に不要な荷物はホテルにデポし、車で登山基地のマラング・ゲートに向かった。なお、今朝より高度障害に備えて、ダイナモックス(利尿剤)を一錠(250g、グラム)服用した。

入山には登山予約が必要である。入山者数が山小屋収容人員をオーバーすることなく、盛夏の日本アルプスのように一畳に数人といった混雑は全く考えられない。一つのベッドに1人の快適なもので、オーバークイズの問題も起こりにくい。

予約済みの入山手続きをする。現地ガイド、ポーター及びコックが紹介された。ツアー隊15名に対して、ガイド5人・ポーター19人・コック3人の総勢17名だった。

貴重品・雨具・水筒・弁当・カメラ等は各自携行し、他は全てポーターに預けての軽装登山となった。なかにはバーンナル・ポーターを雇った(全行程40ドル+チップ10ドル)人がおられたが、後程、登頂日にトラブルが生じた。なお、ストックその他登山用具のレンタルもある。

出発は手続きその他で11時となった。マラング・ゲートはすでに高度18000、最高峰まで高度差約41000を実働4日で登ることになる。チーフガイドを先頭に極めてポレポレの登頂となった。登山道は熱帯ジャングルのなか、幅3リットルのよく手入れされたゆるやかな道であった。道両側には側溝と要所に横断溝が設

けられ、土砂の流出はない。岩石も出てない歩きやすい道でもあった。歩行45分に15分の休憩。一ピッチごとに休憩所(トイレ付)があり、ちょうどよい間隔であった。

行き交う現地ガイドやポーターには「ジャンボ(こんには)」を、また外国人登山者には「ハロー」の言葉を交わすが、さすがアフリカの最高峰だけに、英・米・仏・伊・独・スウェーデン・イスラエル・韓国・日本人と多彩であった。同行のツアーリーダーは過去20回の案内経



キリマンジャロ登山略図

験から、下山者の顔つきでサミット登頂者かどうかがだいたいわかると言う。私もサミット登頂者の顔つきになれるようにしたいと思った。

途中の休憩所で昼食。配られたランチボックスにはトースト・茹でタマゴ・チキン・チーズ・ソーセージ・クラッカー・チョコレート・人参・果物(モンキーバナナ・マンゴ)等が入り、まずまずの内容で全行程ほぼ同じであった。タマゴの卵黄は餌の関係で白色であり、ホテルのスクランブル・エッグも白一色であった。

水は各ロッジでミネラル・ウォーター(1・5リットル、2ドル)が購入できた。

樹木は30リットル以上に達する巨木が多く、信州によく見られるサルオガセが寄生している。少し陽の当たる所には日本では言う藪が人の背より高くなるのびているが、現地では食用にされないと言った。

樹林帯をきわめてゆっくり歩き、15時25分に宿泊地マングラ・ハット(高度2700リットル)に到着した。樹林帯のなかの

近もガスにおおわれてくるが、夕方以降、気温の低下とともに地表付近の気も冷えて雲は消え、20時頃には3000リットル以下に後退するのが通常である。

登山は年間を通じて可能だが、3月末から6月末と10月から12月初旬の雨期を避け、1・2月の小乾期と7・8・9月の大乾期が最適となっている。

今夜からは指先を挟んで計測するパルスオキシメーターによる動脈血酸素飽和度と脈拍の検査が行われ、高度順化の程度がチェックされる。幸い私は全行程を通じて数値は安定していたが、ダイナモックス服用のため、夜間は小用のために数回起きねばならなかった。その際、見上げる空には南十字星とニセ十字星等が輝いていた。

朝は6時30分に日の出を迎え、コックの洗面湯のサービスとモーニングテイ



マウエンジ峰

から始まった。朝食はお粥・スープ・トースト・タマゴ・ソーセージ・人参・果物とまずまずであった。特にお粥は隊や個人持参の梅干・ふりかけ・醤油を添えて大好評であった。各自持参のテルモスに熱湯のサービスを受け、日本茶のティーバッグを入れ、登山中の飲み物としたのも好評であった。

きょうはホロンボ・ハット(高度3720リットル)まで。高度差約1000リットルを約6時間もかけてのポレポレ登山である。8時出発。しばらくは樹林帯であったが、きのうと同じ一ピッチ45分の歩行で、第一回の休憩所からは灌木帯に入り、見通しがいってきた。するとキリマンジャロの衛星峰のマウエンジ峰(5151リットル)の険しい岩峰が右奥に現れた。スケールからいって比べものにはならないが、阿蘇の根子岳のような山容をし、主峰阿蘇高岳との関係は、キリマンジャロ主峰キボ峰とマウエンジ峰との関係に似ていると思っただ。

マサイ族の伝説によると、昔2人の兄弟(キボとマウエンジ)があり、パイプ煙草を吸っていた。しばらくして、マウエンジが二度目の煙草を吸おうと願った

少し開けた所に、あたかも白川郷の合掌造りのような三角形の木造の建物十数棟で構成され、大きなロッジは一階食堂、二階は蚕棚のベットルーム。小さなロッジはユニットの8人収容の宿泊棟だった。全棟は、屋根北面のソーラーパネルによる発電の蛍光灯が付いているが、本日は曇りがちで夜間照度は暗かった。トイレは男女別の水洗式となっている。

夕食は一応フルコースとなっている。アスパラガスのスープ・トースト・ヌードル・野菜いため・タマゴ・チキンフライ・ソーセージ・果物(モンキーバナナ・パイナップル・スイカ等)・コーヒー・紅茶となかなかバラエティに富んだものであった。

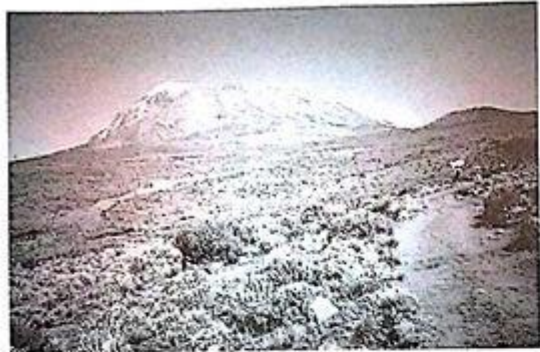
午後から曇りがちで時どき小雨も降ったが、夕方は晴れてきた。典型的な一日のパターンは、早朝のクリスタルクリアー(透き通る大気)から始まり、最高峰ウフル・ピークからは北にケニヤ山、西にメルー山が見られる。10時頃より地上が暖かくなると水蒸気が発生し、中腹3000リットル付近まで雲におおわれる。場合によっては雨となり、中腹以下のジャングル成育の要因ともなっている。午後は山頂付

が、キボは弟の不摂生をなじり怒って、弟のマウエンジをどつき廻し、顔に醜い傷をおわせた。以後、マウエンジは醜くなった顔をいつも雲で隠すようになったという。

次の休憩所ではチーフガイドが道端でカメレオンを捕えて見せてくれた。最初はトカゲかと思ったが、よく見るとカメレオン。その手足の指は大きく二本と三本に分かれて物をつかみ、大変おとなしく逃げる気配はなかった。

14時25分にホロンボ・ハットに到着。ここは広い尾根の台地で、きのうのマンダラ・ハットと同じようなロッジ構成となっている。トイレはやはり男女別のトルコ式の水洗である。各ロッジには同じくソーラーパネル(スウェーデン製)が付いているが、ここは日照時間が長いためか屋内の蛍光灯はけっこう明るかった。

ここにはレスキュー隊が常駐し、ソーラー発電による無線で上部キャンプと交信し、安全を図っている。われわれのツアーはここで2泊し、高度順化をはかることとなっている。夕食は昨夜とほぼ同じ内容だった。ば



ホロンボ・ハットからキボ・ハットへの道

つかれなかった。
23時に起床。直ちに軽食となる。食べやすい流動性の食事としてせんざいが出された。食の進まない人を尻目に、餅とともに二杯平らげたが、登頂エネルギーの蓄積には正解であった。結果的には食の進まぬ人のなかで、最高峰登頂者はおられなかったようだ。

午前0時20分、防寒具・ヘッドランプ

ちほち頭痛を訴える人が出てきたが、比較的皆元気であった。

ところが夜、私は時差や飛行機の疲れからか下痢してしまった。高所登山には脱水症状が一番の禁物。すぐ下痢止めを飲み、翌日の高度順化のトレーニングは大事をとって休養することにした。翌日の食事は消化のよいものを選び、スポーツ飲料やお茶で脱水状態の改善に努めることにした。この地に及んでの下痢とは残念で、果して登頂できるのだろうかと思いついて、一晩中熟睡できなかった。翌日の午前中は高度順化をかね、マウエンジ峰近くのゼブラ・ロックまでのトレーニングが行われたが、私を含めて3人が休養した。

夕方近く、上部からすごい速さで一輪車の上にシュラフに包まれた高山病患者が運ばれてきた。登山道は比較的平坦であるが、道の横断溝での振動で、横たわる患者には大変苦痛であろう。瞬く間に見えなくなってしまう。あすはわが身かと心配したが、きょう一日の休養があったのであろうか、下痢は一過性のもので、夕方には体調を持ち直し、パルスオキシメーターの検査でも異常が出なかつ

た。

6時起床、8時出発。きょうは最高宿泊地のキボ・ハット(高度4700m)までの高度差約1000mを約6時間をかけての登りであるが、前日のトレーニングや休養が効を奏してか、全員が元気である。きのうに続く灌木帯を少し登ると、草原地帯となってさらに見晴らしがよくなってきた。キリマンジャロが頂上に白く輝く氷河を頂いて全容を現してきた。主峰キボ峰は東にマウエンジ峰、西にシラ峰を従えて、堂々たる山容で君臨している。日本の御嶽とスケールは比べようもないが、よく似たコニーデ型の独立峰。赤道直下で氷雪を頂く姿はスワヒリ語で、キリ(丘)・マンジャロ(輝く)の語源となっている。

草原地帯を行くとエーデルワイスのような背の低い草花(ヘバーラスチングフラワー)とサボテンを思わす3げはあると思われる木(セネシオン)が熱帯高地の雰囲気を感じさせている。最後の水場を過ぎ、高度4200m付近より砂漠になってきた。ゆるやかな鞍部のサドル(ベンチ・トイレあり)にて昼食となった。この高度ともなると日照があっても風はけつ

こう冷たく、それぞれ岩陰で風を避けての昼食となった。

サドルを越えると地面が硬くしつかりしてきて、土漠の荒れ果てた地表となる。月の地表写真が連想される。ローアールトと呼ばれている砂礫地帯で、そのなかに登山道がはるかあなたにまで伸び、その先にキボ・ハットの屋根らしきものが見える。射程範囲に入ってひと安心したが、例のポレポレ歩調でなかなか近づかない。

キボ・ハットが間近になると道は少し勾配がきつくなった。高度障害の影響であらうか息苦しくなり、超ポレポレの歩行で到達した。キボ・ハットの建物は建設資材入手の関係から現地産の石造りで、宿泊棟は平屋建て二段ベッドで、乾燥した土漠のなかにあるため、何となく清潔な感じである。トイレは崖っぷちにあり、地中の深い穴への落とし込み自然乾燥式だが、乾燥地帯のためか臭気はほとんどない。

夕食は例のフルコースとほぼ同じ内容でまずまずであった。今夜出発の指示事項を聞き19時に就寝となったが、登頂の不安で少し興奮気味になり、なかなか寝

を着けてガイド先導で出発したが、満月で目が慣れてくると、ライトは不要であった。道は砂礫のガラ場になるやかにジグザグが切られている。ここまでのルートと異なり、かなりの急勾配で、薄い酸素とあいまって、登り始めは苦しかったが、例の腹式呼吸が効いてきたのか、そう苦痛は感じられなかった。

途中のハンスメイヤーズ・ケープにて一行全員の体力別の班構成が行われた。一応、私は元氣組の先頭グループに入り、超ポレポレで登って行くが、満月に照らし出されている稜線にはなかなか近づかない。稜線近くになって岩の間を歩くようになると、先行の別隊に追いついてしまった。ガイドは彼らを避けて別ルートを登って行くが、正規のルートより勾配がきつい。途中で小休止をしたところ、ガイドの「すぐ近くだ」との声に励まされ、やっとの思いで稜線に飛び出した。何と、そこがギルマンズ・ポイント(5685m)であった。小さな鞍部で非常に狭く、英語の表示板が設けられていた。

ここで後続の人たちを待たせたが、昨夜の申し合せでは、7時30分までにギルマ

ンズ・ポイントに到達できない人は最高峰ウフル・ピーク(5895m)への登頂は諦めることになっている。ギルマンズ・ポイントから最高峰へは高度差約210mであるが、高度障害による思考錯乱や体調不良のための、途中引き返しによる滑落事故の例があり、最高峰へは体調のよい者のみで、ここから途中までの登行は認めないとのことであった。

前夜、パーソナル・ポーターの中で防寒具のない者は登頂できず、そのため他のポーターに荷物を預ける者や、頂上登行時のみパーソナル・ポーターに荷物を預ける者等がいた。ポーター1名で2、3人の荷物を持った結果、ギルマンズ・ポイントへの登頂の際に暗闇と歩調の乱れとで、ポーターを見失い、同ポイントで防寒具・弁当・水筒を手にすることができず、最高峰への登頂ができなくなったトラブルがあった。

同ポイントの夜明けの気温はマイナス12度であったが、快晴無風でそう寒さは感じなかった。最高峰ウフル・ピークはギルマンズ・ポイントと同じ火口壁の稜線の高まりの最高点である。同ポイントよりすぐ近く



最高峰ウフル・ピーク登頂

に見えており、2時間は十分にかかると言われたが、そんなにかかるとは思えなかった。しかし、さすが6000m付近に近づくだけで、少しの登りでもしんどく、やはりここぞ超ボレボレである。いったん、火口壁の噴火口にくだと雪が出てきたが、凍結しておらずアイゼンを着けるほどでもない。万一スリップしたら火口底に滑落する所である。



ウフル・ピークの頂上氷河

登頂には最低5日を要し、各1日で約1000mずつ高度を上げて行くため持久体力が必要である。高度障害の問題を別にして、新ハイ例会の健脚コースがこなせば登頂可能である。装備は冬山から夏山までの衣服が必要であるが、アイゼンやピッケルは不要で軽登山靴で十分である。

最高峰ウフル・ピークの登頂者には金

6時30分の日の出近く、火口壁の内側を捲いていた道から稜線に出ると、砂礫のなかのしっかりとした踏み跡となった。目の前に頂上からラッツェル氷河が中腹の砂礫帯に向かって流れ出し、その一部は青氷となって光っている。熱帯の分厚い大氷河にしばし見とれた。

頂上にいる登山者がすぐ近くに見えるが、行けども行けども近づかず、途中二度休憩し、結局1時間40分かかって頂上に到達した。

長年夢見て来たキリマンジャロ山頂に今いるのだと思うと、思わず万歳の手を上げ、感激いっぱいであった。頂上は広く、360度の大展望。西の方にはメルー山が見えた。世界一高い火山で直径2・4kmのクレーターがあり、お鉢めぐりは出来ないことはないらしい。頂上北方には棚田のようになったノーザン・アイス・フィールドがあったが、火口底の雪は極めて少なく砂漠のようであった。

宿願のキリマンジャロ頂上を極めた充実感と、去り難い思いを胸に下山に移ったが、ギルマンズ・ポイント手前の火口壁の側道からの登り返しは辛かった。同ポイントに戻ってみると、何と隊最

長老のK氏が登って来られていた。間もなく71歳に手の届く高年齢で、時間の関係で最高峰の登頂は諦められたが、立派なものである。

キボ・ハットへの下りはわが国の富士山のそれとよく似ている。上部は岩石帯、中腹以下は砂礫の砂走りのジグザグ道で、砂走りで一気に駆けおろすが、疲れた身体では走るわけにいかず、ボレボレのマイペースであった。この頃になると高度順化ができ、酸素が濃くなる一方なのか、呼吸のことは全然気にならなくなった。昼食後、キボ・ハットを後にして、今夜の宿泊地ホロンボ・ハットに向かった。

もう二度と来ることはないと思われるキリマンジャロの山頂氷河を振り返りつつ、臉に残るウフル・ピークを思い出しつつ、どんどんくだっていった。

ホロンボ・ハットに着くと最高峰登頂者は他の登山者から祝福され、感激ひとしおであった。

翌日は一気に登山基地のマラング・ゲートまで下山したが、登山を通して感じたのは、登山道はよく整備されており歩きやすく、特に技術を要する所はないが、

色の、ギルマンズ・ポイントまでの登頂者には銀色の登頂証明書が交付された。

ガイド・ポーターやコックの費用支払いが済んだ頃、土産物売りがわれわれに付きまとい、あちこちで値切交渉が始まった。するとわれわれのポーターやコックが「安いよ、安いよ」と物売りに加勢し、賑やかな値引き合戦となった。

最後は、ガイド・ポーターやコックによる「キリマンジャロ賛歌」の大合唱で締めくくったが、その頃になると女性登山者のなかには別れを惜しみ、涙ぐむ人もいたようであった。

夕方、アルーシャのホテルに入り、久しぶりに入浴した。夕食は早速、解禁となったビールで乾杯し、久しぶりにゆったりとした食事の時間を過ごした。当地産のキリマンジャロ・ビール(500cc、2ドル)の味わいは日本のそれと全く同じで、この時始めて、今まで忘れていた日本のことを思い出した。

翌日は気楽にサファリを楽しみ、やはり2日間をかけてオランダ経由にて帰阪した。

自宅に着くと、愛犬は喜びを全身で表わして迎えてくれた。妻よ、友よ、私の

宿願とわがままを許してくれて本当におりがとう。ただ感謝あるのみ。

(平成14年1月23日〜2月2日歩く)

▲コースタイム▼

- 〈25日〉登山基地マラング・ゲート(4時間) マンダラ・ハット(泊)
- 〈26日〉マンダラ・ハット(6時間10分) ホロンボ・ハット(泊)
- 〈27日〉高度順化のトレッキング・休養。ホロンボ・ハット(泊)
- 〈28日〉ホロンボ・ハット(6時間) キボ・ハット(泊)
- 〈29日〉キボ・ハット(5時間) ギルマンズ・ポイント(1時間40分) 最高峰ウフル・ピーク(1時間10分) ギルマンズ・ポイント(2時間) キボ・ハット(3時間20分) ホロンボ・ハット(泊)
- 〈30日〉ホロンボ・ハット(3時間30分) マンダラ・ハット(1時間30分) マラング・ゲート

(注) 日本円は現地通貨タンザニア・シリングに両替不可、アメリカドルで両替できる。

淡路・徳島ルート

柴田昭彦

【淡路・徳島方面ルート】

★「火と馬と旗(十二)」(近畿)昭和51年3月号)に「徳島へ達するには、大阪堂島―尼崎―摩耶山(神戸)―須磨―岩屋(淡路島)―志筑―福良―撫養(徳島県)」とあるが、具体的な中継場所は示されていない。

★明治9年7月1日付の東京日日新聞(毎日新聞の前身)に見える「旗番号で相場を伝える」という記事(「明治ニュース 事典第一巻」1983年、237頁所収)。

『新聞集成明治編年史』第三巻、昭和十年、にも収録)が淡路・徳島ルートの出典と考えられる。ここには、伝達ルートは「大坂、神戸、明石、淡路の岩屋、志筑、福

良、阿波の撫養、徳島」と記されている。なお、新聞記事には「長き竹竿の先に白紙の采配を付けてこれを振り」とあり、通信用の旗は通常、綿布が使われているので、違った方法が用いられたように受け取れるが、事実かどうかは不明である。

★「通信協会雑誌」大正3年2月号の記事に旗振り地点として「須磨、明石、岩屋、洲木、市村、福良、撫養、徳島」とある。市村は、現在の三原町市のことであろう。

★筆者は、徳島ルートの再現のため、淡路と徳島県の関係市町に問い合わせたが、旗振り場の伝承は全く残っておら

うか。どなたか、地元での調査を行なってもらえないものだろうか。

★箒場山については、新見真次「淡路の歴史」(大阪淡友会編集・発行、昭和52年)の巻頭に、明治34年のあはぢ新聞の附録である淡路の全図があり、その中に「箒場 相伝寿永合戦相図畑地」とある。

★永年間は1182〜4年である。つまり、源平の合戦が行われた時期のノロシ山と伝承されている。旗振り伝承の有無については不明である。

【京都・滋賀・三重・奈良ルートの補遺】

★二石山(二谷山)については、本誌54号で詳しく報告したが、その読み方については、「ふたいしやま(にたにやま)」と記載しておいた。ただ、『角川日本地名大辞典(京都府上巻)』の捨て見出しに「ふたいし(二石)〔舞鶴市瀬崎〕とあるの

に倣っただけで、根拠は薄い。「にたに(二谷)」は人名に準じた。上杉喜寿「越前若狭 続 山々のルーツ」(安田書店、昭和62年)に「二石山(標高52)があり、山が所属する二つの村の年貢米が二石ばかりであったことから山名がついたとい

ず、具体的な中継地点を見つけることはできなかった。過去に聞き取り調査は全く行われていないようである。淡路の各町からは、問い合わせに対する返信がいくらか得られたが、徳島県内からは全く音沙汰なしであった。おそらく、資料が残されていないのだろう。

★「淡路全図」(和楽路展、昭和5年)の津名郡浦村に「旗山八幡宮」があり、現在の東浦町松帆神社付近にあたる。筆者は、何か関係があるのではと思い、東浦町教育委員会に問い合わせたところ、飯屋に住む郷土史家の高田成樹氏から返信が届いた。高田氏によると、八幡が現在地に移ってくるまで片山にあったので、地元でまれに「カタヤマハチマン」と呼ぶ場合があるが、見通しも悪く、旗振りに使われていたとは思えないという。文献にはいつの頃からか「旗山」とあるが出所不明で、多分、片山の聞き誤りなのだろうとのことである。高田氏は津名町生穂の大谷に「ミルメのオカ」があり、台地上の小祠の前に適当な空地があるが、旗振り伝承があるかどうかは不明とのことであった。ミルメとは水の女神のことであろうか(落合重信「ひょうご地名考」、

う。従って「にこくさん」である。そういえば、二谷山は「にこくさん」とも読める(一般的ではないが)。京都の二石山を記載している『伏見鑑』や『京都府紀伊郡誌』には読み方は示されていないが、「二石山」と記した文献(古谷「旗振り」もあり、「にこくさん」の可能性がある)。

★北川舜治「近江名跡案内記」(明治24年)の「長等山」(十、十一頁)の項目に、「相庭山」の記載が見られる(本誌57号参照)。

★「三重県の地名」(平凡社)の「多度村」(67頁)の解説には、「多度山頂三本杉付近には、明治初年から二十年頃まで、大阪の米相場を桑名の米穀取引所に知らせる旗振りが行われていた」とある(本誌59号参照)。

★堀田吉雄「日本の民俗24三重」(第一法規、昭和47年)の通信の項目に「延師の通信法など」があり、先物取引をする延師が堂島の相場を刻々に入れたことや、天候も通信されたこと、舶来の望遠鏡が利用されたことなどの記述をしている。

★堀田吉雄「生きている民俗探訪 三重」(第一法規、昭和56年)には「時雨茶漬け」

216頁参照)。神戸新聞社編『神戸の町名』(昭和50年)の垂水区塩屋町の解説(188頁)では「海松藻(みるめ)」とある。辞書には「見る目」もあるのだが、旗振りとの関連は不明である。

★津名町教育委員会・社会教育課からの返信には「旗振りをしていたことを聞いたことがある人はおりませんが、場所等なことについては、何も分からないとのこと、町史等でも確認ができませんでした」とあった。これが、淡路の旗振り場の実在を語る唯一の返信であった。

★須磨の山または明石旗山からの中継地点として、筆者は、東浦町の箒場山(243・8)と、北淡町の沙鳴山(305・3)と、東浦町・津名町境の妙見山(522)と、津名町の摩耶山(359・3)と、洲本市の念仏堂(点名、422・6)と、南淡町の274の山、大見山(149)となどを想定しているが、現地の古老からの聞き取り調査の実施で裏付けをとるしか方法は無いだろう。鳴門市や徳島市でも伝承が見つかからないらしく、情報を得ることはできなかった。明治9年に行われていたことがなぜ伝承に残っていないのだろうか(早期に中止になったのである



多度山頂から濃尾平野



多度山 (三本杉)

の項があり、「桑名の殿さん(米相場師の人物)」が狼煙や手旗の通信で大金をつかんで、美酒佳肴に飽いたあげく、桑名名産の時雨始で茶漬の味わいを好んだという話がある。

★堀田吉雄他編著「桑名の民俗」(桑名市教育委員会、昭和62年)の聞き書きに「桑名の夕市」があり、殿さんとも將軍とも呼ばれた相場師の時雨始の話や、杉山和吉翁が旗振通信に使用されたドイツ製の望遠鏡を持っていて堀田氏に見せてくれたこと、多度の三本杉に手旗通信所があったことなどが載っている。杉山氏については本誌59号でふれたが、桑名市文化財審議会の初代会長であった。堀田氏は日本民俗学会に所属して活躍された。

★筆者は、平成13年12月2日に、JR大垣駅で近鉄養老線に乗り換えて約1時間、多度駅下車後、多度大社、多度峽から多度山を巡ってきた。多度駅には「てくてくまっぶ」(きんてつあみま倶楽部の「庶しるべ」と同じ地図)があり、「多度山水郷展望コース」のイラストマップには、「山上で明治時代に大阪と桑名・名古屋間を、赤・白の旗信号を振って、東西の米相場を知らせる『相場振り』がおこな

われた」と記載されていた。山上の高峯神社の横には、ご神木の三本杉がある。記念碑からは水郷を眼下に広大な濃尾平野が展望できる。正面に名古屋市街、右手に桑名市街が見えており、旗振りに最適な立地である。

★「三重県の地名」の「上野村」(303頁)の解説によると、鳩ヶ峰では野登寺の観音祭礼の四月七日には江戸中期頃から諸商人が市を立てたという。野登山へは上野村からも登られ、「鳩ヶ峰は村の西約四〇〇メートルの谷間で、第二次世界大戦後も店屋が出ていたが、現在はこの道からの登山者は絶えている」とある。山麓での賑わいを示すものであろう。筆者は、本誌59・60号において、野登山の名称で伝えられている旗振り中継所を上野西山(417m峰)と推定しているが、野登山の東の鳩ヶ峰(710m峰)の可能性にも言及しておいた。鳩ヶ峰は、上野村からの古くからの登山道の途中にあることから、もう少し考慮する必要があるのかも知れない。県境の相場振山からは上野西山も鳩ヶ峰山頂も見ることができ立地である。鳩ヶ峰の呼称は、山の形と鳩胸との類似からであろうが、鳩ヶ峰

からの転訛の可能性はないのだろうか。

★筆者は、平成13年11月25日に、JR亀山駅から石水溪方面へのバスに乗り、池山西バス停から完全舗装された林道をたどって、石水溪を経て、滋賀・三重県境の相場振山(本誌58・59号参照)の調査を行った。安楽峠の南側の切り通しの右端に赤テープの目印があり、入ってすぐ旧安楽峠に達する(そのまま進むと左に回り込むが、すぐに廃道となってしまう)。峠から右手の急斜面を登り切ると相場振山の山頂(標高544.4m)である。山頂からは北西方面(滋賀県側)が見えていて、三重県側は樹林に閉ざされていて、野登山付近の山並は確認できない。先へ少しくだると滋賀県側の広大な展望が楽しめる。亀山市歴史博物館学芸員の小林秀樹

氏の实地探査(平成12年11月11日)では、本誌59号掲載の写真のように山頂から見えたという(58号)が、筆者の調査時には、山頂より少し北側で樹木のすきまに野登山方面が見える程度であった。現地調査からは、野登山・鳩ヶ峰・上野西山のいずれも、旗振り場であった可能性はあるとしか言えない。ちなみに、小林氏は「東海道名所図会」上「(ベリかん社、2001年)の「解説2」の執筆者である。堀淳一「地図で歩く古代から現代まで」(JTB、2001年)には「安楽峠」で紹介されているが、舗装林道のみレポートで、旧安楽峠には全くふれていないのは残念なことである(旧道が廃道であるためだろう)。

★「三重県の地名」の「中友生村」(上野市友生、854頁)の解説に「西北端の旗ヶ峰には後期古墳数基がみとめられ、須恵器が出土する」とある。上野市教育委員会文化課の山崎氏によると、403・613・614の南西1・2に位置する旗ヶ峰遺跡で、小字名からついた呼称だがその由来は不明で、古墳があったものの、砂防工事で破壊されたという。

新刊

大阪50山

大阪府山岳連盟 編 四六判 一九〇〇円
摂津・河内・和泉の三つの地域から大阪の岳人達を選んだ50山と番外2山を写真と地図と共に紹介。山名の由来や豊かな歴史にふれながら登山コースをていねいに案内する。

新刊

葛城の峰と修験の道

中野榮治 著 A5判 三三〇〇円
友ヶ島の序品窟から大和川の龜瀬までの葛城二十八品の峰と経塚を修験道史料を实地検証しながら古道を辿り、古代から続く葛城修験の道を究明に調査した山岳信仰の研究書。

★表示の価格は消費税を含みません

ナカニシヤ出版
http://www.nakanishiya.co.jp/

京都市左京区吉田二本松町2
☎075-751-1211 〒606-8316

(昭和57年10月)に転載したものと聞いて
いるという。川合氏は平成11年に亡くな
られたという。津市の千歳山で旗振りを
していたのが川村の爺さん(すでに故人)
であるという事実は、倉田氏が川合氏に
提供した情報である(本誌60号)。倉田氏
によると、川村さんの家の人は、もう、
旗振りについては全然ご存じないとのこ
とであった。代替りによって伝承が絶え
ていくのは残念なことであり、「これを
聞く古人も故人になられ、それこそ、重
要な記録を綴っておかねばならないの
に思っています」と倉田氏が言われる
のには、全く同感である。本稿が、その
希望に沿うものとなるようにしたい。

★倉田氏は「旗振り」について「度会郡
の大宮町、大内山でも聞いた事がありま
す」と述べている(平成13年10月23日付の
返信)。旗振り地点等の詳細は明らかで
ないが、大内山村まで通信網が伸びてい
たということは、松阪からの中継ルート
の存在をうかがわせる。ただし、大内山
村教育委員会によれば、村内には旗振り
伝承が残っていないという。

★「奈良県の地名」(平凡社)の「高安山」
の解説には「近代にはソバフリ山ともよ

ばれ、堂島(現大阪市)から米相場の異
動を大和・伊勢方面に旗で通知する信号
地点でもあった」とある(本誌61号参照)。
★筆者が古書店から入手した「交通通信
展覧会記事」(大阪府立岸和田中学校、大正
五年十二月)の交通通信展覧会陳列品目
録には、「徳川時代旗振通信額一面」
(百十二頁)とあり、大阪西部通信局(大
阪市東区今橋一丁目。現在の中央区、北浜駅
の南西付近。富山・岐阜・愛知以西の中部地
方と近畿・中国・四国を管轄)からの出品
のひとつである。この展覧会は大正五年
六月二十日から七月十日まで開催された。
旗振通信額がどのようなものか不明だが、
旗を振っている絵図のようなものである
うか。

★本誌62号で通信博物館の生みの親とし
て知られる樋畑雪湖氏を紹介したが、高
橋善七「通信」(日本史小百科23、近藤出版
社、昭和61年)に通信博物館の項目があ
り(126頁)、「この物品係長に任
ぜられたのが、博物館創立の功労者樋畑
正太郎(雪湖と号した)であった」とあり、
樋畑氏の経歴や肖像、博物館の発展の経
過などが紹介されている。この本には手
旗信号(263頁)も載っていて参考に

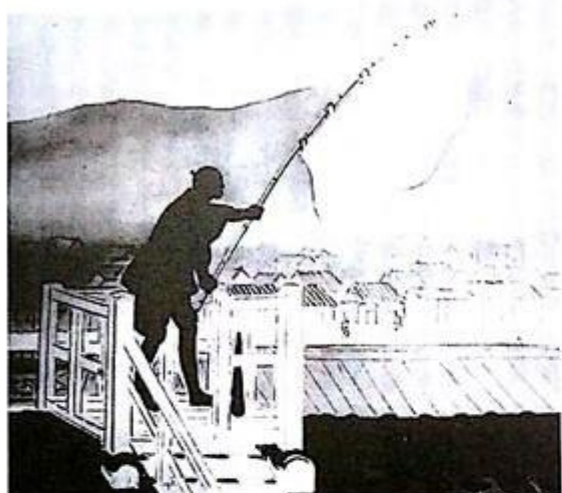
なる。

★「郵政」2001年7月号(郵政弘済
会)には、ていばく(通信総合博物館)
所蔵資料紹介(123)、「大阪堂島の旗
振り通信」がある。近藤論文(明治大正
大阪市史5)の内容を簡略にした記事で
4つの図がある。図1は「大阪堂島の米
市場(昭和初期)」の写真、図2は「堂島
の米相場を伝えた旗振り通信」の図2枚
で、①「日本交通図会 葵の巻(8)」
(西村青徳 画)②「旗振りの模型」(本誌
62号)を掲載、図3は「フランスのシャ
ブ兄弟が発明した腕木通信機」を載せた
ルワンダの切手である。

【福井県に旗振り場はあったのか?】

★池田末則監修・村石利夫編著「日本山
岳ルート大辞典」(竹書房、平成9年)の
福井県の項目に「旗護山 330m」が
あり、敦賀市と美浜町にまたがるこの山
の呼称のルートについて「旅籠の峠の山
とか、通信の旗護山ともいう」とあるの
を見つけた(平成13年11月)。福井県の項
目の執筆は、池田氏を所長とする日本地
理学研究所の所員でもあった倉田正邦氏
の執筆であるので、その出典について、

問い合わせしてみた。倉田氏によると「旗
護山の旗振り伝承については、故人にな
られた元福井大教授の杉本壽先生から聞
きました」とのことであった。杉本氏は、
「木地師と木形子」(衆揚社、昭和56年)な
ど、木地師や農山村に関する著作で知ら
れている。なお、「福井県の地名」(平凡
社)では山名の由来にふれておらず、角



日本交通図会 葵の巻(8)(西村青徳 画)
(通信総合博物館所蔵)

川日本地名大辞典には、「標高318・
4m。山名の由来は不明」とある。倉田
氏は、戦前の「関西山小屋」という雑誌
の中に旗護山の山名の由来が書いてあっ
たように思うとのことであった(ただし、
掲載されているかどうかは未確認である)。

★敦賀市教育委員会文化課の山村喜久子
氏によると、旗護山は中世の山城として

機能したという記録がある
が、旗振りの伝承・記録等
は把握していないとのこと
であった。

★美浜町教育委員会文化財
保護係の原田絹代氏によれ
ば、郷土史家に尋ねたが旗
振りの伝承をご存じの方は
なく、付近の地域では「旗
護山」と呼ばれておらず、
愛宕社が祀られていること
から「愛宕山」と呼ばれて
いるとのことであった(平
成14年2月)。音が似ている
ことから転訛とも考えられ
るが、なぜ「旗護山」とい
う字を当てるのかは不明で
ある。

★本誌58号では、滋賀県の長浜から福井
県に至るルートの確認ができないことを
述べた。旗護山において旗振り通信が行
われていたとしても、どこと連絡したの
かは全く不明であり、その解明はかなり
困難であろう。

【通信協会雑誌】

●「通信協会雑誌」大正3年2月号(通
信協会)の雑誌、二六・二七頁に掲載さ
れた旗振信号の記事については、本誌59
号で紹介した。興味深い内容なので、今
回、その全文を紹介しよう。漢字は新字
に改め、原文には全く付されていない振
り仮名を新仮名遣いで新たに加えたが、
文体と用字は原文通りである。

「相場通信に利用されたる旗振信号の治
革」

左に掲ぐる記事は、元大阪急報社長松
下松之助君から特に予に寄せられたもの
である。四五年前旗振信号の起原発達に
関して調査したことがあったが何等記録
の微すべきものがないので、その事実を
審かにすることが出来なかつた。当時偶
来省せられた松下君が、旗振信号に關して

は、寸分も聞知せることがあれば追て書き送るべしと誓はれたことがある。程経て予の机上に落ちたのがこの一文であった。記事は断片的なものだが、有益で且つ面白い。斯ういふ材料が少し集まれば立派な沿革史を編むことが出来る。茲に原文のまゝ之を發表して読者の参考に供する次第である。これ等の事柄に關し何か確実な材料を有せらるゝ方があれば、是非拜見させて戴きたい。(慈堂生)

天保初年の頃大阪堂島米会所市場の外に、市内は天満龍田町、江戸堀三丁目、島之内の三ヶ所に米市場の如き会所ありたるが、此等の市場に於ては、専らに堂島の米相場の高低に拠り取引を試みたり。之れが相場を通知する方法は、各々小使を堂島米市場の近傍に出張せしめ、同市場の問屋(即ち今の仲買店)の丁稚が、取引所内市場の公定直段を、その頃一匁五分とか二匁とか高声にて各仲買店へ報ずるを聞知して、件々の小使は手拭を以て、一二丁毎に乙の者手拭を持って待受け居るもの(合図(即ち信号)をなし、東西に漸次丙丁と夫々伝達し右の米市場三ヶ所へ手拭信号を以て相場を報じたりき。当

朝にして失敗を招くことあり。例へば他人と信号者と馴合て、故らに偵違ひを信号して賄賂を受受するの類にて実に危険なり。為に損害の及ぶところ甚しく、商況を依托せらるゝ得意先より責問を受け、迷惑を蒙ること少なからず。されば旗振の技倆に長き者と雖も、妻子を有し最も信用の重き者を選びて雇聘するに努め、之れ等の陋習を矯正したるが、それとても往々間違を生じたり。俗に小人は利に迷ふなり。

旗信号に關し特筆すべきは、先年露國皇太子殿下天津に於て御遺難の際の如きは政府の電信局に於て暗語電報の掛合中に件の旗信号(アロハ附を以て報じ)は商況と共に大阪へ五分間にて報ぜり。各新聞社にてはこの驚くべき事実を不知こと五時間位なりき。大阪堂島に於ける米飛脚屋は岩井屋六兵衛、堺屋喜兵衛、米屋某、長崎屋某など聞えたるものなるが、各々其の當時未だ郵便、電信の文明の利器のなき頃には、各飛脚夫が朝一番米市場の客附(今の八時頃なり)公定直段の附くや、自分の抱へらるゝ飛脚屋に、木板活字を植し墨汁に依り竹の皮(パレン)を以て印刷し、吾れ一と迅速に刷成して

時に在りては此通信に限り公然と堂島米市場に近寄らしめず、東は大江橋北詰、西は波辺橋北詰にのみ居るものとして(抜け)と唱へて公衆は忌諱せり。件の信号者は、傍ら常に機敏なる米商人の取引に依頼を受けて通信せしものなり。其の後漸次信号方法を改め遂に公然許可を得て旗信号通信となり、其信号の見分けに望遠鏡を用ひたり。

又た地方への旗信号通信は安政六年頃より専ら各所に行はれ来れり。今其箇所を挙ぐれば左の如し、東は静岡、浜松、岡崎、豊橋、名古屋、桑名、四日市、津松阪、山田、岐阜、大垣、長浜、彦根、水口、大津、伏見、京都、大和高田、堺、和歌山。

西は尼ヶ崎、伊丹、西ノ宮、灘、御影、神戸、兵庫、三田、須磨、明石、岩屋、洲本、市村、福良、撫養、徳島、姫路、曾根、網干、岡山、倉敷、津山、玉島、尾之道。

右は互に中繼して遠方に伝達したるものにして、その区域は広大なり。前記の各所信号者は日々望遠鏡を備へ前者よりの通信を待構え居るなり。旗信号に黑白布を利用するは、天候に依るな

その相場伏を網の袋に投入して肩よりハスにかけて駈走りたるものなり。斯くて各飛脚は夫々東西に分れて行く、假令は岩井屋の飛脚は赤手拭の鉢巻といふが加甲乙丙丁各自の飛脚夫に於て、各々堺屋なり、長崎屋なり、米屋なり、赤白黄浅黄と自然に手拭の色分けをなして、吾れ一と転出して旗信号地沿道筋の受信者へ米相場状を配達したるが各々競争して一番状の着次第大なる取引となり損益を試みる資料となせる也。當時斯の如き利便なりし通信方法も遂に今日の時世に適せざるに至れり(云々)

★大正3年といえは、旗振り通信が各地で終焉を迎えた時期であり、同時代における、「旗信号通信」の位置付けを見事にとらえたレポートといえる。「旗振り通信」という言葉も文中には見えてい

●「歴史と神戸」234号(第11巻第5号、平成14年10月)に拙稿「米相場を伝えた旗振り山の解明―姫路以西のルートを中心に―」を掲載した。神奈川大学の福田アジオ先生から、学術雑誌での発表を勧められたことによるもので、旗振山に大

り。雨天曇天には信号移らず、忽ち差支を生ずる場合あり。大阪が晴天にても途中曇天なれば、黒旗を信号する事あり。遠距離への通信にても却て今日の電報電話も如かざる速度を有したり。

此旗信号通信は總て其頃より飛脚屋の附帯の業なりき。而して何れの地の飛脚屋業も皆自分免許を以て旗振通信の元祖なりと称するも、誰の考案なるか創案者許かならず。大阪にては、其の当時より堂島中町に岩井屋六兵衛と云ふ飛脚屋なるもの専ら之れを行ひたり。然れども当初は公然免許を得たるにあらず。昔日は米会所のなき地に於ては斯かる信号通信を厳禁せり。維新後は堂島米会所に盛に此の旗振り通信の行はるゝに至りしが、明治七年の頃より公然許可を得、堂島米市場仲買店の屋上に於て東西の各地へ日々米相場を旗信号を以て報ずることを公行せり。是れより以前に於ける旗信号通信は市中より郊外に出て、始めて行ひ居たるなり。爾來此業者(駅通局)の創立せられたるより、電話電報の利器に圧倒され遂に今日の如く衰へたり。元米この旗振信号は個人的の取引に最も便利とすれども、之れに伴ふ弊害は実に恐ろしく一

きな関心を寄せられた落合重信氏の創刊された雑誌へ投稿したものである。現在明らかとなつて居る全ての旗振り場と通信ルートを一覧表と地図で総括し、姫路市太市の相場振山から、龍野・赤穂・岡山を経て、下関・若津(大川市)に至るルート上で判明している旗振り場を紹介した。会員購読誌であるが、海文堂書店やジュンク堂三宮店で購入できる。

(CPT)
(平成13年4月18日成稿・11月23日補訂)
(平成14年2月17日追補・8月26日追加)

◆新ハイキング社◆

読み、歩き、書いた 深田久弥の研究

本書は深田クラブの会報に飯島善・高澤光雄・高辻謙輔の三氏が、深田久弥について研究の成果を發表されたものである。その著作・山行・交友関係・生い立ちなどを調べられた。多彩な内容で、読みものとしても面白い。

A5判・387頁/定価1680円(税込)

発行所 新ハイキング社

〒114-0023 東京都北区堀野川7-6-13
電話/Fax 共用 03-3915-8110

信仰の里山、織山へ

きみがさやま

湖東

磯部 純

鈴鹿山系と琵琶湖の間の湖東平野には、湖面に浮かぶ小島のようにいくつもの里山が存在する。そんな山の一つで、まだ踏んでいない2等三角点のある織山を訪れることにした。

織山は山容が衣を被ったようにゆったりとした円錐形であるところからこの名が付いたと言われており、別に、観音寺山・十方嶺・十方ヶ岳・佐々木山・沙々木山・狭々城山・三國領・駒目・駒眼など、数々の名称で呼ばれている。特に、観音寺山の名称は、山腹に近江守護織佐々木六角氏の居城だった観音寺城跡、西国三十三ヶ所観音霊場札所である観音正寺があることにちなんで付けられたもので

ある。

9時、JR野洲駅で新ハイ仲間の谷さん待っ。この日は3人で歩く予定だったが、宇治の彼にどうしても外せない用事が出来てしまい、2人での山行となった。

野洲駅から谷さんの車で安土へ向かう。安土まで来て、安土城跡のある山を目前にして右折すると、安土城考古博物館横の織山登山口へ行かずに、そのまま東へと歩いて行く。車の燃料計を見ると、「E」を指している。ガソリンを入れるので登山口へ行かないのかと思ったが、そうではないらしい。理由を聞くと、この山へ登るのが決まったとき、「織山を

観音正寺への石段道



縦走するので、案内してほしい」と彼に頼んだのだが、前年に山火事があったので、縦走路が通れなくなっているのでは困るだろうと、わざわざ2日前に下見に歩いたとか。そのとき、安土城跡経由の道も博物館からの道も通行禁止になっていて、しかも、人が通らないように監視人がいるので東側の石寺から登ることにしたのだと言う。下見をしてくれたことかたたら、その場に行って戸惑ったこと間違いないし、感謝の一言だった。

石寺の楽市楽座跡に車を置く。準備を整え北へ向かうと、歴史を感じる大きな石灯籠が立っている。この道は観音正寺へ登る表参道であった。ゆるい坂道を上がり、舗装が切れる所に日吉神社がある。坂本の日吉大社から勧請された神社で、木造地藏観世音菩薩立像がまつられてい

るといふ。そこから上は寺への参道。多くの自然石が階段状に並べられていた。下から寺まで1000段もあるというから、敷かれた石の数はどれほどになるだろうか。

石段の道は曲がりくねって上へとのびている。道の両側には石仏が点々と置かれ、石段のすき間にはソヨゴの赤い実がいっぱいに落ちていた。何の鳥か、青い背をした雀ほどの鳥のさえずりが心地よい。階段道の途中には、西国三十三ヶ所巡りの名残であろうか、「右 長命寺 左 たにくみ」と彫られた古い標石が立っ

ていた。

40分程石の階段を登りつめると観音正寺は目の前。観音正寺は山号を織山とい、天台宗の寺である。俗に観音寺と称し織山五古刹の一つで、西国三十三ヶ所観音霊場第三十二番目に当てる。寺伝によれば聖徳太子の開創だと言われている。天暦年間、佐々木氏は当寺に深く帰依して、その祈願所として同氏と盛衰を共にしている。天文六年兵火に遭い堂宇を消失し、さらに、天龜元年に佐々木氏が朝倉・浅井氏に加盟して織田信長に抗したため、居城の観音寺城が落城し、寺も再び焼失した。慶長十一年(1568)伽藍を復興し再興を図ったが、平成五年の火災で本堂を焼失。このとき、まだ本堂は再建中だった。

ここで、西国三十三ヶ所観音霊場について触れておく。「観音様は衆生のあらゆる悩みや罪業を救ってくれる。また、観音経には、観音様は三十三身に姿を変えてこの世に現れると述べられていることから、その数にちなんで、近

畿を中心として散在する三十三の観音寺を巡礼するように定められたのが、西国三十三ヶ所観音霊場である。養老二年(718)長谷寺の開基徳道上人により創られた。その後、永延二年(988)に花山法皇が性空上人を供にして、西国三十三ヶ所を定め、巡られてから盛んになった」と言われている。

寺へお参りした後、再建中の本堂の横を通って西側の桑実寺へくだりたという、2人の女性参詣者といっしょに観音寺城跡へ向かう。山腹の山道を歩くこと10分。石段を登ると観音寺城本丸跡に着く。本丸跡は平坦な広場になっていて、サザンカが数本立ち並び、花を散らしていた。まさに「兵どもが夢の跡」ともいえる風情だった。

観音寺城は南北朝期に六角氏により築城された。六角氏は、初めは八日市の金田に居を構えたが、応仁・文明の乱の頃には居城を織山へ移し、その東山麓の石寺に楽市を開き城下町をつくったという。この城は永禄十一年に信長に攻められ、六角義賢は信長の門に下った。その後城は廃され城下町も消滅し、今では農村に戻ってしまった。わずかに楽市楽座の跡



から、その数にちなんで、近

が残っているに過ぎない。また、この観音寺城の遺構は全山に散在しており、全国一の中世山城の遺構とまで言われていくと聞く。

2人の女性と別れ、本丸跡の北から斜面に取りつく。もちろん道はない。登るとすぐ、尾根には城跡の石組みが続いていたが、それを踏み越えピークまで登ると縦走路に出た。道に従い尾根を北へ向かうと、尾根の先端のピークに三角点を立てていた。

点名織山・2等三角点(433)である。標石は磁北の北を向いていて、東南の角が欠けていた。山頂から西を見ると、手前に西湖、その奥に琵琶湖が広がっていたが、向こう岸に連なる比良の山々、湖西の北の山々はモヤに霞み全く見ることができない。北方にはこれから歩く尾根があり、あんな遠くまで歩くのかと思うと気が遠くなるような気になさなってくる。

尾根をくだり、さらにその先へ進むと、昨年の山火事のものすこさが生々しく残っていた。斜面に焼け焦げた枯れ木が点在し、草は焼き尽され、荒々しい焦土の斜面へと変わっていた。あたかも、岩稜の

斜面と見えないこともない。幸いにして尾根の東側には火は及んでおらずに雑木が残っており、その中間尾根をくだって行く。風がまともに当たり寒さがいちだんとこたえる。

呼び名の由来は調べてもわからなかったが、下り切った鞍部が地獄越。鞍部の両側に道が来ていて、左へくれば須田で右へくれば石馬寺だ。再び、尾根を登り返すと、これまでくぐってきた尾根とは様相が一変する。斜面は緑が青々としていて、道には点々と赤いソヨゴの実が散らばっている。道の両側はコウヤボウキの群生。これまでこんなに多くのコウヤボウキを見たことがなかった。急勾配の斜面を登り切ると瓜生山山頂。一番高いピークに兩宮神社がまつられていた。何をまつているのかわからなかったが、神殿はあまり古いようには見えない。石馬寺へくだる階段に陣取り、ここで昼食とした。

石段に坐り込んで食べ始める。それまで輝いていた太陽が雲に隠れ、寒さが身にしみてくる。飲んで内から燃やそうと思っても暖まることはなかった。近くにはサルトリイバラの赤い実が残っていて、

目の前の木の枝にはヒヨドリやメジロが目まぐるしく動き回っていた。

12時30分、寒さに耐え切れずに出発する。尾根を北へ歩き、標高点336を越えると、丸太の階段道が気にならだす。丸太が路面より浮き上がり、間隔も広かったり狭かったりして実に歩きにくい。よい天気が続いているので丸太は乾いているが、これがもし濡れていたら滑らないように気を遣うだけで疲れてしまったに違いない。尾根が北から東へ向き、ゆるい坂を登ると猪子山山頂。山頂広場の北端には4等三角点埋められている。標石は珍しく真南を向いておらず、南から西へ20度振っていた。

山頂から東へ10分もくぐると北向十一面観音堂が建っている。お堂の屋根が直接岩屋から出ているので、北向岩屋観音とも呼ばれている。前にある看板によると、この堂は「桓武天皇の御世、延暦十年(791)坂上田村麻呂が鈴鹿の鬼賊を討伐した時、この織山五嶺の東北端にある烏帽子岩窟内に十一面観音菩薩石像を安置して祈願したことに始まる」とある。それだけに、建物はけばけばしく新しくても、歴史は古い。われわれが休ん

でいる間、地元の人人がやってきて御参りをしていた。近くの木には数羽のメジロが遊び、実のどかとか言いようがない情景だった。

堂の横にある巨岩の上に立つと、四方の山々が一望できる。東方には右から水無山・綿向山・雨乞岳・ダイジョウウから黒尾山への尾根、日本コバ、その手前に白鹿背山・押立山と続き、天狗堂・御池岳も見えている。少し離れて霊仙山も見えていたが、伊吹山までは見ることがで



山火事で焼けた尾根道

きなかった。西を見ると、モヤに霞んだ湖面に竹生島が黒く浮いていたが、湖西やその北にある山々は白く霞んでいる。また、この大岩には源九郎大神・豊川大神・玉姫大神・玉吉大神の神名が刻まれているとのことだったが、どこに刻まれているのか見つけることができなかった。神社から参道をくだり、下の広場から尾根のやぶ道に入る。昔整備されていた道も、歩く人がなくなつたのかかなり荒れている。その道をたどり13時50分、佐生へくだった。

これで、織山縦走は完了したが、すぐ東にある和田山三角点が気になり、足をのばすことにした。2等三角点だと近畿の三角点を収録している本に書いてあったからである。長勝寺の参道を登り、途中のガレ場から尾根に取りつく。やぶを潜ぎ主尾根へ登ると踏み跡が現れた。白い布に導かれ、東へ向かい、杉の林のピークに着くと、展望のない草の繁った広場に紅白のポールを背に三角点は立っていた。「これでこの日は2等三角点を二つも訪ねることができた」と喜び、写真を撮ろうと標石をよく見ると、標石の2等二の字に一の標が一本多い。何と、本

が間違っていて、2等ではなく3等三角点ではないか。これなら最初から配点図を取り寄せて確認しておけばよかったと後悔してももう遅い。せっかくおまけの探訪までしたのに、三の字を見て疲れがドッと出てしまった。

下りは、南のピークへ向かうが、道はそこで消えた。そのまま道なき雑木の斜面を南へくだると、河曲の田んぼへ飛び出た。石寺までの歩きに備えゆっくり過ぎるほど畦道で休み、残っていた飲み物・食べ物を腹に入れザックを軽くする。

その後、長い長い車道を1時間余りかけて歩き石寺へ戻る。石寺から国道8号線を走り、ガソリン切れになる前に無事給油。野洲駅へは、17時30分に戻った。

(平成14年1月24日歩く)

- △コースタイム▽
石寺薬師堂座敷跡(40分) 観音正寺(10分)
観音寺城跡(10分) 織山三角点(30分)
地獄越(10分) 兩宮神社(40分) 猪子山(30分) 佐生(10分) 長勝寺参道(20分) 和田山(20分) 河曲(1時間15分) 石寺
△地形図▽2万5千〃8日市・能登川

1等三角点峰(5000以上) 548座完登の記録(第35回)

平成八年の東北・北海道の山旅

坂井久光

平成8年4月21日、日本山岳会京都支部創立十周年祝賀会の終了後、山崎大造氏と2人で愛車バジェロで出発。その夜は信州鹿沢の湯ノ丸山の山腹で車泊。

22日、雪山讃歌の碑を見て、日光市へ行き一泊。

23日、北檜原湖畔の猫魔ホテルに。山崎氏の業界の集会有り、その縁で泊まった。

24日、塩竈市に行き、会員の佐藤さんに電話して、いっしょに富山観音で松島湾の風光を愛でながら昼食。さらに北上し、夕方には銚倉山(5322)を登り、その夜は田東山(5122)の山頂近くの駐車場で車泊。

25日、山頂の1等三角点を確認後出発。その日は徳仙丈山(2等三角点7112)を登り、次いで室根山(8952)を登った。その夜はベッコ温泉で入浴後、車泊。

26日、陸前高田市と大船渡市との境界にそびえる氷上山(2等三角点8152)を目指し、大船渡市の須崎川沿いの林道を6232の独標まで行ったが、先が長いので引き返した。陸前高田市北方、山頂のはば東方に五分の一図で点と点のマークがある。その標高5000地点まで車で行き、良い道を東へ7492の独標へ登り、右折南下して西宮(アイヌ語の神名が書かれていた。Hのマークあり)に

毛鐘尻山にて



登った。次いで中宮(前と同じ)へ登り、東へ左折して氷上山頂の社前へ着いた。氷上は火神の当て字であり、火神をまつた社とわかった。しばらく休憩して往路下山後、北上して遠野市の六角牛山(2等三角点12942)を残雪一尺余のなかを登頂。下山後、笛吹峠を越え、釜石市の青ノ木川沿いに走り、大槌町に出て吉里吉里海岸で車泊。

27日、近くの嶺山(2等三角点6102)に登り、次いで十二神山(1等三角点7312)へ向かったが、土曜日で自衛隊責任者が不在で入山できなかった。宮古市から左折し、JR岩泉線沿いに北上して落合で左折。小本川沿いに走り、入門の先の横道で右折し、林道に入って穴目ヶ岳(2等三角点11682)に登った。

登路の途中にフクジュソウの大群落があり、黄金色の花をたくさん咲かせていた。往路下山して横道から入門へ戻り、左折して奥岩泉トンネルを抜け、折壁川沿いに北上して安家川沿いを東進した。元村から大月峠を越えて久慈市山根の別荘の湯温泉に夕刻到着。入浴して夕食を近くでとり、付近で車泊。

28日、長内川の支流葛形沢沿いに南進して内間木の先で駐車。残雪の多い尾根筋を登って遠島山(2等三角点12632)に登頂。展望良好で名山の資格がある山であった。往路下山して、長内川沿いに北上して久慈市を通り、海岸沿いに国道45号線を北上。階上町で左折して南下し、階上岳(7402)に2人で登った。下山後、八戸市から五戸町を通り、その夜は十和田温泉で入浴後、付近で車泊。

29日、西へ向かって走り、新郷村經由十和田湖に出た。奥入瀬川沿いに北上して焼山から北へ葛川沿いに走り、猿倉温泉に行った。駐車後、八甲田山塊の2等三角点の乗鞍岳(14502)へ残雪を踏んで登った。往路下山後、酸ヶ湯温泉に入浴してから、青森市へ向かって北進。その夜は青森大学の駐車場に車泊。

30日、きょうも快晴で、東へ浅虫温泉を通り、野辺地を経て下北半島の西岸陸奥湾沿いに北上。吹越で右折して、吹越鳥帽子(5032)を登った。往路下山してさらに北上し、むつ市の手前一里小屋で右折して目名経由、稲崎から尻屋崎の尻屋で右折して、桑畑山(4402)へ登った。付近は石灰岩地帯で探測されていた。往路下山して稲崎からむつ市を通り、釜臥山麓の温泉に行き、入浴後付近で車泊。

5月1日、湾岸沿いに西進して川内町で右折して北上し、畑から西へ。仏ヶ浦を左に眺めて北上し、縫道石山(6226)を登り、2人で登頂。下山後、湾岸道路を佐井村經由大間町に行き、保登温泉に入浴後、フェリーで函館港へ上陸。函館2日、フェリーで函館港へ上陸。函館

山をドライブしてから国道を北上し、大沼経由森町で内浦湾に出て海岸沿いに八雲町を通り、黒岩で左折すると「念力パワー長谷川先生」の大看板があったのでびっくり。長谷川さんを訪問した。

数年前ルコツ山登山の際案内してもらった方で、あたりや玄関先はきれいになって公園のようであり、トイレも建っていた。白衣で数人の患者の治療に当たっておられた。今西錦司氏の娘哲子さんがスキーでルコツ山へ登った際も世話された人で、昔は持師をしておられたが、発心してから廃業して暮らしておられたが、氣功を体得され、治療には札幌や函館からも訪れる人もあるとか。今西博士が亡くなり、哲子さんも京都に戻って元氣に活躍しておられる旨、手短かに話して辞したが、患者から贈られた缶コーヒーが山と積まれていたのをたくさんもらった。

次いで長万部市栗岡に自力で八角型の新居を建設中の高野亮三氏を訪れ、その夜は泊めさせてもらった。彼は器用な人で彫刻が趣味。入賞作品も多く、現在大阪城の美術展に出品中だとか、美術誌を見せてもらった。彼は冬は漁業のアルバイトや宮林署の下請で山仕事をしておら

しておられ、彫刻の材料や建材には不足しないらしい。東京農大卒で大阪出身のインテリ。奥さんの家が元牧場で庭は広く、奥さんと一人娘と奥さんの父親の4人家族である。

3日、高野さんにお礼をして出発。長万部の北の写万部山(4999m)に登った。下山後、豊浦から高道路路經由苦小牧市に行き、さらに鶴川町から道々を北上して手取温泉に入浴。その後貫気別から旭を通り、林道の未除雪地に駐車して車泊。

4日、6時に出発して、昨年登った沢の東側のリビラ山(1291m)と貫気別山(1317m)の中間に突き上げる支尾根に登ることにした。沢を二度渡って対岸のブル道に取りついて残雪のブル道を登った。この道は岩峰の下までのびていたが、カブの所は直登して登った。途中、雪上に真新しい熊の爪跡も明白な大きな足跡を発見した。2人で笛を吹いて登ったので驚いて逃げたのだろう。ドームと支稜の谷奥の急斜面をビッケルやストックやアイゼンでジグザグにステップを切って登った。昨夏登ったのはリビラ山との境界尾根の1300m付近とわ

かり、右俣と左俣と沢を一筋間違ったのが原因だった。因みに貫気は濁った、別は大川の意のアイヌ語で各地に多い。稜線に出てタケカンバの茂るコブを二つ越えると小高い頂上に登頂。展望は東北に開け、日高の山脈が望見できた。

これが536山目の1等三角点で、残り12座となった。その夜は日高町の沙流川温泉で入浴後、金山の保養センターで夕食をとって車泊。

5日、6時出発。北へ向かって日高峠を越え、占冠で石勝線と分かれ、さらに北進。金山トンネルを越え、金山から金山ダム湖を東進し、右折して橋を渡って南岸へ。石灰鉱山を左に見て林道を山側に入るが、山腹は積雪多くて途中で駐車。ワカンを着けて社瀧射岳(1062m)を目指した。ブル道を直登して伐採跡の平坦地に出て、いったんゆるい下りとなり、一部やぶを漕いで雪田のコルに出た。この近くまでブル道がついているようだ。急斜面のジグザグ道を山頂へ。2人で万歳三唱して撮影や展望を楽しみ、少憩後下山。下山途中、スキーで北大化学技師の宮島氏が登って来られ、「この山が1等三角点と知って来られたのか」と言わ

山科を歩いて

うし お かん のん

牛尾観音から音羽山

おと わ やま

コースタイム JR山科駅(20分)→京阪四ノ宮駅(40分)→小山(1時間10分)→牛尾観音(40分)→東海自然歩道展望台(40分)→音羽山(60分)→柳丸神社(5分)→京阪大谷駅(徒歩約12分)5時間

① 山科駅から四ノ宮駅(京都市山科区)近畿古道探案会の会員は、奈良県と大阪府に在住するため、JR山科駅に集合する。京阪山科駅の踏切を渡り、旧東海道の道筋へ入って京阪四ノ宮駅へ向かう。10数分で四ノ宮駅へ達するが、都市化した道筋は、ここが近世の山科宿とは思えない。山科駅近くの安朱棧敷町の毘沙門堂の敷地内に残る叔茶屋は、徳川将軍家茂へ降参する皇女和宮や、東京遷都の際に明治天皇の休息所となっている。この茶屋の先祖片岡丑兵衛は片岡流弓術で知られる弓の達人である。

四ノ宮は仁明天皇第四王子の人康親王の山荘に由来するとか、山階十四郎の

中村敏文

四ノ宮と俗称される諸羽神社にも由来するとか。

山科の歴史は中臣氏から始まり、中臣鎌子も当地の出身といわれ、陶原館が山科精舎となり奈良の興福寺へと発展したといわれる。天智天皇の大津遷都は山科の中臣氏の勢力を背景にしたという。平安時代に山科七郷と展開されるが、

山科の大部分は皇室の所領で、代官は代々山科(山勝)家が掌り、人康親王が山荘を建てた頃から多くの寺院が建立された。現在の山科区は小野・勸修寺地区を除く全地域が中世の山科七郷で、今回歩く竹鼻・音羽・小山で一郷、四宮河原・安洋寺・上野で一郷と、七つの郷が郷村に

れ、それに答えると早速入会された。再会を約して別れ、金山センターで昼食後、富良野へ旭川一名寄と走り下川町で左折、幌内への道々を北進。サンル川沿いに走り、奥サンルで興部への林道(除雪)を東へ。境内手前の未除雪地に駐車泊。

6日、積雪数m。降ったり曇ったりの天候だったが、毛鍾尻山(916m)へアタックを決め、岩岬林道をつめ、二股から中央尾根に取りついて深雪のゆるい稜線に出て、少し急登すると山頂で、露岩の上に登ったが標石はない。下の広い平坦地のどこかにはあるはずだが、積雪のためわからなかった。少憩後、降雪のなかを下山。駐車場近くの奥本沢林道にくだって駐車地へ。下山後、道々を美深峠を越え仁宇布へ。さらに西へ美深町に出て右折、北進し中川町の琴平温泉で一泊。新築して立派になった施設だが、町営で安くて気に入った。

明日はイソサンヌブリ(581m)を目指すことにした。(次号へつづく)
(文中の太字は今回登った1等三角点の山を示す。)

牛尾観音堂



発展していった。平安末に後白河法皇の山科新御所が大宅郷に造営されて皇室との関連がより親密度を深めた。

近世の山科郷域十七ヶ村八千石も八割の六千石余りが皇室所領で、山科家後裔の比留田・土橋家が総・触頭となり各村々の庄屋・年寄を兼ね、年貢・禁裏御用の人足の割振りをを行い農民を掌握していた。

山科七郷の有力農民七百余名は苗字帯刀を許された山科郷士で、皇室の警備に

出仕し、皇室御用の指揮をしていた。明治四年の廃藩置縣後の政府の待遇は平民でなく士族になっていた。

山科駅から旧東海道を数分歩くと、四ノ宮泉水町の街道北側に廻地蔵がある。無住禪寺の徳林庵を管理している六角形の地蔵堂は、平清盛の命で西光法師が建立し、小野篁作の240寸高の地蔵立像を本尊に納めたという。西光は京の七道に地蔵堂を建立し、現在も地蔵廻りの風習が残り、8月23・24日は賑わっている。

徳林庵の北側にある十禅寺は、人康親王が山荘に聖観音を納め天台宗寺院とし、

江戸初期に明正天皇が伽藍を整備させたものだが、鉄道敷設時に少し南へ移動している。

廻地蔵から数分で四ノ宮川を渡ると四ノ宮駅前通と交差する。このあたりは古代からの交通の要所で、「宇治拾遺物語」や「平家物語」に散見される。木曾義仲や光厳上皇が京より脱出するとき通過したとある四宮河原も、江戸時代に河原は消滅し、文献に四ノ宮の地名や河原観音が残る。

② 四ノ宮から小山(音羽・小山)

小山の牛尾観音登山口への道筋は多いが、四ノ宮駅から南へ向かい、四ノ宮バス停・警察署前を通り音羽の八ノ坪で左折する。東へ向かうと大きな建造物が目立つ音羽病院の正門前へ着く。病院前から数分歩くとY字路になるが、右へ小山北林町へ入り、小山バス停から高速遊歩道を走って山科音羽川筋へ向かう東道を歩く。

本願寺派明教寺のある御坊



内町から大石山の白石神社下を過ぎると人家は途切れる。音羽川の西側と南側は旧大塚村、北側と東側は旧小山村の区域となる。

③ 小山から牛尾観音(小山・長尾)

音羽川沿いの牛尾観音参詣道は車道に拡張舗装されて近世の面影もないが、音羽山系と行者ヶ森が迫る渓流の瀬音を聞きながら歩く。初夏の暑さを散らす鏡子ノ滝を見ると少し先に音羽ノ滝がある。

林道の勾配がゆるくなり、数分も上がると牛尾キャンプ場があって、ボール遊びもできる広場が整備されている。南西へ分岐する登山路は485段の高塚山への最短の登山コースで、北東へ続く道に鳥居があって牛尾観音への階段道が続く。階段を上れば300段、右へ大きく廻るゆるい坂道の林道を上れば600段。二手に分かれて上がって見たが、階段コースが3分早く牛尾観音の本堂前に到着した。

④ 宝蔵寺「牛尾観音」(西野 東山)

音羽山から西南へのびた支峰の牛尾山の中腹にある単立の修験宗本山で、昭和

二〇年に牛尾山の山号を牛尾山と改め、本尊は千手観音である。近世の都名所図会には「七曲の上有り。真言宗にして本尊十一面観音、天智天皇の御作。」などと記し、京の清水寺の奥の院とある。

平安中期以降の観音信仰の風潮に乗り込んでいたが中世には衰え、現在の本堂は元禄時代の再建で、近世の観音信仰の巡礼寺として寺勢を維持してきた。本尊の脇土として不動明王・毘沙門天を配し、行僧居士・延鏡法師像も安置してある。

本堂前には黒泥蔵と金明水は智証大師が紺紙金泥の曼陀羅書写に使用したという。鐘樓の傍らには境内を引き締める天狗杉といわくの深い不動滝がある。



当寺と洛東にある音羽山清水寺の奥の院との関連は不詳であるが、むかし延鏡沙門が音羽川渓谷を訪ねたとき、行僧居士の杵を拾い悟りを深めた話もある。

⑤ 展望台(東海自然歩道、東山地域)

参道終点から右手へ赤土のはみ出た細い急坂を上る。ジグザグに数分上がる赤松の雑木林の山腹道となり、送電線の鉄塔下へ出る。鉄塔から右手の山道に入り、急坂を上り切ると東海自然歩道が通る稜線に出る。展望台で昼食をと、醍醐寺奥の院や石山寺方向へと数分も歩いて展望台へ着く。牛尾観音から40分の山道だが変化があっておもしろい。山城と近江を展望できる好位置に設置された展望台だが、樹木が成長しすぎて展望は悪い。

⑥ 音羽山(京都市と大津市に跨がる)

展望台から方向転換して稜線の東海自然歩道を音羽山目指して歩く。牛尾観音への分岐からゆるい坂道を上がると、灌木に囲まれた休憩地がある。山中には立派なお手入れの所もある休憩地で、利用も多い。ゆるい上がり下がりを利用者も多し。593段の灌木の茂る、かなり広い山頂で、草木のない広場もある。山頂の真下を東海道新幹線の四ノ宮余りの音羽山トンネルが貫き、名神高速は西

山麓から北、東へと半周している、とそこにいた登山者が話してくれた。ポンポン山から西山・愛宕山方面は少し霞み、大文字山は思ったより近くに見え、琵琶湖の広がる大津市域は案外近く感じられた。

⑦ 蟬丸神社(大津市大谷町)

旧東海道逢坂峠東口の上り道の逢坂一丁目二つの関蟬丸神社が鎮座する。峠に近い旧片原町の高い石段上には関蟬丸神社上社、300段下方には下社がある。逢坂峠西側の大谷町鎮座の蟬丸神社は万治三年(1660)に関蟬丸社を勧請した社で、逢坂の守護神の猿田彦大神・豊玉姫と合祀し、蟬丸を祭祀してある。蟬丸神社から旧道に平行する京阪大谷駅へは2・3分である。

大阪・中之島公園を訪ねて

松永恵一

淀屋橋
江戸時代の中之島には諸藩の蔵屋敷が立ち並び、大坂商人の米倉が林立していた。松並木、蔵屋敷の白壁や海鼠塀。元禄時代に四十藩の蔵屋敷があったという。海路運ばれた諸藩の米は大川を遡り、荷揚げされる。米市・青物市には船がひっきりなしに出入りしていた。

中之島周辺を整備したのは、淀屋橋、常安町に名を残した日本一の豪商、淀屋・岡本常安であった。才覚にあふれた材木商「淀屋」は秀吉の淀川築堤工事を請け負って頭角を現し、大坂の陣では家康に茶臼山の本陣を献上した。名字帯刀が許され、中之島の開発権を与えられ財を成した。その子、个庵は店の前に米穀

取引所を開き、米の相場をたてるという世界最初の先物売買を始めた。その米市に集まる商人のために架けたのが「淀屋の橋」だった。淀屋橋南詰の少し西に「淀屋の屋敷跡」の碑が立っている。

「淀屋の屋敷は豪勢を極めたという。『元正間記』は描写する。百間四方の屋敷。いろは四十七の蔵が立ち並び、冬場は金のふすまを入れ、夏はビードロの障子にし、座敷のガラスの天井に金魚が泳ぐ。手代30余人、総家内170人いたという。

米を支配し、大名さえもがひれ伏した豪商は、宝永二年(1705)、五代目廣常のとき、「警沢が過ぎる」というむちゃくちゃな理由で、幕府は財産を没収し、



日本銀行大阪支店

大坂から追放した。時あたかも、元禄バブルがあえなく弾け、緊縮財政へと向かう時期であった。「西国九州の諸大名で淀屋に借金のない者は一人もない」

没収された財産は美術品・鉱産物のほか、金約十二万両、銀約十二万五千貫目と、所有していた171ヶ所の屋敷、240ヶ所の田地。加えて、關所によって將軍家への八十万両、諸大名への銀一億貫目にのぼる貸し付けが雲散霧消した。

中之島図書館

大阪府立中之島図書館の旧本館(重要文化財)は、明治三十七年(1904)に住友第一五代当主・住友吉左衛門友純氏が大阪府に寄贈した。ニューヨーク図書館の影響を受けたコリント式円柱に支えられる正面は、ギリシアのパルテノン神殿を思わせる。ネオバロック様式のクラシックな雰囲気の外観。設計は住友臨時建築部技師の野口孫市氏と日高啓氏。玄関には「大坂図書館」と記されている。

教会のような銅葺きの中央ドーム。中央ホール廻廊へ通じる階段の黒光りした手すり。ホール左右の壁面には、「長崎平和祈念男性裸像」で知られる北村西望氏の彫刻「野神像」と「文神像」が立つ。住友吉左衛門氏は「建館寄付記」に、「我が大阪は関西の雄府にして、人口百万、財豊かに物殷んにして、諸学競い興る。而かして図書館の設独り焉を闕く。……図書館の建物と図書購入の基金を寄付して微力をつくしたい」と記した。

正面脇に川田順の歌碑が佇む。川田順は住友総本店で活躍した実業界の重鎮。難波津のまなかに植ゑし知慧の木は五十年を経て大樹となりぬ

大阪市中央公会堂

中之島のシンボル中央公会堂は、大正七年二月、北浜の相場師・岩本栄之助氏が大阪府に寄付した百万円(現在の貨幣価値では五十億円以上)の基金をもとに建てられた。老朽化のため取り壊されようとしたが、保存運動が展開され、建築時の姿を復元する全面的な改修工事が行われ、地上三階、地下一階のネオ・ルネサンス様式の赤煉瓦と青銅屋根の美しい建物が蘇った。

岩本栄之助氏は、明治四一年、波沢栄一を団長とするアメリカ派遣団に参加した。この時「金を稼ぐだけが能やない。世のため人のために、なんかお役に立ちたい」と、思い立ったという。

一時は「北浜の太閤はん」と異名をとった天才相場師は、株で失敗し、大正五年公会堂の完成を見ることなくピストル自殺した。辞世の句は、

その秋を待たで散りゆく紅葉かな
「大正時代のロマンチックな雰囲気」を散歩しながら楽しんでほしい」と、ライトアップされ、ドーム型の屋根や窓枠などが浮かび上がる。照明デザイナーは、東京タワーなどを手掛けた石井幹子さん。

大阪市立東洋陶磁美術館

世界的に有名な東洋陶磁の「安宅コレクション」は散逸を免れ、住友グループ21社から大阪府に寄贈された。東洋陶磁の美の精髓を味わい、感動することの喜びを提供する場として昭和五十七年に開館。国宝二点、重要文化財十三点を含む中国・朝鮮の古陶磁の名品が揃っている。

落ち着いた雰囲気と陶磁器の美しさ、魅力を堪能することができるようにと工夫され、広々とした館内にゆったりと展示されている。自然光を受けた白磁は透き通るように美しい。関白秀次等が所有した国宝「油滴天目茶碗」が目をひく。油の滴のように金、銀、紺に輝く斑文が、内外にびっしりと現れている。

鴻池家伝来の国宝「飛青磁花生」は、茶人に好まれた。ほっそりした頸と豊かに膨らんだ胴部が見事な均整美を見せる。鉄の赤茶色の斑点が青磁の上に絶妙なバランスを保って配置されている。

在日朝鮮人で元外交官、経済学博士の李秉昌氏から寄贈された韓国陶磁の逸品300点の李コレクション等、多くの寄贈者のご好意により館藏品は増加の一途をたどっている。



中央公会堂

コース概観

中之島は堂島川と土佐堀川に挟まれた東西約3・5キロの中洲。堺筋・御堂筋・四つ橋筋などが縦断する水の都・大阪の文化、経済の中心地域。東側の約半分が中之島公園。明治三四年(1891)に大阪市初の公園として整備された。日を受けて黄金色に輝く川面。緑あふれる都心のオアシスに明治、大正にかけて建てられた名建築を求めて出かけた。

地下鉄四つ橋線後橋駅下車。北に土佐堀川を渡り、フェスティバルホールの前に来ると、ここから川沿いに緑の遊歩道が淀屋橋までつながっている。平成元年に整備された400mの中之島緑道には、ケヤキやツツジ・ツバキに浴け込むように「水・緑・光」をテーマにした表情豊かな彫刻が十体設置されている。ほてばての表情の「花の天女」、巨大座布団を二枚並べたような「一對の座」が、心を和ませてくれる。

川向こうに三井住友銀行が見える。高村薫さんのデビュー作で、日本推理サスペンス大賞を受賞した『黄金を抱いて翔べ』の舞台。大正一五年築の重厚な銀行本店の地下に眠る、百億円の金塊の強奪計画を立てた男たちの物語。

緑道が終われば、もうそこは淀屋橋。大勢のビジネスマンが往き来する。日本銀行大阪支店(重要文化財)は青緑のドームをもつ煉瓦・石造りの建物。ベルギーの国立銀行がモデルで、ネオ・ルネッサンス風の優美な建物である。辰野金吾氏の設計で明治三六年竣工。江戸時代はこの地には島原藩の蔵屋敷があり、明治四年(1871)3月前島密らの努力で郵

便制度が設けられた際、ここに「郵便役所」が設けられた。記念碑が日銀大阪支店の正面左側の隅にひっそりと建っている。

明治初期には近代大阪の礎を築いた五代友厚の別邸がこの地にあった。薩摩藩士で新政府の最高の実力者、大久保利通とも太いパイプで結ばれていた五代は、蔵屋敷の廃止などで極端な不況に陥っていた大阪に近代工業の粋を集めた造幣寮(現造幣局)を誘致した。創業式典には、無数の火花が打ち上げられ、ちょうちんを掲げ、お祭り騒ぎをしたと伝える。官僚を辞めてからは実業家に転身し、大阪商人をまとめて、大阪商法会議所(現大阪商工会議所)、大阪株式取引所(現大阪証券取引所)を設立した。

市役所前の道は「みおつくしプロムナード」と呼ばれる。中之島図書館、中央公会堂と近代大阪の歴史を象徴する貴重な建物が密集し、東側に市立東洋陶磁美術館が並ぶ。野外音楽堂やテニスコートなどもある。図書館の前、堂島川にかかる水晶橋は昭和四年につくられた。大阪は水の都。橋にもユニークなものが多く、この水晶橋は可動堰の機能をもっている。

ゆっくり歩く。「当代ならびなき詩人」と称された三好達治の文学碑がある。

母よ

淡くかなしきものふるなり
紫陽花いろのものふるなり
はてしなき並樹のかげを
そうそうと風のふくなり

(中略)

母よ 私は知つてゐる

この道は遠く遠くはてしない道

「乳母車」より

ライトアップされた中央公会堂の大正



中之島公園付近略図

ロマンの風情を今に伝える威風堂々とし佇まいは、やはり正面から見るのが一番である。難波橋や堂島の川越しに見るのも一興。中之島公園は桜の名所。春の桜の季節、夏は夕涼みがてらの散策、秋の黄葉と四季折々に楽しめる。

東洋陶磁美術館から川沿いに並木道を歩けば難波橋。下を見れば、バラの花園に寄せる波。川沿いに林立するオフィスパイル。やわらかく降りそそぐ光。水都・大阪の中之島バラ園。春から秋にかけて、いろんな品種の真紅や黄色、白など色とりどりの美しいバラが咲き乱れ、ゆったりとした時が流れている。ビジネス街の真ん中のオアシス。ヨーロッパ的な風情が、バラの庭園に色濃く漂っている。

大阪の市街地を南北に結ぶ天満橋・天神橋・難波橋は江戸時代から「浪華三大橋」と呼ばれ、商業や物流の要として重要な役割を果たしてきた。また、難波橋は大川納涼や花火のメッカであった。橋上からの眺望は素晴らしく、「摂津名所図会大成」は「この橋の上より東西の眺望佳景なり、且、左右を見巡らせば十有餘橋の眼前にありて浪華無双の奇観なり」と絶賛し、「摂陽奇観」は三田市の有馬

富士が見えた」と記している。

現在の難波橋は大正四年(1915)に市電事業により架橋された。華麗な照明灯、市章を組み込んだ高欄やライオン像など、大正初期の粋を凝らしている。阿・吽のライオン像は陶岩製で、天岡均一氏の制作である。

前景に土佐堀川の水面に揺れる幻想的な光を配し、ライトアップされた中之島公会堂。背景には近代的な摩天楼がそびえ立つ。新旧の建築物が夜空に織りなす光彩の対比が美しい。

(コース)

地下鉄肥後橋駅—中之島緑道—日本銀行
大阪支店—大阪市役所—中之島図書館—
水晶橋—中央公会堂—東洋陶磁美術館—
バラ園—難波橋—地下鉄・京阪北浜駅
(地形図)

2万5千—大阪西北部・大阪東北部

(問い合わせ先)

府立中之島図書館

中央公会堂

東洋陶磁美術館

06(62003)0474

06(6231)0631

06(6223)0055

〈山のレポート〉

山の地名を歩く⑦
「湖沼と湿地帯」

西尾 寿一

火山の多いわが国では湖沼や湿原が多い。海岸近くの湖や河川のワンドを除けばほとんどが火山に関係の深いもので、カルデラの山上湖から崩壊地のダム湖(自然ダム)まで教材に不足しないほど豊富である。

なかには深い山中に秘やかに、美しい樹林に囲まれてだれにも知られることなく存在する湖沼もある。そんな湖には昔から伝説が語り継がれている。

近年急速に増加しているのが人工的なダム湖で、昔から水田用に供されている溜池のように自然に組み込まれている状態にはない。むしろ西欧的な新しい景観をつくって、それが当たり前のような時代となりつつあるのを惜しむ。

北海道のカルデラ湖は美しいものが多く、西に行くほど開発され利用される度合いが強くなっている。九州の阿蘇山は火

山にちがいないが、湖は消滅したのか巨大なカルデラ湖底は人が住み町までつくっている特別なものだ。

箱根や十和田湖や洞爺湖などは観光地として不動の地位にあるが、われわれの関心はそのような開発されているものではなく、いまだ人知れずひっそりと隠れている湖沼や山上池のたぐいなのだ。

登山には多くのジャンルがある。そのなかで最近、山中の湖沼を専門に探るグループがあると聞いたがおもしろいと思う。知床五湖は現在車で入れるが、昔は大変な苦勞を強いられた。山上湖も開発しやすい所から順次開かれていくがもう限界である。後に残された若干のものは、開発してもコストが合わないからと放置されようからまずはひと安心だ。

山の湖の大部分は物好きな登山者や好事家が行っているが、もっと小さなものならまだ無数に存在する。白山・乗鞍・立山・鳥海山といった巨大火山では、地形図で探せばたくさん残っていて探検的気分を味わせてくれる。

石灰岩地帯ではウバールがたくさんあって、水の有無で窪地か池かの判定がむづかしいが、全国的に楽しめる分野だ。鈴

鹿山地の御池岳の池探しは一時ブームとなったが、多くの未知の池が発見され成果をあげた。

山中の池と湿地のキーワードは水である。水の有無でただの窪地か湿原であるかが決まる。池は水が中央に集中的に他と隔離されている状態であるが、湿地は水の性格のまま拡散した状態である。これは土質と乾燥の度合で決まるのだらう。

その中間あたりが「ノタ・ヌタ」というもので、昔から「猪のヌタ場」などと言っていて関西の山ならどこでも存在する。猪がダニなど寄生虫を落とすため泥浴びをする所といわれる。鈴鹿山地は特にこれが多く、夏でも濡れない大きな池状のものから梅雨期のみのものまで千差万別、見本のようにそろっている。

柳田国男「地名の研究」は毎々お世話になるバイブルであるが、沼地・湿地をみると若干奇異に感ずることもある。

東北で湿地を一般的にヤチと言うのは小生の経験でも知っている。これが九州へ行くとムダと言い、長門でウダ、京都で宇多、武蔵と甲斐の一部でヌタまたはノタとなるのだと言うのだが、京都の宇

多野が湿地帯だったとは驚く結果だ。

西日本では開発が進み、元の地形や状態が不明になっていたのでにわかに判定しがたい。湿地帯だった所に住宅団地が出来ている例がよく見られる。

柳田はさらに「猪猟師がよく知っている言葉に、ヌタともノタとも言うのは、また同じ語だったかと思うが、これだけは九州でニタと違って区別している」とあり、少々怪しくなってくる。ヌタ・ノタは関西でも普段に使っているが、宇多は知らない。料理でヌタがあるからヌタ・ノタは武蔵や甲斐の独占ではなく関東以西の普遍的な語であるような気がする。関西では他に「シル・ジュル・ジュル」がある。これは「汁」を連想させるがまさにその通りで、湿地のような谷道を「ジュルミチ」と称して鈴鹿に現存する。

他に「フケ」(沼)がある。京都伏見の泓ノ窪町はその跡で、今日では水路が集まる所であるが、昔はさぞ氾濫原だったのではないかと想像される。

地名学者の池田未則氏は「深・フケ」で、大阪の深江はフケ地であると言われている。また湿地なるが故に葦原となり、葦・

芦の字をもつ所も湿地であるという。従ってこのような土地に社寺を建立したり村をつくる場合には湿地の反対語として「高・安・泰」などの字が使われる傾向があるという。言われてみれば思い当たるものがたくさんあるのだが、それにも増して地名探索の際に漢字の意味に振り廻されていることを反省しなくてはいいようだ。

漢字の地名は一応カナにして源意を探ることを心がけたいものだ。

マスメディアの影響で情報伝達のスピードは全国を均一にする勢いであり、関西井も関東で通じる世になったので、先のヌタ・ノタも全国的になるかも知れないが、どの地方で何が使われていたかの記録は、ぜひ保存しておきたいものだ。

柳田は「将来『湿地』などという急造語を使うかわりに、何か一つの語をとって土地の農夫と、心おきなく話ができるようにしなければならぬ」と言っているが、そんな時代が来ないまま猛烈な勢いで湿地は開発の波に吞まれていった。われわれは山奥に残された未知の池塘の一つを宝物を見つけた思いで愛でるよりほかなくなつたのである。

オリジナルザック
登山用品専門店
山と山道具のアドバイザー

神戸ザック
http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

IMOCK KOBÉ
アウトドアスポーツウエア

イモック山遊行くらぶ
1月19日(日) 皇馬の中央山地
須留ヶ峰(1054m)
2月9日(日) 比良山系
武奈ヶ岳(1214m)
◎詳細はお問い合わせください。
〒653-8629 神戸市長谷区日吉町1丁目1番10号
TEL (078) 621-5851
FAX (078) 621-3528
■営業時間/10:00-20:00 ■定休日/日曜日

◆中型ザック紹介◆
◆ワイルドミユ◆

山小屋2〜3泊。シンプルで、フロントポケット、両側にも開えるようにシングルプレートフレームを内蔵し、アウトドアな山行に最適。立休状態で身体にフィット。

★カラー ファインレッド×モノクロ
ネイビー×モノクロ

★容量 1800g
★重量 1800g
★素材 高密度ナイロン
★価格 ¥15,000



〈山のレポート〉

十二支の山

未年の山

生駒 登峰

今年のえとは未である。未、即ち羊だが、この文字名を持つ山は全く少なく、知られているのはわずかに四山を数えるのみである。

十二支の山では、子年の山も四山で、共に十二支の中では最少の数である。

羊は一万年も前から家畜として飼育され、犬とともに最初に家畜となった動物である。その肉や乳は食用に、毛は織物や衣服に、脂や皮さらには糞までもいろいろと利用され、人類にはかけがえのない家畜であった。人との付き合いが長いので、人間の信条や宗教のなかにも数多く取り上げられてきた。

しかし、中国から伝わってはいしたが日本では仏教の関係もあり、肉食をしなかつたので羊の需要もなく、飼育されるようになったのは明治以後である。そのため知名度も低く、それが山名の数にも響いて

ているのではないかと思う。

①羊蹄山(後方羊蹄山・1893m)

1等三角点(点名真狩岳)

北海道で蝦夷富士と言われる山で、日本百名山の一つでもあり、だれ一人知らない人もないだろう。登られた方も多しと思う。全く富士山そっくりの独立峰で、どこから見てもすぐ同定できる北海道一のすばらしい山である。

『日本書紀』に「659年阿部比羅夫が後方羊蹄に政庁を置いた」と記されていて、後に、松浦武四郎がこれをもとに後方羊蹄山と名付けた。

後方羊蹄山は(シリベシ)の当て字で、シリベシは後方。シは羊蹄でギンギンの雑草の古名とのこと。しかし文字からは(シリベシ)と読めないのが、文字通り羊蹄山と呼ばれるようになったということである。

またアイヌ名はマチネシリ(雌岳)で因みに尻別岳(前方羊蹄山)はピンネシリ(雄岳)となっている。

通常はマンカリヌプリとも言われる。

②尻別岳(前方羊蹄山・1107・4m)

登ったこともなく情報も持っていないで不明だが、羊とは関係がないらしい。

④櫃ヶ岳(未ヶ岳・羊ヶ岳・582・1m)

2等三角点(点名櫃ヶ岳)

関西にある山だが、以前は櫃ヶ岳に羊ヶ岳の名があることが知られず、取り上げられなかった。

『兵庫丹波の山』慶佐次盛一氏著では「羊ヶ岳の(ヒツジ)はヒ・ツジで、ヒは鉄を表す(火・日)。ツジは頂を表す(ツムリ)の転訛で、つまり(山)の事。ヒツ

ジ(鉄の山)の意味になり、後に(櫃ヶ岳)と言う名前前に音訛した」とある。

篠山盆地の北に連なる多紀アルプスの東端にそびえる山で、篠山町の宮代林道から1時間程で登れる。

未の山は数が少なく、初期の頃は羊蹄山しか知られていなかった。そのため十二支の山を登っている十二支会でも、一回・二回は羊蹄山に登っている。通常十二支会ではその年の1月に登ることが多いのだが、北海道の高山では冬季登山はプロでも難しいので、唯一6月に登っている。三回目は櫃ヶ岳を羊ヶ岳とし、櫃

2等三角点(点名後別岳)
羊蹄山の南西すぐ近くにある山で、前述の如くピンネシリ(雄岳)と言われ

羊蹄山が雌とすれば、ずいぶん小さい雄だが、動物や昆虫の世界では、雌のほうが大きいのが多くいる。山もそれに従ってみると、雌のほうが低くても異つ当かもしれない。

前方の名はどこから来たのだろうか。後方羊蹄山のように、古代名からの当て字かもしれないが、単に後方羊蹄山の前と言っただけかもしれない。羊蹄山より低く道もよみで簡単に登れるが、山頂から羊蹄山はすばらしい、いやすごい展望である。

通常は喜茂別側から林道を登るのだが、反対の留寿部からも登路があり、先年登った岳友は、遊園地の通行に入場料を取られたそうである。

③未丈ヶ岳(大島未丈岳・1552・9m)

2等三角点(点名大島岳)

奥只見にあるこの山は唯一、未の付く山で、奥只見湖の北方に位置する。近くには日本百名山の越後駒ヶ岳がそびえ

ヶ岳に登っている。

十二支の山も毎年一山くらいは登りたいものだが、幸いなことに、数が少ないのに関西には櫃ヶ岳がある。しかも簡単に登れるので、十二支の山を目指している方には助かるのではないだろうか。

山と高原地図シリーズ

定価 各750円(税込)

- *1 利尻・羅臼・洞爺・阿寒
- *2 七ツコ・羊蹄山
- *3 大雪山・十勝岳・横尾岳
- *4 十和田湖・八甲田
- *5 八幡平
- *6 栗駒・早池峠
- *7 蔵王
- *8 鳥海山
- *9 朝日・出羽三山
- *10 飯豊山
- *11 磐梯・吾妻・安達太良
- *12 那須・塩原
- *13 日光
- *14 霧ヶ峰
- *15 越後三山
- *16 谷川岳・吾妻山・岩手山
- *17 志賀高原・草津
- *18 妙高・戸隠・雨都
- *19 軽井沢・浅間
- *20 赤城・奥海・筑波
- *21 西上州・妙義
- *22 奥武蔵・秩父
- *23 奥多摩
- *24 大菩薩嶺
- *25 霧ヶ峰山・両神山
- *26 会峰山・甲武信
- *27 高尾・陣馬
- *28 丹沢
- *29 箱根
- *30 伊豆
- *31 富士・富士五湖
- *32 八ヶ岳・御料
- *33 美ヶ原・霧ヶ峰
- *34 北アルプス総図
- *35 白馬岳
- *36 黒岳・五竜岳
- *37 野・立山
- *38 上高地・穂・穂高
- *39 奥穂高岳
- *40 御嶽山
- *41 中央・南アルプス総図
- *42 木曽駒・空木岳
- *43 甲斐駒・北岳
- *44 雄尾・赤石・聖岳
- *45 白山・荒巻岳
- *46 奥山・伊吹・藤原
- *47 御在所・櫃ヶ岳
- *48 比良山系
- *49 京都北山1
- *50 京都北山2
- *51 京都西山
- *52 北摂の山々
- *53 六甲・摩耶
- *54 葛城高原・二上山
- *55 金剛山・岩手山
- *56 紀伊高原
- *57 大峰山脈
- *58 大台ヶ原
- *59 赤目・奥穂高岳
- *60 水ノ山
- *61 大山・森山高原
- *62 四国駒山
- *63 石鎚山
- *64 福同の山々
- *65 阿蘇・九重
- *66 祖母・楳
- *67 奥岳・阿蘇岳
- *68 奥久良

*印は新仕様の地図です

- 昭文社の「山と高原地図」は年度版として毎年春頃発行します。この山行の際はなるべく最新版をご使用下さいませようお願ひ申し上げます。
- 2002年度版は13日光・男体山・白根山「1889高・戸隠・雨都」「42木曽駒・空木岳」「45白山・荒巻岳」「53六甲・摩耶」を全面改訂しました。



本社 東京都千代田区麹町3-1
電話03(3556)8111(代) 〒102-8238
支社 大阪市淀川区西中島6-11-23
電話06(6303)5721(代) 〒532-0011
(インターネットで検索発行中)
http://www.mapple.co.jp/

〈山のレポート〉

真ノ谷から土倉谷へ

児玉翁の窯跡を訪ねる

近藤 郁夫

拙著やぶこぎ讃歌「御池岳春夏秋冬―霧物語」(1996年)は、藤原町坂本の古老、児玉翁からの炭焼きや当時の坂本谷、真ノ谷、土倉谷一帯の地名等の聞き取りを行っている。例えば一三九頁「児玉利雄氏による坂本谷概念図」、二〇四頁「児玉利雄氏によるオオタザカ付近概念図」において、白船峠から真ノ谷へとまっすぐ通じる道を、オオタザカ一帯で茨川方面へとウツクシボラ(二〇四頁の表記カックイボラは間違い)―アナダニ―ヒトヨビ―ナガレボラとなっており、やがて善右衛門谷へと至る。真ノ谷右岸(対岸)は土倉谷から上流へ、ワサビボラ―カヤノヘラ(一三九頁図ではミズキボラの表記もある)である。翁が語られる、当時の柚人が呼称していた地名をそのまま記述し、図示したものだ。だからどのような漢字を当てるのか、どこからどこあた

りまでをそう呼称していたのか、不明のまま七年経ってしまい、この記述はこれが一区切りのはずであった。

ところが、HP「鈴鹿樹林の回顧」の黒田豊年氏が、その「廃村茨川研究」の作業の過程で、元茨川在住の筒井家所蔵「茨川古絵地図」(その図にある「員弁郡西藤原村字坂本」等の記述から、おそらく明治期に作成されたと思われる)を発掘し、その「古絵地図」の記述と僕の「霧物語」の記述が偶然に接点をもつに至った。この古絵地図はまことに興味深い地図で、茨川での生活実感をそのまま地図に反映している(例えば、茨川周辺は詳しく大きく描く離れるにしたがって、小さく記述されていること。真ノ谷の曲がり具合が現代の地図と異なり、極端に曲がりたり省略されていたりしている等)。

古絵地図によれば、接点の部分はこう記述されている。土倉谷より上流を山突洞―萱野平―水〇〇(虫食いのため判読できず)―サル谷―キワダ坂となっている。水〇〇とは児玉翁からの聞き取りでは「ミズキボラ」であり、「水木洞」と虫食いを修復できたのはうれしいことであつた。

同様に真ノ谷左岸を善右衛門谷から上流に三筋滝ノ上―流ヶ洞―人呼―穴ノ谷―美シ洞―奥イセ谷(奥イセ谷には道が描かれており、真ノ谷から白船峠に直登する道であることがわかる。茨川住民からは伊勢谷は治田峠を経由して伊勢の町に至る重要な生活路であり、白船峠を経由して伊勢側へ出る道はまさに「奥イセ谷」と呼称するにふさわしい)―チシヤ谷―矢木洞―狼谷となつている。しかし、それぞれの地名が真ノ谷のどのあたりをいうのか、特定するのはなかなか難しい。ただし、奥村光信氏の絵地図には水木洞の記述があり、氏が作成の参考になっている「永源寺町山林地図」を改めて詳細に見ると、確かに「水木洞」の記述があつた。さらに永源寺町図をあれこれ見ていると、「人呼」の地名も登場した。これで漢字とともに、その地が確定できた。

「人呼」とは何と意味深な呼称だろう。人が呼んだのだろうか、人に呼ばれたのだろうか。黒田氏はこの古絵地図を眺めながら「人呼」とはどこかで見たような地名であると、記憶をたどりながら僕の「霧物語」に至ったという。まさに呼ばれたのだ。これと既知の土倉谷、オ

オタザカをあわせてあれやこれやと古絵地図の地名と実際の場所・地点を楽しく推理をしている最中である。

こうして児玉翁からの聞き取り図と古絵地図を眺めていると、聞き取りでは不明であった漢字の表記が明らかになったことはうれしく、同時に15歳から18歳まで土倉谷で炭を焼いていた児玉翁の記憶の確かさ(約60年前のこと)に恐れ入るのである。

この古絵地図についてのこと、氏の記憶の確かさに「恐れ入りました」とお話ししたく児玉翁をお邪魔した。7年前の聞き取りを記憶しておられ、僕は歓待を受けた。

そこで、翁が15歳〜18歳まで炭を焼いておられたのは土倉谷のどのあたりかをお教え願ひ、調査を兼ねて10月末にコグルミ谷からその地を訪れたのである。

風は冷たい。天ヶ平から黄葉を愛でつつなだらかにくだり、真ノ谷へ。どこがどの地名の所か、右を見ては左を見る。足元も見えないと転びそうになる。ああ、黄葉が絶品の真ノ谷。土石流後、坂本谷が通行不可になっているので、ここを通

る人は少なくなっている。それを示すの

か、落ち葉が深い。鹿が鳴く。この谷が水木洞かな。テント場あたりも絶品。このあたりカヤノヘラだろう。ニシオオタザカ通過。ほどなくオオタザカ(古絵地図によれば奥イセ谷)通過。おやおや、真ノ谷から上がる道がえぐられてしまつている。河倉峠ヘトラパースしていく廃道入口通過。巨大な岩がゴロゴロ転がっている。その間隙をぬうようにしてくだっていく。ここを重い荷を負ってはきつかる。ジンジソウは年に一度の寄り合いを終えたよう。次の曲がりか土倉谷かと思えどもなかなか姿を見せぬ。けっこう距離はあるんだ。やっと土倉谷出合に着く。

さあ児玉翁の窯跡を探そう。土倉谷を少し登れば、右岸側に上部、平坦地と思えるところへ通じるかすかな道跡。ここかも知れぬ。その道跡を木につかまりながら登る。途上、所どころに黒く炭化した気配。進めば視野が開け、まさに窯跡。静寂のなか、苦むした石組。ノギクとアケボノソウの残花に窯口は飾られて。児玉翁が15〜18歳までの三年間、確かにこの地で炭を焼いていたのだ。まもなく翁

は86歳とするならば70年前か。その後

にこの地を訪れた人はまずいないはず(登山道からはずれた地ゆえに)。比較的大きな窯だ。土盛りもしつかり残っている。周りの炭の残滓も多い。炭を手にとつて眺める。そうか、この炭が児玉翁が焼いた炭か。70年の歳月を忘れさせる黒々と艶のある断片。

去りがたい思いに区切りをつけ、炭の断片を二つ三つといねいに袋に入れて、僕は立ち上がった。

この炭を児玉翁にプレゼントしよう。またお話を聞かせてもらうことを楽しみに。

＊鈴鹿の山中に無数にある炭焼きの窯跡は、かつて柚人が炭を焼いていたその労働のあかしである。その人はそれぞれ固有の名前をもつた人であった。とするならばあの窯群は本来〇〇窯と一つ一つ名が残されるべきである。児玉翁によれば、「もう坂本から江州(滋賀県)に炭焼きに通つた人はみな死んでしまったよ」とのこと。今きつちりと炭焼きと地名の掘り起こしをしておかなければ。

利神城をしのぶ

利神山

初級コース(★)
慶佐次 盛一

利神山は利神城址とも呼ばれ、領主池田出羽守由之の時代に、5年の歳月をかけて現存する遺構の城を築き上げ、その雲を衝くような威容から「雲突城」とも呼ばれた。

ところがあまりの規模の大きさに、播磨國領主池田輝政から天主破却を命じられ、城下町として整えられていた平福の町も、次第に因幡街道唯一の宿場町として変貌していった。しかし宿場町としての役目も終え、今はその面影を鏡に流れる佐用川の川端に見せて、観光のスポットともなっている。

登路の入口には大きな道標が設置され、山頂までの所要時間も短い。山頂には桜

の木が植樹され、特に危険な所もなく、近くには平福郷土館・平福陣屋門・宮本武蔵決闘の場など見どころも多い。桜の花の季節には家族連れで一日ゆっくり過ごせるであろう。

智頭急行平福駅で下車する。平福は「ひょうごランドスケープ」の選定地で、「美しい日本のむらコンテスト」でも受賞した所で、平成6年に開業した駅舎は美しい和風造りだが無人駅である。

駅前を少し進むとすぐ左側に平福城址への大きな案内板があり、左折して田畑のなかの道に入る。ここからは、本誌でお馴染みの須藤岡さんの著書『はりまハイクング』がガイドしてくれる。

智頭急行のガード下をくぐり抜け、山麓の道を進んでいくと、次第につづら折れの登りとなる。登るにつれ佐用川に沿った川端風景が足下に広がってくるから、風景を楽しみながらゆっくりと登る。

利神城址の大きな看板を過ぎすと傾斜はゆるみ、休憩所もあるからひと息つくのに都合がいい。さらに先へ進むと天王神社の鳥居があり、石室の中に小さな祠がまつられていた。

神社から次のTVアンテナまでは急な

「また天文台公園」となっている大撫山が見えた。

三の丸跡から利神山までは一段足の登りだが、崩れた石垣の一部が遊歩道に転がり、落石の危険地帯に立ち入らぬようにロープが張り渡してある。ロープ伝いに登って行き、土塁を越えると利神山の頂上(373.3m)、利神城本丸跡である。山頂は広々として、避雷針の横に4等三角点が埋まり、桜が植樹され展望はすばらしい。佐用川の方は深く切れ落ち、川沿いに広がる平福の家並が一望できる。



利神山付近略図

最近できた道の駅も真正面に見下ろせた。

七重八重に重なる低い山並のなかに先ほど見えた大撫山や北に日名倉山、近くに行者山が見えたが、他の山は視界が悪く見えなかった。視界が良ければ後山や船越山などが見えるそうだ。

このあたりは昔は製鉄が盛んだった。千種の鉄は有名だが、大撫山は『播磨國風土記』では鹿鹿山と呼ばれ、山の四方に12の谷があり、いずれも鉄を産すと記されている。利神山の名前について、

『播磨山の地名を歩く』(播磨地名研究会編)は、製鉄関係者が言う「鉄砂」「利鉄」が転じたものであろうと記している。平福の地名も、私は昔のタカラに関わる地名ではないかと考えている。

本丸跡にも古い瓦の破片が見られ、わずか30年だったという利神城の短い歴史をしのびながらゆっくり山上に

利神山での憩い



登りとなるが、アンテナを越えれば傾斜は落ち着き、徐々に高度を上げて三の丸跡に着く。

すぐ目の前に利神山(本丸跡)が迫り、累々と築き上げられた石垣に圧倒される。これだけの石をどのようにして運び上げ、そして築き上げたのだろうか。三の丸跡には古い瓦が散乱して、昔の城跡の名残を留めている。桜が植樹され、「西はり

憩った。

下山は本丸の土塁をおりて、大手と呼ばれる狭い石垣の間から庵川へくだる道をとった。石垣に沿った細い道で、植物の名前などを書いた札もあるが少し急な下りである。

しかしすぐに傾斜は落ち着き、林道終点に出た。利神城址登山口の大きな標識があり、数台は駐車可能である。林道は地形図に載っていないが、地道のゆるい傾斜で、やがて庵川の登山口にくだり、石の道標もある。

あとは庵川沿いに平福へ向かうだけだ。途中左側に利神山を仰ぎ、智頭急行のガードをくぐって佐用川を渡り、左折して因幡街道に入る。千本格子なども見られる落ち着いた家並が続く、地元醸造の醤油屋や、電車の時間待ちに立ち寄った道の駅「宿場町ひらふく」などは女性たちに人気があった。

▲コースタイム▼

- 平福駅(35分) 三の丸跡(10分) 利神山(10分) 林道終点(20分) 庵川登山口(30分) 平福駅
- △地形図▽2万5千リ土方・佐用

特選コースガイド④

湖北

(里山シリーズ12 北近江)

砦のあつた尾根筋

神明山

一般コース(★)
長宗 清司

JR北陸線余呉駅のホームに立って北を望むと、目の前横一線に長い山並がある。神明山を中心にしたコースの全容である。

冬季、湖北・余呉湖以北は雪が多く積もる。林のなかを雪の感触を味わい楽しめる日帰りの里山歩きには、適当な位置にあり、適度な距離と標高をもつ山塊といえる。

余呉駅から北へ、余呉導水路沿いに1.5kmほど上流へ歩くと、取水口付近で茂山から東方に派生した尾根の先端、堂木山に接する。

川岸から尾根の途中にある貯水タンクまで一気に登る。高みに向かううち、氣

づかないくらい小規模の神明山砦跡の残る平坦部に出る。

織田信長と、後継者争いのあった賤ヶ岳付近は、わが国合戦史上他に例を見ない築城戦でもあった。

はじめ羽柴秀吉は、柴田勝家軍を牽制するため、佐久間盛政が布陣する行市山と対峙する目的で天神山に、先の戦いで自軍に吸収した長浜城主柴田勝豊(勝家の養子)の家臣・木下一元・山路正国・大鐘藤八郎を布陣させたが、敵陣の眼下、あまりにも近距離だったため、陣地群構築に伴い撤収させた。その後本陣と北国街道木之本宿(浄信寺)の第一防衛線として東側の佐弥山と、街道をはさんだ西側の尾根筋、堂木山・神明山に砦を築いた。これはあくまで秀吉としては、街道封鎖が目的で、これ以上北方へ攻撃する意図はなかったようである。

堂木山は、城外と標高がほぼ同じであるため深い堀切を設けて城の区域を区画し、尾根上の鞍部は堀切で遮断されている。その証拠に、次の神明山との鞍部(鳥打文室越)はまるで切り通しのように深くえぐれ、われわれは再び高圧線鉄塔のある神明山の中腹まで登り直すことに

「鏡湖」と別名があるくらい余呉湖は波静かで、四季を通じて美しい湖である。

起伏の少ない尾根といっても、小さなピークが六つもあり、クマザサに雪が被る時期は、逆の方向からクロスカントリー風にスキーで滑走するのも楽しいかもしれない。

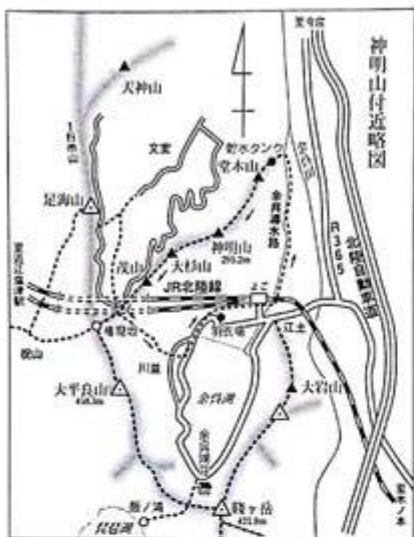
無雪期は尾根にこれといった峠道はなく、小動物の生息の気配がない里山には獣道もないので、やぶ清さを強いられるが、それだけ自然が残った一本道のゆるやかな尾根筋は人影もなく、戦国時代に

武士が駆けめぐった様子が想像できる楽しさがある。

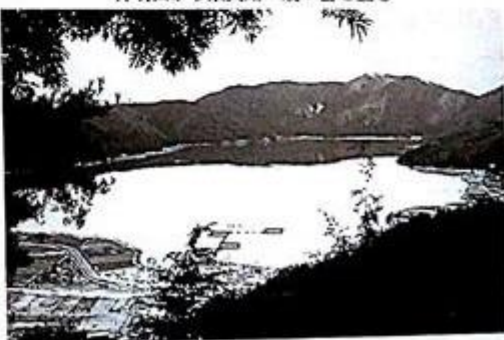
やがて、右からの林道と合流する。ここは正面を横切る行市山から賤ヶ岳につながる主尾根から余呉湖側に少しく違った地点で、上部の交点は権現坂と呼ばれる。反対側の西浅井町祝山から余呉町川並へ抜ける古い峠越えの道で、賤ヶ岳トンネルが完成し国道8号線が通るまでは、東西を結ぶ重要路であった。峠には蔵王権現がまつられていたのでこの名がある。

山路正国の内応で佐久間盛政が、大岩山に布陣していた秀吉軍の中川清秀陣を急襲するために、この峠を越えた。この戦いで複雑な立場の前田利家父子がこの道を通して越前に帰ってしまった、と歴史に残る峠でもある。

ここから川並集落へは、昔ながらのつづら折れの道をくだる。余呉湖は冬場ワカサギが釣れる。糸をたれる釣人の様子を見



神明山から余呉湖・賤ヶ岳を望む



このコースは、地上1550mから238m、さらに高度を上げて最高点は350mにすぎない低山群だが、神明山からの眺めは、東南北三方向に見通しがきく。北の行市山を始め、周辺の山や遠く白銀に輝く美濃の峰々が望め、頂上近くでは杉越しに賤ヶ岳に抱かれたような余呉湖の全景が手にとるよう眺められる。

ながら、また羽衣伝説の衣掛柳を見て徒歩で余呉駅に向かうとよい。

(平成13年2月10日歩く)

- ▲コースタイム▼
- JR余呉駅(15分) 導水取水口(30分)
- 堂木山(15分) 鞍部(鳥打文室越)(45分)
- 神明山(1時間) 林道合流点(30分) 川並集落(30分) 余呉駅
- △地形図▽2万5千1:1木之本△問い合わせ先▼
- 湖国バス(長浜(営))
- ☎0749 (62) 3201
- 余呉駅(観光案内所)
- ☎0749 (86) 2291
- 余呉町観光協会
- ☎0749 (86) 3085
- 余呉町役場(地域振興課)
- ☎0749 (86) 3221
- 国民宿舎余呉湖荘
- ☎0749 (86) 2480

特選コースガイド⑧

越前

駅から歩いて登れる雪山

藤倉山・鍋倉山

一般コース(★)

尾家 建生

JRの青春18きっぷは現在のデフレとスローの時代にはびったりの代物で一度使おうと、次が楽しみになる。これを使つてどの山に行くかは知恵の絞りどころで、特に12月〜1月の冬季は山も限定され、あれこれと思索のしがいがある。仲間に暖かい伊豆の天城山へ登つたつわもの(チニワの奥さま3人)がいるが、そこまでやれば青春きっぷの名に恥じない。

駅から歩いて登れ、日帰りができ、冬らしく雪山が楽しめる、かつ往復のJR運賃が青春きっぷの料金をできるだけ超える所という条件から、北陸線の今庄駅から登る藤倉山・鍋倉山を選んでみた。

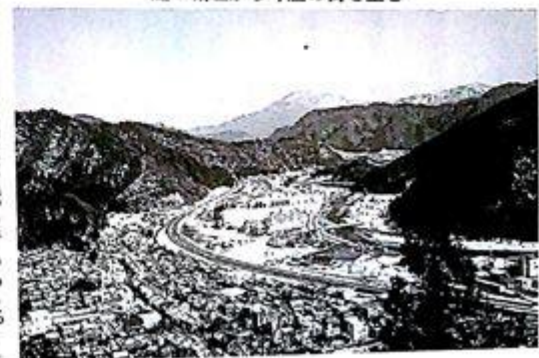
12月にまとまった降雪があったものの、

1月に入ってからでは日本海側でも一向に雪のない暖冬の年ではあったが、敦賀から長い北陸トンネルを抜けると今庄の山間部は白く雪をかぶっていた。藤倉山と鍋倉山は今庄の裏山といったところだが、標高は藤倉山が643mのれっきとした冬山だ。

駅から歩いて5分で登山口の観音堂に着き、アイゼンを装着する。登山口が駅から5分とは、今はやりの駅に直結したマンションのようで便利なことこのうえない。南へ向かって山腹を捲くように取りつくと、樹木が大きくて陰になるのか積雪はクラスト(凍結)し、早くも雪山の小気味良さが足元から伝わってくる。すぐに尾根にのり、木曾義仲が立てこもつたという燧ヶ城址に登り着くと、今庄の街が日野川とともに一望に広がった。燧ヶ城と義仲のことは『平家物語』火打合戦の段に詳しい。平家の多勢を迎え討つ義仲は日野川を材木でせき止め、あたかも海のようにして平家を立ち往生させたという。

雪を踏みながら雑木林の尾根を黙々と登り、最初の鉄塔を越えるあたりで振り返ると東に奥美濃の白い連峰が遠望され

燧ヶ城址から今庄の街を望む



る。頭上を雁の編隊が飛んでいった。このあたりから雪も深まり、アイゼンからワカンへ変えたほうがよい。

樹林が消え、白いピークに登り着くとそこが藤倉山の山頂だった。反射板を背に遮るものがないパノラマを楽しみながら昼食にする。加賀の白山は確認できないが荒島岳の単独峰がひととき大きい。この方角からの奥美濃の連山はすばらし

い眺望だ。

ブナの林をさらに進むと鍋倉山へと主尾根を右、北東へ分ける。この分岐は積雪期には少しわかりにくく、尾根筋はやや幅広くくっついている。すぐに尾根は狭まる。やがて急坂を鞍部にいったんくだり、鍋倉山へと登り返す。途中、北西にピラミダルなホノケ山が印象的だ。登りついた鍋倉山(516m)の山頂はまだらかな尾根上の一地点で目立たない。



藤倉山頂の手前

山頂を少し越えた地点から、北へ向かう支尾根をひたすらくぐると、北陸道の今庄トンネル北出口が見える。やがて八十八ヶ所の弘法寺に出る。参道となつている山道をくぐると今庄の街の北はずれにおり、冬の午後の宿場町を抜けて今庄駅に向かう。町ですれ違った地元の人が見え「ここからあなたがたの登る姿がよく見えましたよ」と声をかけてきた。宿場町の屋根瓦のすぐ背後に、藤倉山にのびる雪の稜線が樹林とともにくっきりと見えた。

大寒の日にしてはめずらしく穏やかな



藤倉山・鍋倉山付近略図

風もない晴れた一日だった。鉛色の冬空が何日も続く北陸の冬にしてはよほどラッキーな日であったといえよう。深い積雪や吹雪があればたちまちに厳しい冬山となる山城である。天候が良くない場合、藤倉山だけの往復とするほうが無難だ。低山とはいえず、ガイドブックでは4月から11月下旬が登山適期とあり、冬季と3月の残雪期には雪山経験者の同行が望ましい。アイゼンとワカンは必携である。日本海の下カ雪にはくれぐれも注意が必要。

(平成14年1月20日歩く)

- △コースタイム
- 今庄駅(5分) 登山口(30分) 燧ヶ城址(1時間20分) 602mピーク(30分)
- 藤倉山(20分) 分岐(1時間) 鍋倉山(50分) 弘法寺(30分) 北側の登山口(15分) 今庄駅
- △地形図V2万5千II今庄
- △問い合わせ先V
- 今庄町役場 ☎0778(45) 1111

特選コースガイド④

備前

2等三角点のある山

和気アルプス

山形 歳之

和気富士（4等・点名和気富士）

初級コース（★）

JR山陽線和気駅前、あまり高くない富士山型の山がそびえている。これが和気富士である。ここから東北の神ノ上山に連なる低山は和気アルプスと呼ばれる。

特徴のない低い山々の連なりで、アルプスとは少し大層な呼び名だが、岩場等もある。そのあたりから名付けられたのかも知れない。富士山の名にしても確かに良い形をしているもの、あまりにも標高が低いのでその迫力は乏しい。しかしその名はよく知られ、ガイドブックにも記載されていて登山者も多い。私

も以前からその名を耳にしていたが、今回2等三角点の神ノ上山を訪ねたので、同じ日に登ることとなった。

列車で行く場合、駅に降りるとすぐ目の前にそびえている。山に向かって橋を渡り、曾根の民家の道を行くと、「自然ふれあいの道」の道標が立っている。ここが登山口になる。

車の場合には登山口に駐車場がない。「曾根の川沿いに板興局やハローワークの広い駐車場があるので、置かせて貰っている」と、登山者が言っていた。

私が行ったときは休日、駐車場は開放されていて人影はなく、2〜3台が駐車してあった。

「自然ふれあいの道」の赤い鳥居から階段を登ると、少しで最上稲荷神社の前に出る。ここに登山地図が描かれ、案内板にはAコース和気富士まで、Bコース竜王山、Cコース神ノ上山となっていた。最長のCコースは4時間とある。

急な丸太階段を登る。20分程でアンテナの立つ和気富士（172・8m）頂上に到着した。鋭峰だが山頂は意外と広く、何本ものアンテナが立ち、「和気北曾根城址」の山名板と4等三角点が設置され

和気富士



ている。

眼下には和気の町が吉井川沿いに広がり、列車や自動車の騒音が響き渡り、山の静けさはない。町中の公園といった所で、有名なわりには物足りない富士山であった。（平成14年3月9日歩く）

△コースタイム▽

登山口（20分）和気富士
△地形図▽2万5千II和気

神ノ上山（2等・点名日笠下）

初級コース（★）

神ノ上山は和気富士から縦走して登れる山で、通常1日の軽いハイキングコースになっている。

両山を登るのなら当然縦走すべきだが、私の場合は2等三角点のある山が主体で、先に神ノ上山に登った。下山してから時間に余裕があったので和気富士に向かった。いつもマイカー山行なので、どうしてもピストン山行になってしまうのは仕方がない。

JR和気駅の東、泉の中学校裏の林道

山頂にはブロック造りの廃屋と2等三角点。80度くらいの展望で、朝に登った熊山が望まれた。

休日とて2〜3組の登山者に出会ったが、低いわりに和気アルプスとして人気があるようだった。山の西麓には和気鶴飼谷温泉があり、汗を流せる。

（平成14年1月19日歩く）

△コースタイム▽

駐車地点（10分）山の学校（30分）鷺の果分岐（20分）神ノ上山

△地形図▽2万5千II和気

（注）和気アルプス山系は松茸山で、9月1日から11月30日まで入山禁止。



和気アルプスの案内板

特選コースガイド④

大峰

大峰前衛の静かな山

唐笠山と行者山

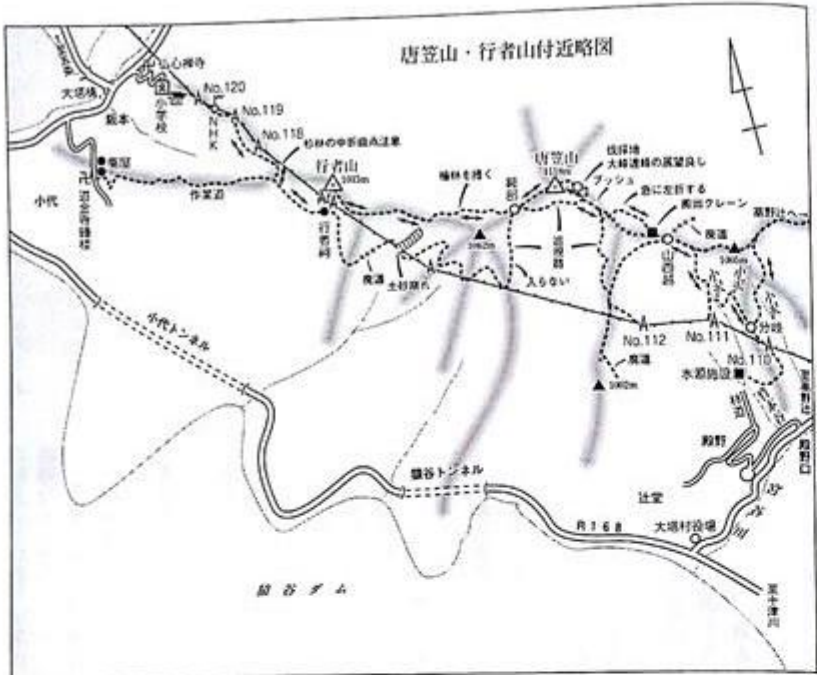
と か さ や ま ギ ョウ ジ ャ ヤ マ
中級コース(★★★)
金谷 昭

唐笠山は大峰主峰八ヶ岳の少し南にある明星ヶ岳より西にのび、猿谷ダムで終わる長大な尾根の最後の高まりである。

堂々たる山容は周囲の山々を圧倒し、その三角錐の端正な姿から唐笠とは頷ける。

紀伊半島の中央部を南北に貫く国道168号線に極めて近く、大阪から日帰り登山が可能にもかかわらず、登る人が少ない。それだけに静寂と清浄が保たれている山だ。

登山路は北麓の大塔村阪本から行者山を経由するものと、南麓の同村殿野からのものであり、南北両方からの道を使っ



て縦走するのにも一興である。

殿野からのコース

五条駅よりバスで辻堂の大塔村役場で下車し、宮谷川沿いの辻堂・篠原線の林道を約1.5km通った殿野口で左に折れ、山腹の殿野集落に入っていく。集落右奥の竹本谷を直指して車道をたどって行くと、終点で谷は二股となる。中央に村の水源施設が置かれ、その右側の谷に小さな鉄橋が架けられ、関電巡視路の「火の用心」の標示板が置かれている。

ここが唐笠山への登山口であり、柚道は尾根を抱いている。左(山)側は雑木右(谷)側は杉林、間伐材の放置で少し踏み跡がわかりにくい所もあるが、杉林の上辺を登って行けばよい。道が徐々にはつきりしてくると、支尾根の稜線を行くようになる。杉林のなかを右に分岐する作業道を見送り、上部に向かって行くと、突然視界が開けて伐採地に飛び出す。送電柱(110)があり、南方の白六山の展望が広がる。小休憩に適した場所である。

道は送電線に沿ってゆるやかに登っていくが、昔の田畑の名残であろうか灌木

小さな沢を横切ってから道は登りに転じ、支尾根の稜線に出ると左右に分岐する。なお、二つ目の小さな沢が最後の水場である。この分岐を右に折れて支尾根を登って行く。下生えのない落ち葉のクッシュョンのきいた雑木の尾根を、最初は右(奥)側を抱いて行き、支尾根の稜線を乗り越すようになるとスダケが出てくる。間もなく高野辻

高野辻から唐笠山(中央が一番高いピーク)



とカヤトの明るい平坦地となっている。ここを過ぎると道は二つに分岐する。どちらにも木にテープが巻かれ、どちらをとっても登頂でき、時間的には大差はない。

●左への道は、巡視路となっているだけにはつきりしている。尾根の左側山腹を水平に抱いて行くと小さな沢を横切り、次第に下り気味で谷におりて行く。再び

の1005m峰の西の鞍部に飛び出る。
●右への道は、小さな谷に沿って登って行き、小さな沢を横切って右の支尾根に取りつく。この小さな沢が最後の水場となっている。ここも下生えの少ない落ち葉のクッシュョンのきいた雑木の道をたどって、スダケが出てくると稜線が近づく。ほどなく縦走路の1005m峰の東の鞍部に飛び出る。縦走路を左に行くと1005m峰を越えて鞍部にくだれば、先の左からのコースと合流する。

ここから縦走路を西にたどると、左に送電柱(112)への分岐が出てくる。ここが地形図にある山西越であるが、山西側への道は見当たらぬ。なお左の殿野への道は途中の送電柱までで、それ以降は杉林のなかで廃道となっている。山西越を過ぎるとすぐ伐木搬出クレーンが出てきて道は稜線からはずれ、山腹北側の杉林のなかに入っていく。稜線通しに少しやぶを漕いで行ってもよい。杉林のなかの道は間伐材の放置で少しわかりづらい所もあるが、左上部に向かって行けばよい。今までの大木の杉が若木と変わり、狭いのはつきりしてくる。稜線に近づくと突然左に折れ、5m程登れば

稜線に出る。この折曲点には要注意である。

稜線をたどると左から巡視路が合流して、道ははっきりとする。巡視路は山頂近くになると稜線はずれ山頂の南面を捲いていく。稜線との分岐にはテープが付けられている。巡視路を左に見送り、稜線を頂上に向かって、ブッシュのなかの踏み跡を登って行く。

急登が始まるが途中一ヶ所伏採地があり、振り返ると左に大峰主峰の八経ヶ岳のボリュウムのある姿と右にピラミダ的な釈迦ヶ岳の南北両峰が見参する。山頂に近づくとつれづれブッシュも薄くなり、やがて細長い唐笠山頂上の台地に達する。

北側は雑木の二次林、南側は檜植林で展望はよくないが、少し西に行くと木の間越しに行者山と金剛山が望める。3等三角点標石(点名唐笠)がひっそりと佇んでいる。

往復登山の場合は往路を忠実にたどり、山西越の地形図の点線路は入らないことが肝要である。(平成10年3月21日歩く)
▲コースタイム▼
殿野口(30分) 竹本谷水源施設(30分)
送電柱(1時間) 縦走路10055峰西

の鞍部(1時間) 唐笠山(2時間30分) 殿野口

*マイカーの場合、殿野集落入口の道路の折り返し地点に駐車(3〜4台)スペースあり

*道標なし(テープあり)

阪本からのコース

大塔橋を南に渡った阪本バス停を左(東)に行き、すぐの阪本小学校と仏心禅寺への車道を登って行く。仏心禅寺を過ぎるあたりより野鳥聖域となっている。登りつめた車道は学校駐車場が終わる。マイカー駐車の場合は学校の了解を得ておこう。

運動場を横切り、校舎の上の教員宿舎の右側から杉林のなかを歩道がゆるやかに登っている。ここが登山口で、関電巡視路とNHK送信所への管理道路を兼ねており、手入れの行き届いた歩道である。

上部を送電線が横切ると、間もなく送電柱(120)に達する。ここからさらに上部約100mにあるNHK放送施設との間は伐採されていて展望がよい。ここを過ぎると雑木の二次林となって次の

送電柱(119)、さらに上の送電柱(118)ともなるとカヤトの原となり、さらに展望が広がってくる。ここからは檜と杉の植林のなかに入っていくが、よく手入れされた下生えもない道で見通しがきく。しばらく行くと関電の表示板が出てきて突然右に折れ、10分も行くと右下からの作業道が合流する分岐となっている。

この作業道は小代からの地形図の点線路で、関電巡視路に比べて管理が行届いておらず陰うつで展望はなく、わかりにくい箇所もある。下山に利用すると阪本の大塔橋よりかなり南におり立つことになる。

作業道と合流してからNHK放送中継所の白杭が出てくるようになり、次の送



唐笠山頂

電柱(117)を過ぎると尾根の南側を捲くようになる。捲き道をしばらく行くと、いきなり山腹が裸地となっている所に出る。左上部には今までの送電線の他に南方からの送電線の二塔の送電柱が建てられ、またその上の山頂にはNHKの施設も建てられている。ここが行者山(1015)である。巡視路の捲き道に戻って少し行ってみると、落ち葉の積もった石段が出てきて、その上に石積の小さな祠がある。役行者がまつられ、行者山の由来となっている。

行者山の頂上は展望が広がり、北方には栗鞍岳が大きく、その背後には金剛・葛城連山が、また南方は白六山と奥高野の山々が見られる。また木の間越しにこれから登る唐笠山が望める。

唐笠山へは行者山から尾根伝いに行くほうが時間的に短く、ルートも判りやすい。今まで登ってきた巡視路は、唐笠山との稜線の南側山腹を捲いていくが、急登はないものの主稜から派生する支尾根をいくつも捲いているため距離が長い。また、近年発生した横切っている小沢の土砂崩れと風倒木によって道が寸断されているので、利用は避けたほうがよい。

山の本紹介 新刊

「山の扉」



発行 山人舎
・注 涼一著
・発売 サンライズ出版
・定価 1,600円+税

●鈴鹿山麓、近江湖東地方の暮らしの中から見つめる自然と人との邂逅。鄙びた田園の暮らしは一見のどかだが、自然の彩りは実に鮮やかで、折々の季節の音は静寂の中にも力強さを秘めている。古刹そして歴史を秘めた山々を巡る一期一会の旅。山に向かう心とは。(ブックカバーより)

●鈴鹿の山、霊仙山を中心とした歴史の山々と、それにまつわる四方山話を収める山のエッセイ集。

*発売元 サンライズ出版

☎0749(22)0267

*問い合わせ 山人舎

☎0749(45)2458

行者山頂上の東側に付けられたテープの所からブッシュのなかに入ると、踏み跡程度だが縦走路が出てくる。尾根をはずさぬようたどればよい。いったんくたつて小さなコブを越し、次の1062峰との鞍部におり立つ。ここから道は1062峰の左(北)側の植林のなかを捲いている。作業道であるがたどって行く、唐笠山と1062峰との鞍部に達する。この鞍部には行者山で分岐した巡視路も来ているが、先述のごとく下山にも利用しないほうがよい。

鞍部から唐笠山へは、左(北)側は雑木右(南)側は檜植林の境界稜線を登ればよい。途中に伐採地が出てきて北方の展望が得られ、ここを過ぎれば間もなく唐笠山に飛び出る。下山は往路を忠実にたどること。(平成13年2月10日歩く)
▲コースタイム▼

大塔橋(20分) 阪本小学校(1時間40分) 行者山(1時間) 唐笠山(2時間30分) 大塔橋

*行者山と唐笠山間の稜線にはテープは少なく、読図が必要

△地形図▼

2万5千11南日裏・猿谷野水池

一 続・近江側から登る鈴鹿の山々⑩

ロングコースを歩く

水無山・綿向山・奥草山・政子

健脚コース(★★★)

磯部 純

水無山・綿向山を歩く岩野さんの例会は、これまで熊野バス停を基点に滝山林道、文三ハゲから綿向山へ登り水無山西南尾根をくだるか、水無山西南尾根を登って綿向山へ登った後、ブナの木平を経て塩の道峠から熊野へくだるルートであった。

今回紹介するのは平成13年6月の例会で歩いたルートで、水無山・綿向山ばかりでなく、奥草山・政子のピークを踏んで野洲川ダムへくだろうとするロングコースである。このルートは出発点と山をくだった地点が遠く離れているので、置き車が必要になる。

鈴鹿スカイラインの西入口にある「か

もしか荘」に置き車をして、国道477号線を西へ走る。鹿見峠を越え、蔵王ダムの東から北へ入り、水無林道へ左折。送電線をくぐった最初の分岐を右へ登り、砂防ダム下の広場に車を置く。谷は狭く両側から斜面が迫り、どこから登るのかわからないような地点。ここがこのコースの出発点である。もし、この地点がわからなければ、バス停から少し東へ歩いたあたりから直接水無山西南尾根へ取りついてもよい。

砂防ダムの上の谷を少し登り、右手にある小尾根へ取りつく。杉林の急斜面だが、コアジサイが気分を和ませてくれる。尾根にはサンショウウが群生していてその香りが漂ってくる。杉林の向こうにはエゴの花が咲いている。単調な杉林の急斜面の登りと決めつけていただけに、退屈しない取りつきである。

30分程あえぎながら登ると杉林は切れ、それが雑木林に変わると水無山西南尾根。尾根のすぐ下の林には、トリカブトの群生の間にタツナミソウが花を開き、バイケイソウも蕾を付けていた。尾根にはノカンゾウの葉に似たヒオウギの葉もあちこちにある。それらを見ながらゆっくり

綿向山頂の綿向神社奥の院大嵩神社



休憩をとる。何とも言えない安らぎを覚えた。

この尾根を登り、若い檜の植林帯を過ぎるとシロモジの多い二次林へと変わる。時折、エゴやヤマボウシの花も顔を見せてくれる。登るに従い尾根は益々急になり、どこまで登っても山頂へは着かないように思えるほど長い尾根だった。やがて、シロモジの林のなかにブナの



木が目立ちますと斜面もゆるくなり、水無山南峰へと着く。天気が良いければ眼前にそびえ立つ綿向山の勇姿を見ることが出来る。南峰から北峰までの間は短い尾根だが、ヤマボウシ・ベニドウダン・サラサドウダンの花園。その花を見るだけで心が癒され、疲れがとれる。

金明水は登山道からほんの10分ほど下であり、こんな高い所でこんな美味しい水が飲める所はあまりなく、ぜひ水の補給をしておきたい。

山頂から尾根を南へ歩き、傾斜が急になる手前から左のササ斜面をくだる。尾根を一つ左に見

サ斜面をくだると、そこは静かなブナの林。林の境に広場があって、鹿やイノシシが今まで屯していたかのような獣の匂いがぶんぶんしてくる。ここが綿向山に三ヶ所残っているブナ原生林の一つ「ブナの木平」である。一般道からはずれているので、めったに人が来ることがない。山頂北斜面のブナ林に勝るとも劣らない情緒ある林である。

「ブナの木平」からゆるい尾根を東南へ歩き、標高992mのピークから南へ向かう。くだり始めてすぐ、尾根の左に菊ヶ谷源頭のカレ場が迫る。今にも崩れそうなやせたやぶ尾根をくだり終えたときには、思わずホッとため息が出るほどだ。これから先は比較的に楽な尾根下りとなる。足元にはフタリシズカが、目を上げるとタニウツギやヤマボウシの花が目に入る。途中の林が切れた所から振り返ると、綿向山、文三ハゲや水無山が谷を挟んですぐ向こうにそびえ立っている。やがて、杉の急斜面をくだると「塩の道峠」へ出る。この峠は伊勢から根ノ平峠を越えてフジキリ谷の塩津で集積された塩を、大峠を越え熊野や日野へ運ぶのに通過した峠とか。残念ながらこの峠

新ハイキング選書

- 第4巻 一等三角点のすべて** 多摩雪雄 編
改訂2版/上製本/B6判 350頁/定価 1890円 一等三角点の知識をこの一冊に収録
- 第8巻 旅がらすの山** 富田弘平 著
3刷発売中/上製本/B6判 368頁/定価 1835円 内容豊かな紀行文50編を取めた
- 第9巻 一等三角点の名山100** 安藤正義/市川静子/多摩雪雄/富田弘平/松本 浩 共著
3刷発売中/B6判 336頁/定価 1632円 一等三角点100座の紀行・案内文集
- 第13巻 甲斐の山山** 小林経雄 著
改訂2版発売中/B6判 360頁/定価 1680円 山梨県の山と峠を解説した事典的な書
- 第14巻 百歳までの山登り** 富田弘平 著
2刷発売中/上製本/B6判 360頁/定価 1835円 話題豊富な著者の紀行と随想集
- 第15巻 日本300名山ガイド〈東日本編〉** 市川静子/岡田敏夫/岡部紀正/川越はじめ/廣澤和嘉 共著
9版発売中/A5判 320頁/定価 1680円 新ハイキングの精鋭5氏実地踏査のガイド
- 第16巻 日本300名山ガイド〈西日本編〉** 市川静子/岡田敏夫/岡部紀正/川越はじめ/廣澤和嘉 共著
8版発売中/A5判 320頁/定価 1680円 地図・写真・コースタイム入りガイドブック
- 第17巻 城跡ハイキング** 中山権四郎 著
2刷B6判 354頁/定価 1680円 歴史を訪ねる城跡ハイキング。紀行と案内の書
- 第18巻 一等三角点の名山と秘境** 安藤正義/多摩雪雄/富田弘平/松本浩 共著
2刷A5判 340頁/定価 1836円 一等三角点の山100座の登山コースを紹介
- 第19巻 山との出会い** 富田弘平 編
B6判 320頁/定価 1680円 山の随想集。55名が執筆の読物
- 第20巻 一等三角点の山々** 山口ゆき子/横山隆/高柳生雄/川越はじめ/岡村美邦 共著
A5判 310頁/定価 1680円 第9、18巻の山と重複しない80座の登山コースを紹介
- 第21巻 中央線の山を歩く** 藤井寿夫 著
A5判 286頁/定価 1680円 あまり歩かれていない中央線の山107コースの紀行と案内
- 第22巻 阿武隈の山を歩く** 新ハイキング・バンクラブ 著
A5判 201頁/定価 1680円 阿武隈の山115座の紀行とガイド
- 深田久弥の研究** 深田クラブ 編
A5判 387頁/定価 1680円 深田久弥のすべてを丹念に研究した成果を収録
- 田舎ごっこ** 中山権四郎 著
B6判 233頁/定価 1680円 新ハイ掲載の田舎ごっこと蝶々雑記をまとめた、珠玉の読物

発行所 **新ハイキング社**

〒114-0023 東京都北区滝野川7-6-13
電話/Fax 03-3915-8110
振替 00130-9-146915

●価格は消費税込み ●振替でのご注文は送料当社負担



綿向山北斜面のブナの古木

の正式な名前は今に伝わっていない。しかし、その静かな峠の佇みは歴史を感じさせるに十分な趣がある。

この峠から西へくれば熊野に出るが、奥草山へはこの稜線を南へたどる。椴林の斜面を登り一つ目のピークへ。下りにかかる椴林が切れ、綿を付けたようなタンナサワフタギの花に出会う。尾根を進むとシロモジの多い雑木の林と椴の植林帯が交互に現れ、そのなかに咲く花を見ていると飽きることはない。三つ目のピークを越えたコルにはサルナシのツルがあり、秋にはさぞかしたわわに実をつけることだろう。



政子三角点

さらに四つ目の斜面を登って行くと、やがて若い椴の植林尾根へのり、それを登ると標高点8111のピーク。西は全く展望のない椴林のピークである。奥草山へはここから20分程。

奥草山まで来ると、登りはなく下りだけとなる。尾根を東南に10分も歩けば政子の三角点。近くに鶏岩があることからこの三角点の点名は「鶏岩」と付けられている。政子山頂からは鎌ヶ岳が目の前に見えるが、時期によっては夏草が繁り展望は全くなくなる。

下山路は奥草山まで戻り、西南の尾根をくだってもよいが、この日の例会では

三角点峰の南のピークへくだり、そこから東へのびる尾根をくだった。次のピークまでは広い立派な道があったが、ピークで方向を東へ変え、尾根にのると踏み跡は消えてしまう。そのまま尾根をくだり、やがて手入れされた植林尾根に変わると、再び踏み跡が見られる。長い尾根をくだると踏み跡は消えるが、ゆるくなつた尾根の先端でUターンし、南の斜面を西方向へくだる。そのままくだってしまふとダム湖へ落ちる崖になるので注意が必要だ。微かな踏み跡を逃さずくだっていくと小さな尾根にぶつかり、それをくだると野洲川ダムの堤上へとお立ち。

ここからはダムを渡り、車道を歩いて「かもしか荘」へ戻る。

(平成13年6月10日歩く)

▲コースタイム▼

熊野水無林道終点(35分) 水無山西南尾根(35分) 水無山南峰(1時間) 綿向山(10分) ブナの木平(45分) 峠(1時間10分) 奥草山(10分) 政子(50分) 野洲川ダム(30分) かもしか荘

△地形図▽2万5千11土山・日野東部

せせらび

題字・小林玻璃三

8月の末、鹿島槍ヶ岳へ登ってきました。

9年前、扇沢からドシャ降りの雨のなか、ガスで何も見えないうち柏原新道を登りましたが、今回は天候に恵まれ、針の木岳・スバリ岳・赤沢岳・鳴沢岳などが、青空に稜線がくっきりと見られ、針ノ木岳を目指して歩いたときのことが思い出されました。種山山荘で昼食をとった後、爺ヶ岳に向かいました。

次の日、8時に大バノラマ広がる鹿島槍ヶ岳山頂に立ちました。すぐ目の前に後立山連峰、続いて雄々しくそびえ立つ剣岳。4年前に剣岳を登ったときの感動が再び甦ってきました。そして、白馬岳連峰・唐松岳・五竜

岳となつた美しい山々にも再会でき、目を右へ移していくと、遙かかなたに穂高連峰と槍ヶ岳が天を突いています。長年の夢でもあり、一度は登ってみたいと願っている憧れの山々です。今年も実現できませんでしたが、来年はぜひ行ってみたい第一候補の山です。

下山途中、イワヒバリやホシガラスも間近に見られ、雷鳥の親子には三度も出会うことができ、ラッキーな山行でした。

(京都市 前田幸子)

9月上旬、福井の山でクマタカに出会いました。バサバサ……とクマタカが飛び立つと、森全体が大きく震え、林内の景色が

うのは稀なことです。ですから、彼らの足跡とか、食痕や糞などのファイルドサインでその存在を知ることとなります。

冬、雪の積もった野山は、野生動物の息づかいを身近かに感じられる絶好のフィールドです。そんな草原に、今年もスノーシューで出かけてみたいと思います。

(各務原市 鷺見守憲)

9月12日に登った越前大日山は、山頂に二等三角点(1319・6m)があるにもかかわらず、2万5千の地形図「北谷」には山名表記がない。すぐ隣の加賀の大日山と区別するため、頭に「越前」を付けられ気の毒である。

ところが、地形図をよく見ると奇麗な円錐形のように、西・南・東と北の一部に「ガケ(岩)マーク」があり、登山意欲をかき立てられる。下から見ると兜の形に見えて地元では「越前甲」とか「甲山」とか呼ばれているという。文字通り真言密教の本尊である大日如来のまつられていた山だそう。

水量豊かな八反滝の先で駐車

一変してしまつたかのような感動を覚えました。

クマタカに初めて出会ったのは、もう10年前のこと。美濃の舟伏山の山中で、離陸するジャンボ機のように迫りに満ちた姿を茫然と見上げていました。

それから一週間ほど後の伊吹北尾根。今度は、新ハイ例会山行で思いもかけず、ツキノワグマに遭遇しました。日本アルプスや飛騨の山では遭遇してしまいが、北尾根では、これまで数十回歩いている私にも初めての体験でした。

ヤマグリに夢中のクマは、私たち31人も大集団にさえ気づくのが遅れてしまったのでしょげようかと慌てる様子は、気の毒なほどでした。

山で暮らすクマは人間の存在をいち早く察知し、そっと避けて行くのがふつうですから、クマに遭遇したというのは、きわめて幸運なことと言わねばなりません。

野生動物の多くは、夜行性のうえに人間に対する警戒心が強く、山を歩いていて出会うとい

せられた。

何しろほとんどが石段の登りなのである。通常の山道と異なり、石段はマイペースの足運びとはならないし、クッションもないので大変である。対策としてなるべく脇の土道を歩くようにしたのであるが、それでも思うように進めなかった。鳥賀陽夫妻の著書「ゆっくり山旅」における「英彦山一階段の山道には閉口します」を強く実感したのであった。

到達した中岳山頂からは、九重や湯布岳のすばらしい展望を期待したが、残念ながら霞みのために無理だった。

下山は石段を敬遠し、北岳経由で豊前坊へ。しかし、いきなり岩場の厳しい下降があり、杖を先に投げ下ろさねばならないありさま。次は巨倒木による遮り。それらの繰り返しだった。

北岳からの下りも想像以上に厳しい急下降であり、碎石の多い下り道になると滑りやすく、細心の注意が必要だった。後半は石段が始まっております。これも予想外。表参道での登りと違い、曇り空となったこともあり、そ

○新ハイ関西サービスチェーン

<p>名峰・二岐山 小川原 大日山 甲子山 扇沢 柏原 新道 唐松岳 五竜岳 鹿島槍ヶ岳 爺ヶ岳 針ノ木岳 スバリ岳 赤沢岳 鳴沢岳 大菩薩連峰 中岳 北尾根 北岳 南岳 西岳 東岳 南岳 西岳 東岳</p> <p>〒96210621 福島市 大和館 〒02481841 日光市 日観連 〒02481841 日光市 大和館</p>	<p>富士登山・富士五湖 東海池自然歩道 (石巻山・ハリモミ峠) 三郎山の麓</p> <p>〒40110502 山梨県南都留郡山中湖村平野 〒05551651 山梨県南都留郡山中湖村平野</p> <p>大菩薩連峰中岳から北尾根分岐点 扇沢・岩屋谷 東クマタカ 140分 JR中央線山梨駅下車徒歩2分 バス20分 登山口下車徒歩2分 時間外(11月・4月)は 025791215026</p> <p>山小屋 福ちゃん荘 〒40410022 山梨県山梨市上坂原3333 (自宅) 0553133146339 (山小屋) 03301141792115</p> <p>原瀬、平ヶ岳探検と釣りの山小屋 扇沢三山只見国立公園内</p> <p>清四郎 小屋 〒944610000 新潟県北魚沼郡湯沢町湯沢(奥湯山) 0990125518610028 期間外(11月・4月)は 025791215026</p>	<p>ハイカーの宿・池の平温泉 ナガサキロッジ 〒94912100 新潟県中頸城郡妙高高原町池の平温泉 025518612261</p> <p>休館 飲食入浴も歓迎 10名以上マイクروبাসで送迎 箱根仙石原温泉 福 島 館 〒225010631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原139 04601419041</p> <p>四季織りなす乗鞍高原のハイイク 上高地・乗鞍岳へ 冬はスキー けやき造りと味の宿・日観連 温泉旅館 けやき山荘 〒39011500 長野県南安曇郡安曇村乗鞍高原 026319312555</p> <p>さわやか信州 露天風呂 山吹の湯 湯田中温泉 (穂波) 日野屋旅館 〒3810400 長野県下高井郡山ノ内町湯田中温泉穂波 026913313578</p>
---	--	---

れに人に会うこともなく、終始心細さを感じさせられる下山であった。ともあれ、これで日本三彦を訪ねることができてようやく宿願を果たしたことになる。前日に深野馬漢・本郷馬漢などの名勝を訪ねたのも大きい収穫だった。(枚方市 東谷 宏)

9月15日、三重の修験山へ。玄関を一步出ると秋の風がホホに心地よい。昨日までの不安はどこへやら。心は晴れやかで名張駅で会う友の笑顔が頭に浮かんでいた。背に当たるザックの感触、登山靴の軽快な音、久しぶりの山行だ。

姑が痴呆になった。徘徊があったので、24時間目を離せない状態が2ヶ月程続いた。山登りどころか、私の生活すべてが一変してしまった。一日が重くて長い。そんな時、新ハイ66号を受け取った。重荷を抱えたままの、何かを変えたくて、メールでいつも助ましてくれている遠方の友と真ん中で会えるように、この山行に申し込んだ。名張駅から貸切バスに乗り、

川上神社の駐車場で降りる。すぐの大鳥居を潜ると歩幅はいつもの山歩き感覚を取り戻していた。まるで今朝方までの非日常な何も無かったかのように清流も緑も山の精気すべてが五感に心地よい。

登りも下りもポロポロ状態の身体にはいささか応えたが、高宮からの大展望、大洞山・ヒメ根伝いのヒメシヤラのやわらかな葉づれの音が身体を癒やしてくれた。きょうほど幸せを噛みしめながら歩けた山行は今までにあったらうか。

早く送り出してくれた夫に感謝。笑顔で迎えてくれた友に感謝。リーダーさん皆さんに感謝。感謝の素直な(?) 殊勝な一日だった。(生駒市 井上久子)

10月13日、岐阜・滋賀の県境の五箇峠に自然観察会で行った。ここは関ヶ原の戦いで島津藩が敗走した峠として有名。五箇は廃村になって久しい。現在は二軒の家が残るのみである。ちょうど一軒の持ち主が草刈りに来ていて、いろいろと話が聞けた。

近くで密猟の鹿の死体を見つけた。牡で立派な角が付いた頭部もあり、すでに白骨化していた。頭部を持って帰るが家主は「今日も保月(すぐ隣の集落だが廃村)に知り合いが密猟に入っている」と言った。

10月25日、御池岳に入った知人のIさんから「密猟の鹿の死体を見つけた。牡で立派な角が付いていて足から皮から全て肉以外残っていた」と連絡が入り、「登山道のすぐ近くで入れれば見つかるので、角を持ち帰ってほしい」と依頼された。翌日出かけ、頭部を右で切断して持ち帰った。Iさんの庭に埋めて白骨化を待つこととなった。

鹿角が売れるため密猟するのだろうが、今年は5月にも自然死の牡鹿の頭を見つけているので、合計三体を見つけたことになる。(南濃町 山田明男)

10月中旬の休日、春に登り損ねた油日岳を再訪した。美しい松林を抜けて登山口に到着。まだ新しい階段を昇り、せせらぎに沿って歩き出すと、秋丁字・水引・見返草・曙草など、秋の

花が咲き続いていた。ずっと楽な道かと思いきや、稜線に出る手前に、ザレた急登があった。固定ロープがあつて助かったが、高畑山への道を予想した。花崗岩質の山が侵食されつつづけていることを、ここでも実感した。

眺めは、山頂よりも一段下の参籠所のほうがよかったので、そこで早い昼食にした。松原への帰途、奥余野の猿梨を見に行つたが、残念ながら、一つも見つけられなかった。・白妙の花は咲けども猿梨の・実のつだに無きぞ悲しき・猿ならぬ人が摘いだか猿梨を(松原市 蔵木伸人)

10月24日、Nリーダールはか5名で、山上ヶ岳に登った。清浄大橋に駐車し、9時30分出発。女人結界門よりは男子のみに与えられた山道を登る。抜けるような青空とはきょうのよきな日と言うのだろうか。すばらしい晴天に恵まれ、オタスケ水あたりから、黄葉・紅葉が始まり、西沢岩に12時着いた。この素晴らしい全山黄葉・紅

葉の風景を、男性だけが独占するとは……。女性にも解放される日があることを願わずにはいられない。・親岩はさすが足がすくむ。岩頭から上半身突き出すなど、私にはできないことだ。・下山はレンゲ峠からレンゲ坂谷をくだり、清浄大橋15時着。きょうの山行は梯子・階段・岩場・鎖・ガレ場と変化の多いコースだった。・洞川温泉で、疲れと汗を流し、無事下山できたことを感謝しつつ帰途についた。(宇治市 中村英雄)

拝啓 西日本旅客鉄道 いつも、事故のない定時の発着に努められる貴社に心より感謝し、今後とも利用者の便利を図られることを願ってやまなう。

利用者のひとりとして感じることを申し述べ、今後のダイヤ改正に繋げていただきたい。現在、休日の姫路(網干)駅始発の上り新快速は早朝6時30分前後から連続して発車し、たいそう便利になって、琵琶湖北

部の山城まで足をのばすのが可能になった。一方、京都・大阪から西への新快速の始発は、大阪駅午前8時で終着姫路駅到着は9時になる。すぐバスやマイカーに乗り換え、播但国境の山城へ行くのだが、2時間は要する。これでは登山先と行動時間間の制約を受けることになり、残念でならない。・早いに越したことはないが、せめてあと1時間早い始発があれば、東からの山仲間を播磨はもちろん但馬へも案内できる。また、早朝の姫路駅から岡山までの快速電車がなければ、岡山・広島方面への日帰り登山・旅行を制約している等とも考えられる。

これらを実現すれば元氣な熟年パワーの利用者が増えること請け合ひで、ぜひ一考いただきたいものである。(姫路市 須藤岡 様)

山行短歌
8月26日 秘密の花園
純白の神の造りしサギの花
絶滅危惧種道端に咲き
湿原はへびノボラスにサルマメに

標高2000m以上の温泉
湯の丸高野自然休養林
ハイキングにXCSキー
高 峰 温 泉
〒384-0000
長野県小諸市高峰高原
電 02667-2512000

ハイキングに、スキーに、
志賀高原 石の湯ロッジ
バス 熊の湯線平床下車
0269-3412421
東京本社・東京都新宿区新宿3
1-20-15(新丸第2ビル)
御スポートサービス
電 03-33341-0211

御池高原・八方尾根まで車7分
白馬村内全て送迎します
スノーシューと歩くスキー開催
大人たちのベンション
白馬・ヴィンヤルディ
〒399-9301
長野県北安曇郡白馬村喜望原
電話 02661-7217255
http://www.whitehorse-ski.com/

塩の道 千園街道
百八十七体「観音原」
ホテル
白馬ブランドシエ
〒3909-9300
長野県北安曇郡白馬村いわたけ
電 02661-7214452

八ヶ岳南北縦走の中心地
59年秋新館増築完成全館個室
木の香が新しい新浴場大湯宿
オーレン小屋
1泊2食付き 6000円
4月末・11月末開設
〒391-0213
長野市東平27220 小車勇夫
電 02666-721279

北八ヶ岳の登山基地 冬はスキー
JRR長野駅・北八ヶ岳登山口まで
送迎します
長野県 長野市
〒391-0301
長野市北山薬料高野丸平55
13の1
電 02666-6712258

日本百名山の宿
信州戸隠山
森の宿めるへん
高妻山・黒姫山登山口まで送迎
クワン・コースご案内
〒381-4100
長野県戸隠村越水ヶ原
電 0266-25412081

日本唯一の女人禁制の山「大
峰山」百名山の登山口あり
温泉・名水の里
旅館 紀の国屋甚八
1泊2食付 7,000円から
〒638-0431
奈良県吉野郡天川村清川
電 074761410309

（近江八幡市 若野 明）

ミニカキ花にガククビの花
源流にバイクが入り踏み倒す
サギソウの花可憐に咲いて
こは小さな花地別世界
絶滅危惧の桔梗花園
9月24日 カクレグサ
霧深くヒルの綱渡り向平
深い樹林の静寂やぶり
霧深く善住坊のカクレグサ
ミヤマウズラがひっそりと
9月14日 雨乞岳
奥の畑トリカブトとシロヨメナ
大群落が源流に咲き
山並は霞み霞んで重なって
思い出の山空の彼方に
9月22日 三國岳・鳥帽子岳
三國岳三角点峰最高峰
三重遊賀鞍草に裾野を広げ
三國岳鳥帽子岳との稜線は
ブナの巨木と大バノラマが
10月13日 お金明神・鏡子ヶ口
深山の山また山のその奥の
神の警座お金明神
鼻高く横顔リアル口開き
怪石奇崖東を覗み
10月27日 雨乞岳
いにしへの鉱山の跡屋あり
秘境の源流樹林のなかに
生きること一日一生前向きに
四季の流れとともに歩いて

山行短歌
8月25日 湖北金黃岳 白倉岳
嵐去り尾根にたおれし恋しみの
花の名・花の色・花の挽歌
9月1日 大和三輪山
いわくより日輪は立ち昇り
叙事詩歌える山の明け暮れ
9月5日 丹波小金ヶ岳 三岳
君が好きだよ去り逝きぬ山の夏
ざわめく岩場もしずかな森も
9月10日 飛鳥御破裂山
多武峰よ永遠にしまれ永遠に
緑の紋章はろばざるものを
9月18日 美濃至ヶ岳
誰が築きしか頂部へ導くケルン
谷間にけがれる山への祈り
9月22日 越前丈鏡山
北丈より南丈の lindow の色
きれいだ携帯電話に写し撮る
9月23日 台高松塚奥峰
群れ鹿の親子の閃光の目に眠む
しおれる空の夕暮れに死す
10月3日 美濃至ヶ岳
無事を祈らむ養老山とぞ
10月13日 奥秩父乾徳山
スラブ状の岩壁に登れば絶頂に
はるかより空の光がとどく

10月13日 乾徳山国師ヶ原
白樺の丘辺のヒュッテ荒れ果て
燃ゆる岩峰の下ただ静かに
10月14日 奥秩父両神山
美しき峰恋い恋いて魅せられて
連なる岩壁越える風となれ
10月14日 両神山八丁尾根
東岳西岳くさり場がつづきぬ
秋のこの日の劇なる愉悅
（吹田市 木村太郎）

「テイショウソウ」期待通り、
金剛山の花だよりに名前と写真
が出ていました。十年前、始め
て目にしたときは「可愛い花ね」
その後、新ハイの花博士の仕様
方に触発され、草花の存在が気
になるようになりました。
この花に始めて出会ったのは
二上山。岩橋山、御破裂山、ま
た大峰の奥駈け道でも一株目に
しました。そして昨年は金剛山
でも出会えたのです。こんなに
多く咲いているのに、どうして
名前を覚えていただけなのか
しら。もっと積極的に写真を撮っ
て、尋ねればいいものを、五年
もの間、そのうちに、どなたか
が教えてくださるわ。
この花の名前を検索するため

九州の最高峰・日本百名山
宮之浦岳に一番近い宿
屋久島安房登山口
屋久島グリーンホテル
〒899-1433 1
鹿児島県志布志市久安房
099741613021

御在所登山に
愛知山溪谷沢歩きに
山好き仲間が集う宿
朝明茶屋
朝明茶屋
山小屋
〒510-1251
三重県三重郡菟野町十草
059319311789

那岐山麓の滝・奇くに見る男大山
二百名山の水ノ山・上野山とあり
三百名山 那岐山・ふもと
岡山県 那岐山荘
〒708-1307
岡山県岡田郡奈義町高円
086813614154

にパソコンを始めたわけではな
いのですが、4月、金剛山の花
だよりを開いた時から、咲き始
める9月を待ち焦がれてました。
（樺原市 前川和佳子）

山行計画
(1・2月)

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記して
あるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往
復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到
着するように申込み先に申し込みください。電話・F
AXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参
加名簿代その他の資料代実費をいただくことがあります。
山行申し込み後参加できなくなった場合はすぐ係に連絡してくだ
さい。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。
例会の参加者全員に傷害保険がかけられます。出発点呼の際、係
に保険料日額50円と救済対策費日額50円合計100円（夜行日帰りの
場合は2日になり200円）を支出していただきます。
傷害保険特約内容は次の通りです。（安田火災海上保険会社と契約）

死亡・後遺障害保険金額 1000万円
入院保険金 5000円
通院保険金 2500円
保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに
係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。①
ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参す
ることを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を
目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合（詳細は係まで）

（記入例）
（往復ハガキを使用）

山行き申込み書
山行名（正確に記入すること）
期日
住所 〒
氏名
会員番号
（会員でない方は会員外と記入）
電話番号
生年月日
緊急時の連絡先 TEL
（山行中の連絡先を記入）

返信ハガキの宛名欄には、ご自分
分の住所氏名に「様」を必ず記
入しておいてください。

冬期（1・2月）の登山道は
積雪があり、凍結しています。
各山行計画欄に特記してなく
ても、ロングスバット・軽アイ
ゼン・ストックかピッケル・
サングラスなどの雪山を歩く
装備で、また手袋・下着・靴下
は防寒・防湿用のものを、登山
靴は防水してからお出かけく
ださい。

比較・明王堂から登登山
（一般向き）

期日 1月2日 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札
口6時15分 ②京阪電鉄
石坂線松ノ馬場駅9時20
分
コース 松ノ馬場駅 無動坂 明
王堂 桜茶屋 夢見ヶ丘
遊歩山 赤福寺跡 志
賀の大仏 百次古墳 滋
賀里駅（解散15時50分）
費用 約2600円（食料18き
ぶ使用、名古屋から）
地図 2万5千 京都東北部
係 小出良春
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

山行例会の実施について
山行例会は保険を掛けたり、
登山届けを提出しますので、実
施日の7日前までに上記記入例
の通り、必ず往復ハガキで申し
込んでください。人数により前
もって、バスなどをチャーター
する必要もあります。また山で
はいかなる事態が発生するかも、
緊急連絡先など、記載すべき事
項はもれなくご記入ください。
申し込みの返信案内は細目
決まり次第、山行日の10日前頃
からします。早くに申し込みま
れた方はそれまでお待ちください。
定員のある計画は先着順に受
け付けます。
記載のグレードは、常日頃山
歩きに親しんでおられることを
前提にしています。
（初心者向） やさしいコース
（初級向） なたでも歩けます
（一般向） ハイキングの標準コース
（中級向） かなり経験者のコース
（やや健脚向） ・（健脚向） は、
危険な所があり、キツイ登りや
下りが長く続くコースと、ご理
解ください。

比叡山の歴史ある無動坂や明智光秀の城跡があったと言われる遊立山。古代ローマンの跡崇福寺を歩きます。雨天中止。

新年会山行

丹波・櫻ヶ岳(初級向き)
期日 1月4日(日) 日帰り
集合 JR京都駅八条口団体バスのりば8時00分

コース 京都駅(バス) 丹波町南谷一峠 櫻ヶ岳一峠 宮代(バス) るり溪温泉(入浴・新年会・バス)

費用 約8000円(バス・新年会費・入浴代等)

地図 2万5千 村雲

申込み 610-0121

係 村田智俊

城陽市寺田大群10の10

*定員40名(12月28日まで)

本号(64ページ)に紹介の十二支の山、櫻ヶ岳に登り、祝杯を上げます。02年4月にオープンした「るり溪温泉」で汗を流し、14時頃から新年会(松花堂弁当・飲み放題)を開催。山頂での昼食は

持参ください。雨天決行

鈴鹿百山38

期日 1月5日(日) 日帰り
集合 JR福知山駅8時35分

コース 福知山(車) 油日岳登山口 三馬 国岳 鳥越えす峠 三馬 深一油日岳登山口(車)

費用 交通費各自(車代5000円)

地図 2万5千 鈴鹿峠

申込み 503-0535

係 山田明男

高尾秀彦

海津郡南濃町松山62の19

*定員20名

*マイカーの方はその旨記載ください

鈴鹿峠南端の油日岳と三馬の二山を廻ります。*アイゼン必須。雪・小雨決行

鈴鹿を歩く158

期日 1月5日(日) 日帰り
集合 国道306号線愛東町道の駅8時30分

押立山(三千峰)(一般向き)

コース 道の駅(車) 押立山麓 押立山 大峠 百済寺 山麓広場(解散)

費用 交通費各自

地図 2万5千 百済寺

申込み 610-0121

係 岩野 明

山田景三

城陽市寺田大群10の10

*マイカー山行

湖東平野の展望台、湖東三山の一つ百済寺の北東にそびえる押立山(三千峰)に登り、大峠から百済寺へくだります。*アイゼン必須。雨天中止

北摂・有馬富士(初級向き)

期日 1月5日(日) 日帰り

集合 ①JR名古屋駅中央改札口6時55分 ②JR福知山線三田駅10時32分

コース 三田駅(バス) 花山院 有馬富士 福馬大池 新三田駅(解散14時30分)

費用 約2640円(食料18きつ)

地図 2万5千 三田・藍本

申込み 610-0121

係 小出良春

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

全国に300山以上あると言われる「ふるさとの富士」の一山。4等三角点があります。雨天中止

自然観察山行107

スノーシューイング

上穂越・飯縄山と戸隠森林公園(中級向き)

期日 1月11日(日) 13日(月)

集合 前夜発1泊2日

コース 11日 岐阜駅(バス) 戸隠へ

12日(バス) 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

1日 1日 戸隠ス

自然観察山行108
スノーハイキング

費用 約3500円(大垣駅からバスの場合)
地図 2万5千=養老
係 ©登見守康
申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村南町1の19の5 鷺見守康まで
雪の養老山系小倉山でスノーハイキング。アニマルトラッキングも楽しめます。小雨(雪)決行
若狭・天王山(初級向き)
期日 1月18日(日) 日帰り
集合 福井県美浜町役場10時00分
コース 美浜町役場(車)ドライ
プリン千鳥苑→坂尻トンネル上→天王山→ドライ

ブイン千鳥苑(解散)
費用 交通費各自
地図 2万5千=早瀬
係 ©高島博浩
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
コース 新ハイキング関西まで
*マイカー山行
頂上からは荒れる日本海が眼下に一望。*カンジキ必携。
雨(雪)決行

比較・堅田から奥比叡の山
期日 1月19日(日) 日帰り
集合 JR堅田駅9時30分
コース 堅田駅(バス)上御木→横川中堂→仰木峠→小野山→大尾山→南庄(バス)
堅田駅(解散16時30分)
費用 約1500円(京都から)
地図 昭文社「京都北山1」
係 ©妻籠弘子
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
消えゆく堅田の棚田の中を行き、小野山・大尾山など奥比叡を歩きます。*軽アイゼン必携。
雨天中止

鈴鹿を歩く159
鈴北岳・鈴ヶ岳・茶野
(健脚向き)
期日 1月19日(日) 日帰り
集合 国道306号線大君ヶ畑8時30分
コース 大君ヶ畑(車)鞍掛橋→伊勢谷→巡視路→鞍掛尾根→鈴北岳→鈴ヶ岳→茶野→大君ヶ畑(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社「葦仙・伊吹・藤原」
係 ©岩野 明 ○山田登三
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
樹氷と雪原の御池岳北部の山々にアタックします。*軽アイゼン必携。小雨(雪)決行

北摂・三草山(一般向き)
期日 1月19日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札口6時15分/②能勢電鉄山下駅10時20分
コース 山下駅(バス)森上→岐尼神社→オノ神峠→三草山→ゼフィルスの森→大
を歩いてみましょう。雨天中止

嵯神社・日生中央駅(解散)
費用 約3200円(奈良から)
地図 昭文社「北摂の山々」
係 ©小山良春
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
棚田の里山から希少種の蝶の生息するゼフィルスの森を通り、近畿自然歩道から日生中央駅まで歩きます。雨天中止

平日ふれあいハイク36
京都北山
愛宕山南尾根から八丁尾根
期日 1月21日(火) 日帰り
集合 JR山陰線保津駅8時30分
コース 保津駅→南尾根→水尾峯→八丁尾根→右橋→清滝(解散16時頃)
費用 約600円(京都から)
地図 昭文社「京都北山1」
係 ©寺井恒夫 ○川上久堅
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

愛宕山の南尾根を登り、梨ノ木谷東側の八丁尾根をくだります。
*軽アイゼン必携。雨天中止
山科・善羽山から岩間寺
(一般向き)
期日 1月23日(木) 日帰り
集合 京阪大谷駅8時30分
コース 大谷駅→善羽山→千頭岳→大平山→岩間寺(バス)
石山駅(解散16時頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千=京都東海部・瀬田
係 ©金谷 昭
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
大谷駅より東海自然歩道を歩き名利岩間寺にくだる。ややロングコース。雨天中止
三重の山65
南勢・鳥ヶ頂(一般向き)
期日 1月25日(日) 日帰り
集合 伊勢日御道玉城インター出口8時00分
コース 玉城インター出口→相賀浦→鳥ヶ頂→相賀浦(解散

散15時頃

費用 1500円
地図 2万5千=相賀浦・賀浦
係 ©尾崎英五 ○稲垣逸夫
申込み 〒519-0311
鈴鹿市大久保町2065
稲垣逸夫まで
*マイカー山行
局ヶ頂は標高310・8m。しかし、けっこうシンドイ。展望は良。雨天決行
奈良・大和三山(一般向き)
期日 1月26日(日) 日帰り
集合 ①近鉄名古屋駅地下6時25分/②近鉄橿原神宮前駅中央口9時30分
コース 橿原神宮前駅→橿原神宮→畷山→神武天皇陵→本薬師寺跡→香久山→藤原宮跡→耳成山→八木駅(解散15時頃)
費用 約3820円(名古屋から)

京都北山歩き106

電ヶ岳から愛宕山(一般向き)
期日 1月26日(日) 日帰り
集合 JR京都駅正面改札口付近7時30分
コース 京都駅(バス)清滝→空也滝→首無地蔵→電の小屋→電ヶ岳→愛宕山→水尾峯→尾根道→保津駅(解散16時30分)
費用 約1000円(京都から)
地図 昭文社「京都北山1」
係 ©中西信行
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
電ヶ岳に登り、東麓から愛宕山におまわります。*軽アイゼン必携。雨天中止
北山ちよつと歩き41
東山・南禅寺から北白川城跡
(一般向き)
期日 1月29日(木) 日帰り
集合 京阪三条駅高山彦九郎銅像前9時00分
コース 京阪三条駅→山上→南禅寺跡→滝→大文字山分岐

自然観察山行109

池谷・地蔵谷→北白川
城跡・狸谷不動尊→一乗寺下り松(宮本武蔵決闘地・解散15時30分頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千=京都東北郡
係 ©奥山繁三
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
東山の裏側から北白川城跡に行き、狸谷不動尊に一年の無事を祈ります。一乗寺下り松の宮本武蔵の決闘地にくだります。小雨決行
自然観察山行109
三河・石巻山から神石山
(一般向き)
期日 1月31日(日)2月1日(日)
集合 前夜発日帰り
③1日 JRR岐阜駅23時00分
コース ③1日)岐阜駅(バス)石巻神社へ
①1日(バス)石巻神社→石巻山→太知波峠→多米峠→神石山→神石山→春毛湯原(バス)岐阜駅(解散) *湯原に浴衣

費用 約8000円(岐阜駅からバス代等)

地図 2万5千円豊橋・二川
係 ◎鷺見守康
申込み 〒504108228
各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見守康まで
*定員20名

低山ですが、浜名湖展望、富士山展望、天然記念物の石灰岩植物群落、イヌツゲ群落といろいろ楽しめる縦走です。雨(雪)天決行
週末ハイイク46
近江湖東
津田山から長命寺山 (一般向き)

期日 2月1日(日) 日帰り
集合 JR近江八幡駅前長命寺行バスのりば9時00分
コース 近江八幡駅(バス) 渡合
一若宮神社 津田山 長命寺山 長命寺(バス)
ロープウェイ下 八幡山(バスか徒歩) 近江八幡駅(解散)

費用 約13000円(近江八幡駅から)
地図 2万5千円沖島・近江八幡

係 ◎待野東彦
申込み 〒610101211
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

冬の自然休養林を琵琶湖や沖島を眺めながら歩きます。眺望のよい秀吉ゆかりの八幡山をビストンします。雨天中止
奈良・高峰山(初級向き)
期日 2月2日(日) 日帰り
集合 ①近鉄名古屋駅地下6時25分/②近鉄・JR天理駅前バスのりば10時20分
コース 天理駅(バス) 園道福住
一高峰山 米谷町 園道五ヶ谷(バス) 天理駅(解散15時20分)

費用 約5550円(名古屋から)
地図 2万5千円桜井・大和白石
係 ◎小出良春
申込み 〒610101211
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
高峰山は2等三角点の山です。福住に戻るのは時間が早いので

申込み 〒610101211
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
くつわ池園内から天ヶ瀬に抜けるコースがあり、静かな山歩きが楽しめます。途中の六石山は三角点があります。世界遺産の宇治上神社と平等院をゆっくり見学したい人は自由解散です。雨天中止
福州・白山(一般向き)
期日 2月9日(日) 日帰り
集合 JR加古川駅⑤番ホーム8時45分
コース 加古川駅(電車) 西脇市駅(バス) 秋谷 白山 妙見山 門柳(バス) 西脇市駅(電車) 加古川駅(解散16時40分)

費用 約35000円(大垣駅からバスの場合)
地図 5万円大垣
係 ◎鷺見守康
申込み 〒504108228
各務原市蘇原村雨町1の19の5 鷺見守康まで
揖斐の山の前後、標高922.4mの池田山をスローハイキング。池田の森からは南に広がる美濃平野の見晴らしが見事です。アニマルトラッキングもおもしろい。
小雨(雪) 決行

宇治・くつわ池から天ヶ瀬ダム (一般向き)
期日 2月9日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札口6時15分/②JR奈良線宇治駅9時10分
コース 宇治駅(バス) くつわ池 一六石山 一 天ヶ瀬吊橋 一 宇治上神社 一 朝霧橋 一 平等院 一 宇治駅(解散14時15分頃)
費用 約48000円(名古屋からバス)
地図 2万5千円宇治・田辺・笠置山
係 ◎小出良春

五ヶ谷まで歩きます。ゆるやかな下りの里道なので疲れることはないと思います。雨天中止

鈴鹿百山39
高峰山・漢子山・長石山・紅血山 (健康向き)
期日 2月2日(日) 日帰り
集合 JR関駅8時00分
コース 関駅(車) 鈴鹿峠下 高峰山 漢子山 長石山 紅血山 坂下峠 鈴鹿峠下(車) 関駅(解散)

費用 交通費各自(車代5000円)
地図 2万5千円鈴鹿峠・牟山
係 ◎山田明男 ◎高原芳彦
申込み 〒503105335
海津郡南濃町松山621の19 山田明男まで
*定員20名
*マイカーの方はその旨記載ください
鈴鹿峠から南の4山を縦走します。*軽アイゼン必須。
雪・小雨決行

ファミリーハイイク21
河内・金剛山(一般向き)
期日 2月6日(日) 日帰り

集合 近鉄富田林駅8時15分
コース 富田林駅(バス) 建水分神社 鞍取坂道 清原道 出合 一 セト峠 一 国見城跡 一 湧出岳 一 伏見峠 一 千早 一 ロープウェイ前(バス)
富田林駅(解散)

費用 約20000円(近鉄阿倍野橋駅起点)
地図 昭文社「金剛山・岩湧山」
係 ◎木村太郎 ◎中村友昭
申込み 〒610101211
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
重文の建水分神社から樹氷を求めて金剛山へ登る。*軽アイゼン必須。雨天中止

自然観察山行110
美濃・池田山(一般向き)
期日 2月8日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅8時40分
コース 大垣駅(電車) 近鉄池野駅前(タクシー) 霞間ヶ浜 一 池田の森 一 池田山(往復コース) 大垣駅(解散)
*参加人数により貸切バス使用。

費用 約50000円(大阪から)
地図 2万5千円菅野
係 ◎村田智俊
申込み 〒610101211
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
霧水で有名!三峰山へ登ります。アイゼン必須。
雨天中止(雪は決行)

鈴鹿を歩く160
樹木の綿向山(健康向き)
期日 2月9日(日) 日帰り
集合 熊野バス停8時30分
コース 熊野 滝山林道 一文三ハゲ 綿向山 プナの木平 一 P992 峠 一 塚道峠 一 滝山谷 一 熊野(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社「御在所・鎌ヶ岳」
係 ◎岩野 明 ◎山田景三
申込み 〒610101211
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
毎年恒例の真冬の綿向山山行です。*軽アイゼン必須。
小雨(雪) 決行

近畿百名山に登る(第50回)
台高・三峰山(一般向き)
期日 2月11日(日) 日帰り
集合 近鉄橋原駅8時40分
コース 橋原駅(バス) 三峰山登山口 一 登り尾コース 一 三峯峠 一 不動滝コース 一 三峯山登山口 一 不動滝 一 三峰山登山口(バス) 橋原駅(解散16時頃)

費用 約12000円(難波駅から)
地図 昭文社「金剛山・岩湧山」
係 ◎西上和和 ◎中村英雄
申込み 〒610101211
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
山頂からの展望は望めませんが、急登やアップダウンと変化ある尾

金剛・旗尾岳から府庁山 (一般向き)
期日 2月13日(日) 日帰り
集合 南海天見駅9時30分
コース 天見駅 第一鉄塔 旗尾山 第三鉄塔 府庁山 三差路 府庁山 田山 一 クヌギ峠 一 千早口駅(解散16時頃)

費用 約12000円(難波駅から)
地図 昭文社「金剛山・岩湧山」
係 ◎西上和和 ◎中村英雄
申込み 〒610101211
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
山頂からの展望は望めませんが、急登やアップダウンと変化ある尾

根歩きです。*軽アイゼン必携。
雨天中止

若狭・鏡山(初級向き)
期日 2月15日(日) 日帰り
集合 福井県上中町役場9時30分
コース 上中町役場(車)三生野
一鏡山三生野(解散)
費用 交通費各自
地図 2万5千西津
係 ◎高尾仲浩
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

三生野から反駁のある頂上へ
2時間。三万五湖や日本海が一望
できます。*カンジキ必携。
雨(雪) 天決行

湖南・岩屋山(一般向き)
期日 2月16日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札
口7時25分/②JR草津
線甲南駅9時55分
コース 甲南駅(タクシ) 岩尾
山登山口・鳥居寺・岩尾
山・鳥居寺・大沢池・新
田・東海自然歩道・紫香

(バス)近江高島駅(解
散16時40分頃または17時
40分頃)
装備 輪カン・軽アイゼン・ヘッ
ドランプ必携
費用 約2800円(京都駅か
ら)
地図 2万5千北小松
係 昭文社「比良山系」
◎泰 康夫
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

本誌56号参照。積雪状況によっ
ては、交替でラッセルが必要にな
ります。積雪次第でコース変更あ
り。小雨(雪) 決行

奈良
鳥見山から初瀬ダム・長谷寺
(一般向き)
期日 2月23日(日) 日帰り
集合 ①近鉄奈良駅地下7時
25分/②近鉄榛原駅北口
バスのりば10時10分
コース 榛原駅(バス) 玉立橋
背帯寺・鳥見山・鳥見山
公園・高東城跡・初瀬ダ
ム・長谷寺・長谷寺駅
(解散16時頃)

紫雲院(電車) JR貞生
川駅(解散15時43分)
費用 約4100円(名古屋か
ら)

地図 2万5千水口・甲賀
係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
岩尾山は三重・滋賀の県境の山
です。古刹鳥居寺から東海自然歩
道を歩いて紫雲院まで歩か
す。雨天中止

鈴鹿・御池岳で雲と遊ぶ5
(健脚向き)
期日 2月16日(日) 日帰り
集合 ①三岐鉄道西野尻駅8時
35分/②関ヶ原駅8時20
分

コース 各集合駅(車)コグルミ
谷・丸山・奥の平・コグ
ルミ谷(車)各集合駅
費用 交通費各自(車代500・
1000円)
地図 2万5千藤立・竜ヶ岳
係 ◎山田明男 ◎高原芳彦
申込み 〒503-0535
海津郡南濃町松山624の19
山田明男まで

費用 約3610円(名古屋か
ら)
地図 2万5千初瀬
係 ◎小山良春
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
青竜寺から鳥見山のコースは快
適な山道です。長谷寺を見学した
い人は自由解散です。*軽アイゼ
ン必携。雨天中止

鈴鹿を歩く161
雲仙山西南尾根(健脚向き)
期日 2月23日(日) 日帰り
集合 河内線甲津倉登り口広場
8時30分
コース 広場(車)今畑・落合
汗ふき峠・雲仙山・最高
峰・西南尾根・笹峠・今
畑(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社「雲仙・伊吹・
藤原」
係 ◎岩野 明 ◎山田登三
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
毎年恒例の真冬の雲仙山西南尾

*定員20名
*マイカーの方はその旨
記載ください

引き締まった雪原の奥の平を歩
き、ドリネで尻セードをして遊
びましょう。青のドリネは見れ
るでしょうか? 尻セード用の尻
敷きを準備ください。ビニールの
袋等プラスチック製の子供用雪遊
びの尻敷きが最高です。*軽アイ
ゼン必携。小雨(雪) 決行

自然観察山行111
スノーシューイング
北アルプス・上高地と乗鞍高原
(中級向き)
期日 2月21日(日) 23日(日)
前夜発泊2日
集合 (21日) JR岐阜駅23時
00分

コース (21日) 岐阜駅(バス)
平湯へ
(22日) (バス) 平湯
(バス) 釜トンネル入口
大正池・田代池・田代
橋・河童橋・釜トンネル
入口(バス) 乗鞍高原番
所(泊)
(13日) 番所(バス) 休
暇村乗鞍高原・乗鞍自然

根の山行です。山頂のラジヒル
でヒップスキーを楽しみます(21
号44ページ参照)。*軽アイゼン
必携。小雨(雪) 決行

丹波・牛松山(一般向き)
期日 2月23日(日) 日帰り
集合 JR亀岡駅8時40分
コース 亀岡駅・北保津・福生寺
・金刀比羅神社・牛松山
・北尾根分岐・北尾根
分岐・愛宕谷川・神明峰
分岐・明智鉄塔・水尾
分岐・△340・6分
保津駅(解散16時30分
頃)
費用 約1500円(京都から)
地図 2万5千亀岡
係 ◎昭文社「京都北山」
◎村田智俊 ◎奥比呂美
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
丹波富士と呼ばれる秀麗な山。
金刀比羅神社には保津川下りの安
全祈願に2艘が奉納されている。
今回は北尾根から愛宕谷川にいっ
たんくだり、神明峰からの道へ登っ
て明智越を歩き、高瀬山から保津
峡駅まで足をのばす。

公園・休暇村(バス) 岐
阜駅(解散) *帰路に浴
食予定
費用 約29000円(岐阜駅
からバス・宿泊・レンタ
ル代等)

地図 昭文社「乗鞍高原」
係 ◎鷺見守康
申込み 〒504-0828
各務原市藤原村雨町1の
19の5 鷺見守康まで
*定員20名(12月31日ま
で)

スノーシューを使用して雪原ハ
イキング。1日目は釜トンネルか
ら上高地へ。2日目は乗鞍自然園
をハイク。スノーシューはレンタ
ルでだれでも使えます。個人で持
参する場合はハガキに明記くださ
い。雨(雪) 天決行

◎比良を歩く19
蛇谷ヶ峰(やや健脚向き)
期日 2月23日(日) 日帰り
集合 JR近江高島駅8時55分
(58分発行バス乗車)
コース JR近江高島駅(バス)
知・ボフ江ヶ峰・滝谷ノ
頭・蛇谷ヶ峰・P817
村・富坂尾根・富坂口

雨天中止(雪決行)
北山ちよっと歩き42
高塚山から麓・日野山
(一般向き)
期日 2月26日(日) 日帰り
集合 ①JR山科駅8時30分/
②地下鉄醍醐駅9時00分
コース 醍醐駅・長尾天満宮・高
塚山・醍醐山・峰宮・水
屋谷・御雲峠・日野山・
供水峠・醍醐駅(解散16
時頃)
費用 約1000円(大阪から)
地図 2万5千京都東南部
係 ◎奥山繁三
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*集合駅を明記ください
高塚山・日野からの展望はあま
り望めませんが、回峰道は積雪あり、
覗き見場と変化のあるコース
です。下山後、希望者はネネの湯
で疲れをとります。小雨決行

丹波富士と呼ばれる秀麗な山。
金刀比羅神社には保津川下りの安
全祈願に2艘が奉納されている。
今回は北尾根から愛宕谷川にいっ
たんくだり、神明峰からの道へ登っ
て明智越を歩き、高瀬山から保津
峡駅まで足をのばす。

山行報告
(9・10月号)
新ハイキングクラブ誌

西村文男 ○宮下淳一
○福岡 章 ○小出良春(計3名)
養生・俱留登山
(近畿百名山に登る第43回)
9月1日(日) 晴れ

馬場昌盛 角田一江 岩田育士
竹田善美 小谷和子 川田洋子
栗岡孝子 中西信行 ○吳比裕美
○村田智俊 (計30名)
丹波・三岳から小金ヶ岳
(ファミリーハイイク15)

美濃・釜ヶ谷山
(自然観察山行98)
9月7日(日) くもり一時雨
(集合) JR大垣駅8・40(バス)
伊自良湖野球場9・40(乗車)10・
20(バス)奥の院10・45(乗車)11・
20(バス)釜ヶ谷山11・40(乗車)12・
25(バス)釜ヶ谷山11・40(乗車)12・
10(龍神コース)登山口14・15(バス)
伊自良湖野球場14・30(バス)
大野温泉15・15(入浴)16・05
(バス)大垣駅16・35(解散)
登山口には「ヤマヒル多し」の
貼紙。その予告にたがわず猛烈な
攻撃を受けてしまった。それだけ
自然が豊かな証拠だが、参加者の
印象は最悪。釜ヶ谷山の名譽のた
め、いい季節に再行したい。

湖西・箱館山から処女湖
9月1日(日) くもりのち晴れ
(集合) JR近江今津駅10・05(バス)
箱館山ロープウェイ駐
車場登山口10・30(乗車)11・
25(バス)箱館山見晴台11・45(バス)
コース(処女湖)12・20(乗車)12・
50(バス)平池13・05(バス)コース見晴
台14・25(ロープウェイ)箱館山
ロープウェイ下バス停15・00(バス)
近江今津駅15・15(解散)
ロープウェイ駅から自然林の道
を登った。処女湖は水量が少なく
て干上がっている。下山のロープ
ウェイからは、湖北・比良の山々、
琵琶湖の大展望を楽しんだ。
(参加者) 小田桐子 石井恵美子
市野博文 松本博 小原きぬ子
飯田良子 馬籠忠男 村田はる江
荒木光雄 牧和夫 岡本美子
真田明子 原文字 渡辺美代子
山上和代 北川良子 中尾美智子
小野典子 森 晴代 渡合ひろ子

(集合) 近鉄名張駅西口8・30
(バス) 曾爾高原9・30(バス)お
かめ池10・00(バス)10・10(バス)
峠10・20(バス)二本松10・50(バス)
11・00(バス)俱留登山口12・20(乗車)
12・10(バス)三ツ石12・45(バス)西浦峠12・
55(バス)13・05(バス)山姥登山口14・
00(バス)亀山峠14・30(バス)少年自然
の家15・00(バス)曾爾高原15・30(バス)
名張駅16・15(解散)
二本松からの展望はよい。俱
留登山はベンチもあって広いが、
樹林が茂り展望はない。入山料5
00円は高い。西浦峠から池の平
高原を歩いて亀山峠に戻る周回コ
ースを歩いた。ススキは穂が始め
たばかりだった。
(参加者) 佐野信江 澤田高治
谷川俊一 永高律子 渡辺利子
入江武史 山根弘美 中西美也子
森 瑞代 磯野重治 前川和佳子
岩崎健司 辻 行子 桂 久美子
東山登夫 白根洋子 森 美香子
櫻田隆子 蓮井洋子 荻野美紀恵

9月5日(日) 晴れのちくもり
(集合) 新大阪駅7・00(バス)
大タワ8・50(バス)小金ヶ岳9・55(バス)
10・10(バス)大タワ11・00(バス)三岳
12・10(乗車)12・50(バス)火打岩バ
ス停14・15(バス)ささやま荘14・
40(入浴)15・40(バス)新大阪
駅17・50(解散)
バス配車の都合で、小金ヶ岳へ
先に登り三岳を後に登った。岩尾
根を越えてちよっとしたアルペン
気分になり、周囲の山々の展望を
楽しんだ。汗まみれになった体を
温泉でいやすぐ湯途に着いた。
(参加者) 高木忠夫 千葉千枝子
古川正子 吉橋孝次 中澤ちず子
本間昭恵 村上嘉子 田所真直子
藤井益子 中山峰雄 金藤千恵子
柏木孝子 眞田久子 成川みさお
木村 豊 前田一代 光川二美子
須藤信子 若林文夫 森 つる子
岩城豊子 秋葉正人 ○中村友昭
○木村太郎 (計24名)

比良
大津ワングル道から楊梅滝
9月7日(日) くもり一時雨
(集合) JR比良駅9・15(バス)20・
入江武史 東山登夫 竹田勝美
川中 保 岡田豊治 川田洋子
山根弘美 風見瑞子 ○中村美雄
○西上利和 (計21名)

イン谷登山口10・00(バス)雄松山荘道
分岐口10・10(乗車)12・40(乗車)
雨宿り14・00(バス)ヤケ山15・00(バス)
寒風峠15・30(乗車)楊梅滝16・30(バス)北
小松駅17・00(解散)
登り始めと昼食が済んだ頃、雨
に遭った。たいした降りではない
が蒸し暑くて不快だった。少人数
なのでのんびりし、気楽に歩いた。
(参加者) 大和 敏 馬籠忠男
前田栄三 青木一雄 入江武史
山口喜弘 牧 和夫 ○妻籠弘子
(計8名)

20(入浴)16・10(解散)
前夜は焼肉パーティで盛り上がっ
た。釜めし炊き名人が新たに参加
され、おこげのないふくらこ飯
が炊き上がった。予定の周回ル
トを歩き、下山後は新装なった
「比良トピア」で汗を流した。
(参加者) 小谷和子 山縣勝美
長尾一令 角田一江 船木裕巳子
横井 徹 小林 桂 吉植 清
吉本泰之 岩田育士 中嶋日出男
○荻野東彦 (計12名)

台高・白屋岳
9月8日(日) 晴れのち雨
(集合) 近鉄大和上市駅8・55
(バス) 白屋9・40(登山口)10・
35(バス)白倉10・55(バス)大平 白屋岳
12・30(乗車)13・00(バス)郷越
武光橋15・00(バス)大和
上市駅17・00(解散)
登山口の不動明王付近で木材搬
出のため一時足止めをくらひ、登
り始めてから数名が体調を崩した。
山頂に着いたら雨となり、変化あ
る一日だった。
(参加者) 栗橋崇吉 栗橋智子
緒方由子 木村 豊 前川和佳子
永高律子 松村穂子 中尾美智子
岩崎健司 高橋信男 村田はる江
○岩野 明 (計27名)

北摂・大野山
9月8日(日) くもりのち晴れ
(集合) 能勢電鉄日生中央駅10・
20(バス)西郷井沢11・05(バス)
大野山12・20(乗車)13・00(バス)
大野口14・05(バス)27(バス)日生中央
駅15・05(解散)
初級の山なのに多くのガイドブ
ックに紹介されているのは、山が自
然林に包まれているせいなのだろ
う。登山道も広く安心して歩ける
山だった。
(参加者) 小田桐子 柳川常雄
本宮孟夫 若林文夫 松本博
森 瑞代 立川郁夫 石かおる
川上久登 市野博文 飯田良子
兼田幸子 実重正子 渡辺美代子
森澤照子 小森東治 石井恵美子
高田和代 嶋田民彦 須田久子
○宮下淳一 ○小出良春(計28名)

キャンプ&ハイイク
比良・八洲の滝から武奈ヶ岳
(週末ハイイク)
9月7日(日) 8日(日) 1泊2日
(7日) くもり一時雨 (集合)
JR近江高島駅15・30(バス)45(乗車)
ガリバー旅行村16・10(泊)
(8日) くもりのち晴れ ガリバー
旅行村7・45(乗車)の滝8・25(バス)
大樽跡8・40(乗車)貴船の滝9・00(バス)
10(バス)7遍返し流9・40(バス)八雲ヶ
原10・20(バス)イブキノコバ10・
45(バス)武奈ヶ岳11・35(乗車)12・
10(バス)細川越12・35(バス)広谷13・00(バス)
大樽跡14・00(バス)15(バス)ガリバー旅行
村14・40(バス)比良トピア15・

カクレグラ・北峰
(鈴鹿を歩く151)
9月8日(日) くもり
(集合) 藤切谷回林道入口8・30
新林道終点 向平谷8・45(源
流尾根取付)9・40(乗車)10・30(バス)
カクレグラ11・00(北峰)11・15(バス)
カクレグラ11・25(乗車)12・10(バス)
P708(バス)13・10(新林道)14・
10(広場)14・30(解散)
藤切谷で善住坊が信長を迎接し、
失敗して逃げ込んだとも言われて
いるカクレグラは深い霧 稜線に
はミヤマウズラがひっそりと咲い
ていた。山頂は切り開かれている
が、ガスで展望はゼロ。下りの新
ルートは見通しがきかなくて迷っ

9月14日(日) くもり
(集合) JR大垣駅8・40(バス)

美濃・伊吹北尾根
(自然観察山行99)
9月14日(日) くもり
(集合) JR大垣駅8・40(バス)

園見岳 9・50 10・00 飯野平 10・50
 園見岳 11・10 大光山 11・50
 (昼食) 12・30 御座峰 12・55
 飯野平 14・35 御座峰 14・45 一
 又 15・50 (バス) モリモリ村 16・30
 (入浴) 17・00 (バス) 大垣駅
 17・50 (解散)

空は高曇りで絶好の日和。歩き出してもなく、幸運にもクマに遭遇。尾根や藪壁や笹又への下りには秋の花が咲き乱れていた。北尾根では初見の花も数種あった。
 (参加者) 入江武史 岩崎健司 岡本佳子 角田一江 荻野美穂 小谷和子 木村正弘 木村ト代子 小林 桂 澤田高治 小崎由利子 塩原香織 繁田広美 流本由美子 高島頼子 藤原 邦 仲谷好司 夏山春子 西條良彦 原 幸子 前田一代 松井明忠 武藤由美子 松本勝子 宮下淳一 渡辺かつこ 山縣勝美 松田和恵 鳥居信吾
 ◎田中 明 ◎登見守康 (計17名)

越前・鬼ヶ岳
 9月14日(日) ◎高島伸浩
 *参加者なしのため中止しました。
 9月15日(日) くもりのち晴れ

ス) 湯村温泉 15・40 (入浴) 16・30 (バス) 西明石駅 19・55 (解散)
 山頂に近づくにつれガステ、雄大な展望が望めず残念。道の駅で買ったサツマイモを湯村温泉の流湯でふかす。美味しくて大好評だった。
 (参加者) 美村孝治 岡田恵美子 栗橋吉吉 栗橋君子 松上美代子 馬場昌盛 岩崎健司 砂原恵美子 小山 輝 森 理代 仲村久美子 松村輝子 植木敏子 三下須美恵 沖 伸 沖 紀子 島田京子 木村 豊 森本 勝 森本淳子 柳川常雄 島田亮子 中尾美智子 岩城豊子 松尾剛子 前田喜久子 東山澄夫 弘中征男 桂 久美子 山本武臣 山本合子 土井あつ子 岡本佳子 渡辺一雅 中島 隆 八木四郎 岡田豊治 中西信行
 ◎岡田 昇 ◎大和 敏 (計44名)
 ◎古賀慶一
 三國岳・鳥帽子岳
 (鈴鹿を歩く152)
 9月22日(日) くもりのち晴れ
 (集合) 国道306号線百々女鬼橋広場 8・10 (車) 鳴川谷林道終点 8・20 送電線鉄塔 9・30 三

(集合) 近鉄名加駅 9・00 (バス) 川上 栗ノ木分岐 10・10 小尾根 11・30 栗ノ木分岐 12・03 高宮 12・07 (昼食) 12・35 修験堂山 12・47 栗ノ木岳 13・35 45 若宮峠 14・10 20 川上八幡神社 15・45 (バス) 名加駅 17・03 (解散)
 白山谷は水量も多く、また流もたくさんあり、心なごむ山道だった。小尾根を急登すると、コナラ・ミズナラ・ヒメシヤラ・ブナ等の林となった。栗ノ木岳への稜線からは至生の山々、正面には局ヶ岳が美しく見えた。トリカブトの紫色の花も残っており、噂通りの低山のなかの名山だと思った。
 (参加者) 森 晴代 宮村孝次郎 吉藤孝次 蓮井洋子 松上美代子 辻村幸裕 永原佳子 中尾美智子 原 文子 岩田育士 前川和佳子 大村俊子 小田朋子 幸田嘉孝 栗橋吉吉 栗橋君子 岡本美子 巧名生石 井上久子 石田真由美 西原俊弥 西原信子 網本美恵子 徳野重治 村松和子 小林 稔 徳田暢子 加藤元彦 池田 茂 多賀岡一 多賀久子 荒木光雄 棚田隆子 ◎美村孝治 (計35名)
 ◎小出良春

園見尾根分岐 10・00 鞍部送電線鉄塔 11・10 鳥帽子岳 11・50 (昼食) 12・40 三國岳 14・40 三角点 15・00 林道終点 16・05 (解散)
 登りの杉林は蒸し暑くヒルの出迎えを受けたが、稜線にのると爽やかな風と共に随分とすばらしい展望が開けた。鈴鹿では一番と思われる幹回り3・2と2・5のブナの巨木に出会った。
 (参加者) 服部 堯 後藤康幸 小林 稔 山本久雄 奥野太一郎 武村千鶴 磯部 純 大石裕美 金谷 昭 櫻田勝利 石田真由美 高杉 博 永戸鉄治 南 智恵子 谷 久雄 緒方由子 杉山能久 田尾 肇 田尾裕子 武藤由美子 ◎岩野 明 (計21名)

六甲・長峰山(地図参考) 山打越
 9月22日(日) くもりのち晴れ
 (集合) 阪急六甲駅 9・00 登山口 9・45 55 送電線鉄塔 10・20 30 長峰山 11・00 (昼食) 12・40 50 前の辻 14・45 10 橋 16・05 阪急六甲駅 16・35 (解散)
 14人中、地図読み初体験の人が6人多かった。低山を歩きながら

仙ヶ岳(鈴鹿白山34)
 9月15日(日) くもりのち晴れ
 (集合) 石水溪谷林道分岐 8・00 車止め 8・10 宮林野手前広場 8・35 白谷 東西仙ヶ岳の中間尾根 10・40 西仙ヶ岳 10・50 11・00 東仙ヶ岳(仙ノ石) 11・10 (昼食) 12・15 南尾根 12・30 祠 13・15 30 宮林野小屋 14・30 車止め 14・55 15・00 (解散)
 一日中ほとんど曇り空で山頂からの見晴らしもよく、朝の出発を早くしたので余裕をもって一廻りできた。
 (参加者) 山村恭男 伊東喜久男 服部 堯 三上伸夫 伊藤恵美子 西内正弘 深木良雄 吉戸喜久江 藤堂国男 川本 隆 山野志保江 西村文男 丹下由子 南 智恵子 春見重美 鳥居信吾 ◎高原芳彦 ◎山田明男 (計18名)

山科から大文字山・火床
 (北山ちよと歩き37)
 9月18日(日) 晴れ
 (集合) JR山科駅 9・00 05 安祥寺 9・20 第一見晴台 9・40 第二見晴台 10・45 第三見晴台 11・20 (昼食) 12・30 大文字山 三角点 13・30 火床 13・40 銀閣

らコンパスの使い方と地形図の見方を勉強。六甲山には季節外れのフサフサウツギの花が数多く残っていた。
 (参加者) 谷川俊一 河崎妙子 松下和子 高橋重治 高橋由紀子 立川郁夫 山根弘美 梅田久子 川上久堅 中島 章 岩本いすゞ 高藤 隆 澤田惟之 ◎塚元一彦 (計14名)

寺道 14・30 (解散)
 見晴台からは遠くに生駒山、大和葛城山が望まれた。大文字山では磯部さんより三角点、標竿点の説明を聞き、火床では北山の山並、古都の街が展望できた。
 (参加者) 堀田輝子 野々山明美 中村英雄 伊藤淳子 中嶋日出男 市野博文 岡田里子 榎 美奈子 榎 照司 住田源隆 塚本みどり 長岡保江 清水昭三 柳川常雄 速水 保 石原君子 井上田紀晴 舟岡 武 本間 隆 赤松しげみ 渡部和美 白附紀子 加納由紀子 吉藤孝次 磯部 純 小野しげ子 増田龍一 妹尾一正 谷 守 平 幸子 安良岡子 浦上 明 田中善雄 山岸勝雄 角江朝子 竹田善美 小松志信 吉田直一 玉原 一 湯浅康夫 ◎奥山繁三 (計41名)

鳥取東部・福ノ山
 (中国自然歩道2)
 9月22日(日) くもりのち晴れ
 (集合) JR米原駅 7・30 40 (バス) 八束町ふるさと 7・50 11・05 1登山口 11・40 11 9 4 峠 点 12・30 1 峠ノ山 12・50 (昼食) 13・35 畑ヶ平登山口 14・30 (バ

三舞谷道からワサビ峠・中峠・南比良峠 (比良を歩く15)
 9月22日(日) くもりのち晴れ
 (集合) JR堅田駅 8・40 (タクシー) 梅ノ木 9・20 30 第一徒渉地点 10・10 第二徒渉地点 10・45 55 炭焼窯跡 11・23 ワサビ峠 12・00 1 口ノ深谷 12・20 (昼食) 12・50 中峠 13・08 シヤクシコバノ頭 13・16 大橋 14・10 20 南比良峠 14・47 常盤小屋 16・10 比良峠 17・00 (解散)
 歩き始めの登りがけっこうきつく、前半はスローペースだったが後半で挽回し、計画よりやや早めに比良峠へ着きました。
 (参加者) 宮本真幸 宮本悦子 平塚明美 福隅 章 中嶋日出男 山下恒三 蓮井洋子 小山誠次

川戸アイ 鷹果 邦 岡本美千子
長塚重子 徳田暢子 四ノ宮昌子
渡辺美代子 ○稲本芳雄
◎小山良春 (計14名)

大和路ハイク・南山辺の道
9月24日(日) 晴れ

(集合) 近鉄桜井駅9・30→40→
仏教伝来の地9・50→海柘榴市跡
10・05→金屋の石仏10・15→平等
寺10・25→大神社10・35→狹井
神社10・40→玄寶庵10・55→松原
神社11・05→六師・カタヤケン
(相模神社) 11・50(昼食) 12・
30→総行天皇陵12・50→重神天皇
陵13・00→トレイル古墳13・35→
45→長岳寺13・50→中山院寺夜都
伎神社14・15→20→石上神宮14・
45→55→天理教本部15・05→天理
駅15・25(解散)

神話の道を古代を偲びつつ、大
和国原と金剛・生駒の山々を眺め
つつ、心安らぐ一日だった。

(参加者) 中村英雄 木村正弘
中澤成嘉 中澤一恵 石井恵美子
永富律子 森澤照子 中尾美智子
宇野直見 川上久堅 大橋完造
松本忠雄 速水 保 高木 晋
○前川和佳子 ◎亀本廣治 (計16名)

入江武史 田中 明 嶋田幸子
布施清美 磯野重治 堀尻香織
田中善雄 秋田博師 三井敏一
多賀久子 友田 毅 友田美保子
仲谷礼詞 林 弘毅 上野美智子
王篠博子 東山澄夫 小谷和子
○川上久堅 ◎中西信行(計31名)

京都北山・ナベ谷山と井ノ口山
(平日水曜ハイク56)

9月25日(日) 晴れ

(集合) JR京都駅7・30(バス)
花背大布施林道9・10→10・21→
湯涌山10・38→50→ナベ谷峰11・
38→井ノ口山分岐12・48(昼食)
13・30→ナベ谷山13・45→井ノ口
山二角点14・18→井ノ口山分岐14・
25→ナベ谷峰15・10→原地中の町
15・40(バス) 京都駅17・45(解散)
この山城独特の風景と空気を
楽しめた一日でした。

(参加者) 森本幹雄 由田郁代
木村 豊 吉塚孝次 近藤 恭
横井 徹 東山澄夫 千葉千枝子
吳山繁三 渡辺利子 佐々木鉄男
乾 宣夫 山口勝生 中嶋日出男
伊藤渡子 市野博文 松尾麗子
入江武史 荒木光雄 井上由紀晴
奥田則夫 本間繁子 本間 隆
岩城豊子 大谷和子 野里マツ代
中川光郎 小谷和子 堀尻香織
角江朝子 加藤浩一 宮村孝次郎
若林文夫 神 照司 神 美栄子
緒方由子 舟岡 武 山岸勝雄
飯島 啓 武田元可 妹尾一正
和田直樹 角田一江 広田不佐子
安良暢子 浦上 明 山本すま子
細井和子 真田久子 山本千鶴子

小林 桂 白根清子 ○宮下淳一
○美村孝治 ◎小山良春(計32名)

美濃・養老山
(ファミリーハイク16)

10月3日(日) 晴れ
(集合) JR新大塚駅7・00(バ
ス) 養老公園池上駐車場9・45→
三方山11・00→小倉山11・35(昼
食) 12・10→養老山12・25→40→
養老公園池上駐車場14・00(養老
ノ滝見物) 14・30(バス) グリー
ンハイム養老温泉14・40(入浴)
15・40(バス) 新大塚駅18・40
(解散)

菅生幸子 石原君子 ○青木一雄
◎湯浅次男 (計54名)

北アルプス・乗鞍連峰
(自然観察山行100)

9月27日(日) 29日(日)
前夜発1泊2日
(27日) くもり(集合) JR岐
阜駅23・00(バス)
(28日) 雨のちくもり(バス)
野妻峠お助け小屋4・10(朝食)
5・40(バス) 野妻峠入口6・
00→お助け小屋8・10→30(バス)
乗鞍登山「乗鞍岳白雲荘」10・30
(昼食) 12・00→剣ヶ峰13・30→
白雲荘14・30(泊)
(29日) 晴れのちくもり 白雲荘
6・55→南ノ小屋7・25→乗鞍高
原観光センター11・45→12・10
(バス) ジョイフル本ノ木12・45
(入浴・昼食) 14・00(バス) 岐
阜駅16・45(解散)

本降り雨のため野妻峠から剣
ヶ峰を目指すのを断念。代わりに
野妻峠道を歩き、その後バスで登
平へ。午後から強い嵐雨のなか剣
ヶ峰に登頂。翌日は一転して晴れ
曇平から乗鞍高原へくだった。位
ヶ原の見事な紅葉に身を染め、鳥
屋尾根の整然とした針葉樹林で森

台高・浅岳と池木屋山
(週末ハイク43)

10月5日(日) 6日(日) 1泊2日
(5日) 晴れ(集合) 近鉄大和
八木駅8・00→10(バス) 興香肌
峡スミール9・55→10・20→P8
09→11・30(昼食) 12・00→飯
盛山12・35→唐谷登山道分岐13・
10→15→浅岳13・45→14・00→唐
谷分岐14・30→35→唐谷川15・10
→廣合林道終点15・30→35→スミ
ール16・15(泊)
(6日) 晴れのちくもり スミ
ール7・40(バス) 宮の谷駐車場8・
00→05→宮の谷登山口8・20→出
合休憩所9・05→10→高滝9・25
→35→ヘビ滝10・10→35→登山口
11・10→駐車場11・25→35(バス)
スミール11・55(入浴・昼食) 13・
55(バス) 大和八木駅16・00(解散)
(5日) いきなり急登の連続で、
体調不良の1名がクイアアしたが、
唐谷分岐で荷物をデポしたりして
残り全員が山頂に立った。
(6日) 宮の谷泊いを機子をたど
りながら高滝に到着した。水量が
かなり多くて奥の出合まで、二ヶ
所の渡渉は危険と判断し、撤退し
た。スミールで入浴し、予定より
早めに帰着した。

林谷を楽しんだ。
(参加者) 石川 敏 荻野美紀恵
岡田直規 緒方由子 加納由紀子
高津智美 小松志信 北村つねみ
長尾一令 夏山春子 砂原重美子
松村雅子 若松朝子 林 えい子
森本淳子 山縣勝美 安田文美江
武藤由美子 ○村井寿和
◎鷺見守康 (計20名)

鷹村八丁から鴨瀬谷山
(京都北山歩き104)

9月29日(日) くもり
(集合) JR京都駅八条口7・30
→45(バス) 小塚上ノ町9・
05→15→きぬかけ荘分岐9・55→
10・05→ノトバ峠10・45→55→鹿
村八丁11・30(昼食) 12・20→ト
ラゴン峠12・50→13・00→コシキ
峠14・05→45→鴨瀬谷山14・18→大
道→八丁林道→鴨瀬谷口17・00→
25(バス) 京都駅18・30(解散)
コースのほとんどが廃道になり、
特にトチヤナギ谷は荒れていた。
雨上がりのためかヒルが多かった。
(参加者) 吉塚孝次 松上幹雄
宮本真幸 宮本悦子 松本美雄
岩鶴健司 小林 稔 村田はる江
東中次夫 瓜原利明 中嶋日出男
山本京子 西原俊彦 荒木光雄

(参加者) 森 晴代 山縣勝美
蓮井洋子 石川 敏 砂原重美子
宮本真幸 緒方由子 安田文美江
神 伸 緒方由子 加納由紀子
秋田博師 吉塚孝次 猪狩美穂子
島田京子 木村正弘 木村千代子
小松志信 馬場昌盛 入江武史
岩鶴健司 山本京子 美村孝治
小林 桂 加藤元彦 ○瓜原利明
◎狩野東彦 (計27名)

北摂・歌壇山から熊野妙見山

10月6日(日) 晴れのちくもり
(集合) JR亀岡駅9・55→10・
00(バス) 歌壇山登山口10・50→
歌壇山11・32(昼食) 12・10→堀
越峠12・30→妙見奥の院13・00→
本滝寺14・00→妙見山14・37→15・
00→上形尾根→熊野電鉄妙見口駅
16・01(解散)

藤本桂吉 朽名生石 和田貞雄
森田和子 渡谷節枝 白田孝子
若林文夫 近田智子 岩城豊子
◎宮下淳一 ◎小出良春(計23名)

湖北・伊吹山
(近畿百名山に登る第44回)

10月6日(日) 曇り
(集合) J.R.近江長岡駅9・20
(タクシー) ゴンドラのりば9・
40(ゴンドラ) 三谷目高原9・50
10・00―五合目10・20―30―八
合目手前11・20―伊吹山11・45
(昼食) 12・45―三谷目高原13・
50―14・00(ゴンドラ) 14・10―
三ノ宮神社14・20(解散)
八合目までは眺望が広がったが、
山頂付近はガスがかかって何も見
えない。湖北の名山も風が強くて
冷えるので早々に下山した。登山
道がよく整備されていたのでと
も登りやすかった。

(参加者) 福岡 章 桂 久美子
川田洋子 田中善雄 中西美也子
長塚恵子 佐野信江 光川二美子
東山澄夫 佐野信江 森 美香子
谷 守 奥比松美 山崎多恵子
前川久枝 青木一雄 岩本いすゞ
田中華子 川北恵美子
◎安原止勝 ◎村田智俊(計21名)

奈良・大平山・高峰山
10月8日(火) くもり時々雨
(集合) 近鉄榛原駅9・15―20
(タクシー) 自明9・30―40―登
山口9・50―大平山11・25(昼食)
12・10―高峰山12・55―13・00―
唐戸峠13・25―35―天子橋14・00―
10―電線溪谷―電線峠15・15―
1―車道(電線溪谷入口) 15・25―
室津ダム15・40―室津大野駅16・
00(解散)

天候が良くなかったのでコース
を一部変更したが、登山者の少な
い変化に喜んだ(やぶ漕ぎ・岩場・
倒木・沢渡り)道歩き、皆さん
は満足されたと思う。
*私のリーダーとしての最後の例
会となりました。短い期間でした
が無事に山行できましたことは、
偏に参加の方々に並びにサブの前川
和佳子さんに支えてもらったお陰
と、厚くお礼を申し上げます。
(参加者) 木村 豊 荒木光雄
長富洋子 加藤浩二 中村英雄
井本幸子 井藤正昭 高橋智子
下村新一 若林文夫 中尾美恵子
岩本彩子 妹尾正二 松本忠雄
◎前川和佳子 ◎亀本廣治
(計16名)

越前・野見ヶ岳
10月12日(出) ◎高島伸浩
*参加者なしのため中止しました。
上信越・妙高山と火打山
(自然観察山行101)

10月12日(日) 14日(月)
前後夜1泊2日
(12日) 晴れ (集合) 岐阜駅2・
00(バス) 晴れ (バス) 養老温泉5・
15(朝食) 6・30―麻平7・10―
大倉沢7・50―黄金清水9・00―
25―長助池10・10―25―分岐10・
50―妙高山12・25(昼食) 13・30―
1―分岐14・20―乗越15・20―黒沢
池ヒュッテ15・30―茶臼山16・15
―高谷池ヒュッテ16・40(泊)
(14日) 雨のち晴れ 高谷池ヒュッ
テ6・30―天狗ノ庭6・50―ライ
チョウ平7・30―火打山8・00―
20―高谷池ヒュッテ9・30―45―
分岐10・25―黒沢11・40―笹ヶ峰
12・25―35(バス) 杉沢温泉13・
10(浴食) 14・10(バス) 岐阜駅
19・40(解散)

妙高山頂直下の登りは厳しく、
他の登山者の登石で先頭のリーダー
が負傷するアクシデント。快晴の
下、妙高山頂からの展望は抜群。

翌日の火打は一転してガスのため
何も見えなかった。森林限界あた
りのダケカンバがことのほか印象
的で、笹ヶ峰のブナ林の紅葉は
真っ盛りだった。
(参加者) 岡田真規 荻野美紀恵
緒方由子 高津智美 加納由紀子
栗橋聖吉 栗橋吉子 北村つねみ
小松志信 上田久子 中尾美智子
多賀久子 長尾一令 林 えい子
湯浅康夫 森 晴代 森本淳子
◎若松朝子 ◎村井寿和
◎鷲見守康 (計20名)

越前・寛島岳と赤鬼山
10月13日(日) 14日(月) 1泊2日
(13日) 晴れ (集合) 京都駅八
条口7・30(バス) 勝原スキー場
10・50―11・00―リフト終点11・
40―50―ブナ林広場12・30(昼食)
12・50―シヤクナゲ平13・30―荒
島岳14・35―15・00―シヤクナゲ
平15・40―リフト終点16・30―勝
原スキー場17・00―10(バス) 鳩
ヶ湯温泉17・45(泊)
(14日) 晴れ 鳩ヶ湯温泉7・45
―林道登山口8・15―20―グランド
文谷渡渉9・20―30―尾根へ上り
た地点10・30―40―赤鬼山12・00
(朝食) 12・30―小原峰13・15―

小原林道登山口13・45―50(タク
シー) 勝山スキーステーション14・
30(バス) 美山森林温泉をぐる
る亭15・35(入浴) 16・30(バス)
J.R.津津駅19・20(解散)

二山共に抜群の展望。山頂付近
は紅葉真っ盛り。ゆっくり歩いて
急登をこなし、温泉の湯けむりに
大満足の2日間だった。
(参加者) 沖 伸 田中善雄
白田孝子 神野孝允 辻村幸裕
岩田育士 小林 隆 前川和佳子
谷 守 山根英美 武部美香子
本務孟夫 松本 博 森 つと子
古瀬 清 須藤孝子 牧 和夫
川田洋子 馬場智盛 加藤洋計
小林 桂 首藤育子 ◎安原止勝
◎奥比松美 ◎村田智俊(計23名)

平から折立山・蓬萊山
(比良を歩く16)
10月13日(日) 晴れ
(集合) J.R.堅田駅8・40(タク
シー) 平9・15―25―水場9・50
―アラク峠10・03―折立山10・10
―アラク峠10・15―23―樺原山10・
48―53―ホッケ山11・20―25―小
女郎池11・48(昼食) 12・30―蓬
萊山12・54―13・05―金ヶ峠13・
25―登山口14・22―ゴンドラ山麓

駅バス停14・32(解散)―J.R.志
賀駅15・15
天候に恵まれ、蓬萊山からの展
望はますますでした。小学2年生
の最年少全員、光川博史くんが元
気のには驚きました。
(参加者) 谷川俊一 蓮井洋子
田中 明 武部 剛 光川二美子
光川博史 岩崎健司 東山澄夫
磯野重治 押本吉生 辻 行子
白根清子 前田初雄 小山誠次
佐野信江 堀 薫 佐野信江
小谷和子 山口喜弘 伊東ナナ子
中川光郎 ◎宮下淳一
◎桑 康夫 (計23名)

御金明神・鏡ヶヶ口
10月13日(日) 晴れ
(集合) 風越谷林道分岐点7・
50(車) 神崎川林道終点8・10―
神崎川8・17―白滝谷分岐8・40
―天狗池9・20―お金峠10・00
―お金明神10・50―お金峠11・20
―コリカキ場11・30(昼食) 12・
30―鏡ヶヶ口東峰14・10―風越谷
林道14・55―広場15・50(解散)
神崎川は夏の沢下りの思い出い
ばい。深山の神の祭壇、怪石奇塔
の天狗様は眼福続く口を開き東を

覗んでいた。コリカキ場や北谷尻
谷は深い秘境。鏡ヶヶ口に登ると
リンドウの花と大バノラマ。モノ
レールの橋を一気にくだり、ロン
グコースも無事に終わった。
(参加者) 服部 飛 松上美代子
池田繁美 武村十樹 奥野太一郎
木村増彦 櫻田勝利 金谷 昭
本下朝子 原 光一 網本美恵子
福越武敏 杉山能久 谷 久雄
吉岡 仁 友田 毅 友田美保子
佐野光江 山本久雄 ◎山田泰三
◎若野 明 (計21名)

鈴鹿・日本コバ
10月17日(日) 晴れ
(集合) J.R.近江八幡駅8・30
(バス) 如来堂9・40―岩屋11・
20―40―日本コバ12・10(昼食)
12・50―笠松尾根―鷲尾滝14・50
―15・15―水源等車庫15・40(バ
ス) 近江八幡駅17・00(解散)

日本コバは標高のわりには大き
くどっしりとした山。この日は雲
ひとつない秋の空と黄葉の始まり
かけた木立があり、すがすがしく
心弾む思いがあった。笠松尾根は
踏み跡がうすく、テープを探しな
がらそれを頼りにくだった。
(参加者) 吉原次夫 由田郁代
奥田則夫 中込次夫 北村 正
北村 梢 星野正弘 西村耕一
長尾一令 栗橋孝子 竹田善英
石原孝子 神 晴司 藤 美奈子
磯部 純 川崎博文 宮野智樹子
多田陽子 市野博子 宮村孝次郎
本間 隆 本間孝子 堅田美奈子
石田高教 松井明忠 中嶋日出男
山岸勝雄 妹尾正一 岩本彩子

湖北・横山と佐和山
10月13日(日) 晴れ
(集合) J.R.長浜駅9・16―20
(バス) 観音寺前9・50―観音寺
10・05―横山10・40―53―大田11・
36(バス) 長浜駅12・12(電車)
12・30―大田13・15―45
―大田財主大長寿院14・12―米原
駅15・05(解散)
観音寺の山門をくぐる三成就が
秀吉にお茶を三度たてたという古
井戸があった。歴史ある観音寺境
内を通り横山城址に登った。佐和
山からは彦根を見た。
(参加者) 土井隆夫 小椋きぬ子
栗原孝子 轟 邦 岡本美千子

榎木金三 加藤彦彦 細野政也
谷 守 藤井修子 山盛加奈子
菅生幸子 中村英雄 上西信子
佐田次男 ○川上文堅 (計41名)
◎寺井恒夫

飯高・馬ヶ岳 (三重の山63)
10月19日(山) 小雨
(集合) 飯高駅道の駅9・00〜10
(車) 木小屋「無酔座」9・20
1・神社 新登山口9・35 梅の滝
10・10 小峠11・00 馬ヶ岳11・
20 (昼食) 12・00 小峠12・20 旧登山口13・20 無酔座13・30
(お茶休憩・解散)
雨に降られはしたが、特に登りに多かつたトリカブトの葉が身震いするほど鮮やかであった。
(参加者) 平 龍一 平 幸子
水戸鉄治 脇田和洋 市川雄康
高橋正人 新町幸夫 藤井みつゑ
○稲垣逸夫 ○尾崎英五 (計10名)

宮指路岳・入道ヶ岳 (鈴鹿白山35)
10月20日(山) くもりのち雨
(集合) JR山崎駅?・50 (車)
小坂須谷谷駐車場(車) 太右衛門8・35
ヤケケ谷道 東海線10・00
13 宮指路岳10・28 泉境尾根

1 大岩谷頭の大岩11・25 (昼食)
12・00 イワクラ尾根分岐12・15
1 入道ヶ岳奥の宮13・20 入道ヶ岳
三角点13・30 40 池の谷 大石橋15・00 (解散・車) JR山崎駅15・30
午後から雨が降るのわかっていたので、宮指路岳往復の予定で出発するが、昼からも少し持ちこたうので予定ルートを変更した。大岩谷の紅葉がきれいだった。
(参加者) 山村恭男 武藤由美子 母下甲子 吉藤孝次 的場たか子 平塚明美 伊藤重美子
山野志保江 吉戸喜久江
○高原芳彦 ○山田明男 (計11名)

京都北山・大尾山 (地図裏の山行53)
10月20日(山) ◎西上和和
*リッターの都合 及び雨天のため中止しました。
北摂・剣尾山から横尾山
10月20日(山) ◎小出良春
*雨天のため中止しました。

奈良・額井岳
10月20日(山) ◎西上和和
*リッターの都合 及び雨天のため中止しました。

京都北山・頭巾山 (平日水曜ハイック57)
10月23日(山) くもり
(集合) JR京橋駅八条口?・30
(バス) 山森9・40 50 送電塔
10・50 園地尾根11・10 頭巾山
12・15 (昼食) 13・05 上谷分岐
13・15 上谷 山森15・40 55
(バス) 京橋駅17・50 (解散)
バラついては雨も少し歩くとやんでくれた、お目当ての紅葉は三分で残念。谷川の増水も少ないので予定通りと谷をくだることにした。ヌルヌルの丸太橋・大岩・谷道のブッシュと難路を元気に歩いた。王子製紙小屋は形もなくなり一面のブッシュだった。
(参加者) 栗柄君子 松上美代子 宮西和子 森本幹雄 沖 伸 宮崎美智 由田信代 尾崎光子 木村 豊 伊藤渡子 千穂千枝子 近藤孝子 荒木光雄 中嶋日出男 中川光郎 東中次夫 野里マン代 加藤浩二 入江武史 滝本陽公 植木敏子 小谷和子 夏井美代子 本間啓子 本間 隆 松下和子 市野野文 岩本彰子 三須英恵 速水 保田 中善雄 角江初子 藤本桂吉 谷 守 里見緑生 岩城敏子 妹尾一正 山根弘美

西村耕一 呉山三 岩本いすゞ
中村静香 古川裕子 光川二美子
松尾剛子 角田一江 堀尻香織
○青木一雄 ◎湯浅次男 (計49名)

紀北・生石ヶ峰 (ファミリーハイック17)
10月24日(山) 晴れ
(集合) JR海南駅9・00 (バス)
小川宮9・30 大観寺10・15 木動辻10・40 笠石11・45 (昼食)
12・30 生石ヶ峰三角点13・00 生石神社13・20 旧札立跡14・00 1 宮の森14・50 小川宮15・20 (バス) 海南駅15・50 (解散)
生石高原には銀色、生石ヶ峰には金色のススキの穂が秋風に揺れていた。紀州の山々や和歌の浦など360度の展望を楽しんだ。桜の小径では紅葉し始めていた。
(参加者) 吉藤孝次 中澤ちず子 城川満幸 本間昭彦 金澤十恵子 村上嘉子 眞田久子 田所真里子 岩城豊子 柏木幸子 山中あさみ 田中延子 中山雄雄 千葉千枝子 青木一雄 盛 敏子 成川みさお 川上久堅 藤井敏子 中尾美智子 砂原恵美子 ○中村友昭
◎木村太郎 (計23名)

越美・夜叉ヶ池から三周ヶ岳

10月26日(山) くもりのち雨
(自然観察山行102)
(集合) JR大垣駅8・40 (バス)
池ノ又林道終点10・40 夜叉ヶ池
12・20 (昼食) 12・45 三周ヶ岳
13・35 夜叉ヶ池14・55 池ノ又林道終点16・20 35 (バス) 大垣駅18・35 (解散)
夜叉ヶ池への往路は、曇り空ながらいつ見ても素敵なお紅葉と夜叉池の鳥籠を望み、復路はガスを配した幻想の世界だった。三周ヶ岳への道は雨で行進で、濡れたササこきに苦労した。
(参加者) 伊藤 直 大須賀 實 入江武史 近江秀子 沖 伸 中井幸子 長尾一合 桂 久美子 夏山春子 堀田輝子 三浦真左子 宮下淳一 由田信代 安田文美江 奥田則夫 長田葉子 吉戸喜久江 森本真智子 ○岡田直規 (計20名)
◎飯見守康

播磨・笠形山と藤無山 (近畿名山に登る第45回)
10月26日(山) 1泊2日
(26日) 晴れ時々雨 (集合) JR新大阪駅?・40 (バス) 笠形寺駐車場登山口9・40 50 笠形神社10・30 40 笠ノ丸11・30 35 笠形山12・00 (昼食) 12・45 分岐鞍部12・55 尾の巻光石14・00 グリーンエコー笠形14・20 1

30 (バス) フォレストステーション波賀「東山温泉マイブルプラザ」16・00 (泊)
(27日) 晴れ フォレストステーション波賀?・40 (バス) 志倉の駐車場8・50 9・00 林道分岐9・20 林道終点取付点9・40 50 尾根手前展望地10・30 35 藤無山11・00 (昼食) 11・45 大屋スキー場「若杉高原温泉スパハウス」13・00 (入浴) 14・00 (バス) 大観駅17・20 (解散)
二山共に360度の大展望を堪能した。志倉からの藤無山へのコースは須磨岡さんに案内してもらったが、尾根への登りは急傾斜で、ササをつかみながら登った。「フォレストステーション波賀」は素敵なお宿舎で、温泉も料理も最高だった。
(参加者) 小谷和子 堀尻香織 吉藤孝次 金森剛子 宮西和子 青木一雄 角田一江 佐野信江 小林 桂 河崎妙子 呉比呂美 松尾剛子 三井敏一 武部美美子 川田洋子 仲谷礼司 *小林豊子 *三輪裕子 *須磨岡 輯
○安倉正勝 ◎村田智俊 *27日のみ参加 (計21名)

静岡・秋葉山

10月27日(山) 晴れ
(集合) JR名古屋駅?・10 20 (電車) 遠州鉄道西鹿島駅9・32 47 (バス) 西川10・30 秋葉山10・40 白尾尾高12・37 秋葉山13・05 (昼食) 13・50 秋葉寺14・10 信濃川?・25 秋葉寺13・33 (バス) 西鹿島駅16・24 (解散・電車) 名古屋駅
秋葉山の登路で東海自然歩道を今週で六度目という大阪の10人グループに会った。自然のなかで遊べるっていいなあ!と思った。
(参加者) 朽名生石 吉戸喜久江 藤崎洗石 石原順次 渡辺美代子 水谷陽子 ○藤原 邦 (計8名)
◎小出良春

閉る最新ルート (鈴鹿を歩く154)
10月27日(山) 晴れ
(集合) 藤切谷旧林道入口8・30 1 シェアの木9・45 向山鉱山跡10・20 1 事務所所蔵庫10・25 1 炊焼コバ11・00 猪ノ子の頭11・25 1 雨乞岳11・50 (昼食) 12・45 1 雨乞岳12・55 奥の畑跡13・10 1 奥の畑谷13・25 1 板地蔵15・00 1 旧林道入口16・00 (解散)

向山登山の廃屋からの急登1時間、紅葉のなか木枯しの吹く猪ノ子の頭の大バノラマ。雨乞岳は人がいっぱい。秋の清水ノ頭と綿向山の絶景を見ながらくだった。

- (参加者) 武村千鶴 大石啓美 小林 隆 池田繁美 樫田勝一 木下朝子 高杉 博 原 光一 原 幸子 谷 守 高原芳彦 緒方由子 池田隆一 光川二美子 谷 久雄 神野孝允 柴田小夜子 安田良剛 細野欽也 的場たか子 杉山健久 今井武司 石田眞由美 水戸鉄治 水谷俊之 服部 堯 ○山田景三 ◎若野 明 (計27名)

兵庫岡山県境・駒の尾山 (中国自然歩道3)

- 10月27日(日) くもり時々晴れ
(集合) JR西明石駅7:40~50
(バス) 駒の尾山登山口10・10・20
大滝峠11・05 駒の尾山11・35 (昼食) 12・20 船木山13・10 後山13・35 おこしき山14・15 松の木公園15・50 16・05 (バス) 姫路駅18:00 (解散)
駒の尾山頂は北西の風が強く、また駒木山から後山にかけては粉雪が舞った。紅葉は美しかった。(参加者) 岩城豊子 松上美代子

新ハイキングクラブ関西入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西の山」(隔月刊・年6号発行)の定期購読者を中心にしたハイキングの集いです。
この雑誌は紀行文やコースガイドなどで、関西のハイキングコースや山の情報を発信しています。山の知識を深め、健康な身体づくり、自然のなかを歩く喜びをとくに広めましょう。
「新ハイキングクラブ」は昭和25年発足以来、東京を中心に50年間余、好評のうちに活動しています。関西は平成3年発足で12年目に入りますが、すでにたくさんの方々が活動しています。
会員は当会の山行例会に優先して参加できます。この山行例会を通じて正しい山歩きを、楽しい山仲間たちと味わいませんか。
リーダー(※)はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買って茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。
会員には「新ハイキング関西の山」を毎月お送りします。
四季の自然に触れながら歩き、

- 栗橋崇吉 栗橋君子 宮下淳一 上田久子 小山 輝 森本 勝 森本淳子 岩崎健司 森 瑞代 原 文子 木村 豊 前田喜久子 森本幹雄 東山淳夫 宮崎英智 馬籠忠男 尾崎光子 大須賀 實 中島 隆 多賀久子 迫 惠美子 西原俊弥 西原孝子 土井あつ子 竹田博美 柳川常雄 野里マツ代 秋田楠師 渡辺一雅 田所眞里子 美村孝治 眞田久子 砂原恵美子 堀越武敏 中西信行 ○岡田 昇 ○大和 絃 ○八木四郎 ◎古賀慶二 (計41名)

京都東山 將軍塚から清水寺・東福寺

- 10月30日(日) 晴れ
(集合) 祇園八坂神社石段前9:00
知恩院1 將軍塚10・15 清水寺10・45 炭谷五条道石 東山テニス場前11・40 (昼食) 13・00 稲荷山13・30 四辻貫明台14・00 稲荷大社本堂14・45 京阪東福寺駅15・20 (解散)
紅葉には早かったが、知恩院・清水寺では観光客にまじって古都の秋を楽しんだ。わが国最大の銅鑪が知恩院にあり、その大きさに

- 驚いた。稲荷山からは生駒山や大阪のビル街まで展望できた。
(参加者) 吉藤孝次 井上由紀晴 本間 隆 本間孝子 砂津達雄 速水 保 市野博文 谷 守 松尾麗子 辻 富子 野々山明美 小川晴美 岡田里子 中嶋日出男 稲田孝子 長岡保江 曾根ひろ子 舟岡 武 中村 保 小野しげ子 中村英雄 和田直樹 波多野恵子 石原君子 妹尾一正 小谷和子 竹田善英 ◎呉山繁三 (計28名)

山陰・森山三座と大山 (週末ハイイク44)

- 11月1日(日) 夜3日(日) 前後夜1泊2日
(集合) JR京都駅八条口22・25 (バス) 森山へ
(2日) くもりの晴れ一時雪
(バス) 森山高原SA1・55 (飯取) 朝食 6・40 (バス) 登山口 6・50 P1030・8時 8・30 1 槍ヶ峯 8・45 1 森山 9・25 1 中森山 10・35 (昼食) 11・10 1 フングリ峠 11・50 1 下森山 13・00 1 雲原 13・50 1 大挾峠 14・20 1 40 (バス) 関金温泉旅館(泊)
(3日) 雪 関金温泉7:00 (バス) 下山キャンプ場駐車場8:05

○新入会員(定期購読者)紹介

- 新しいお仲間のみなさんです。
会員番号4754番から4779番まで
【愛知】 中川美子
【三重】 榎本 誠 玉井まり子
久保孝司
【滋賀】 津野雅弘 石原ひさ子
菅生 成 杉本昌士 堀部文子
菅生 成 小林博子 井西洋次郎
田坂育子 網 徳保 西 洋美
氏家康夫 朝倉松雄 藤田ちどり
西原辰夫
【奈良】 川俣富子 森 勝
【和歌山】 太田裕幸
【兵庫】 中里浩明 宮内長幸
早川和男
【広島】 天岡 進
【山口】 小倉文夫 (26名)

67号(晩秋) 66ページ中段18行目「林道入口の基地の……」は「林道入口の基地の……」が正しい。
67号(晩秋) 67ページ中段終わりから三行目「鳥帽子岳から茂里の尾根」は「鳥帽子岳から幾里の尾根」が正しい。
67号(晩秋) 86ページ一段12行目「その日のうちに滑次まで……」は「その日のうちに徳次まで……」が正しい。
(編集室)

66号(初秋) 60ページ下段5行目「これが戦国特有の」は「これが我が国特有の」が正しい。
67号(晩秋) 54ページの「楯尾上塚要図」は「日本城郭大系10」(村田修三監修)の310頁より引用複製したものです。ここに改めてお断わります。